

ESMPRO/JMSS Ver7.1 開発キット JAPI

ユーザーズマニュアル

は し が き

本書は、ESMPRO/JMSS 開発キット JAPI (以降 JAPI と称します)で提供している API について説明しています。JAPI を利用すると、Visual C++ 等で作成したアプリケーションから、JMSS で監視しているジョブの制御等を行うことができます。

本書の構成は、次のとおりです。

章	タイトル	内容
1	概要	JAPI の概要について
2	Visual C# .NET 用 API リファレンス	Visual C# .NET 用 API リファレンス
3	Visual Basic .NET 用 API リファレンス	Visual Basic .NET 用 API リファレンス
4	Visual C++ 用 API リファレンス	Visual C++ 用 API リファレンス
5	Visual Basic 用 API リファレンス	Visual Basic 用 API リファレンス
6	COBOL85 用 API リファレンス	COBOL85 用 API リファレンス
7	エラーコード一覧	API で返却されるエラーコードについて
8	互換性留意事項	旧バージョンとの互換性について
9	ホスト連携機能	ホスト連携機能について

なお、セットアップ方法については、セットアップカードを参照してください。

2009年 1月 初版
2013年 3月 2版
2017年 5月 3版

備考

- (1) 本書は Windows Server® 2003、Windows Server® 2003 R2、Windows Server® 2008、Windows Server® 2008 R2、Windows Server® 2012、Windows Server® 2012 R2、Windows® XP、Windows Vista®、Windows® 7、Windows® 8、Windows® 8.1、Windows® 10 に対応しています。

- (2) Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Visual Basic、Visual C#、Visual C++、.NET Framework は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

JMSS は日本電気株式会社の登録商標です。

その他の会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

目 次

第1章 概要	1
1.1 JAPI とは	1
1.2 開発プラットフォーム	1
1.3 提供 API 群	1
1.4 製品構成	2
1.5 ユーザ AP 起動時に必要なファイル	3
1.6 JAPI 使用時の注意事項	3
第2章 Visual C# .NET 用 API リファレンス	7
2.1 API 一覧	7
2.2 ジョブ制御 API	8
2.3 イベント処理 API	15
2.4 ジョブキュー参照 API	17
2.5 アラート通報 API	19
2.6 構造体クラス	20
第3章 Visual Basic .NET 用 API リファレンス	29
3.1 API 一覧	29
3.2 ジョブ制御 API	30
3.3 イベント処理 API	37
3.4 ジョブキュー参照 API	40
3.5 アラート通報 API	42
3.6 構造体クラス	43
第4章 Visual C++用 API リファレンス	51
4.1 API 一覧	51
4.2 ジョブ制御 API	52
4.3 イベント処理 API	59
4.4 ジョブキュー参照 API	62
4.5 アラート通報 API	64
4.6 構造体	65
第5章 Visual Basic 用 API リファレンス	73
5.1 API 一覧	73
5.2 ジョブ制御 API	74
5.3 イベント処理 API	82

5.4 ジョブキュー参照 API	85
5.5 アラート通報 API.....	87
5.6 データ定義型.....	88
第6章 COBOL85 用 API リファレンス.....	97
6.1 API 一覧	97
6.2 ジョブ制御 API.....	98
6.3 イベント処理 API.....	107
6.4 ジョブキュー参照 API	111
6.5 アラート通報 API.....	114
6.6 集団項目	116
第7章 コード一覧.....	125
7.1 エラーコード	125
7.2 その他定数	128
第8章 互換性留意事項.....	131
8.1 旧バージョンの開発キット JAPI との互換.....	131
第9章 ホスト連携機能	133
9.1 ホスト連携機能とは	133
9.2 ホストからのジョブ投入要求処理の概要.....	133
9.3 投入要求の準備	134
9.4 ホストからのジョブ投入要求方法	136

第 1 章 概要

1.1 JAPI とは

JAPI (JMSS Application Program Interface) は、ESMPRO/JMSS のジョブ運用管理機能をユーザアプリケーションから利用するためのアプリケーションプログラムインタフェースです。

1.2 開発プラットフォーム

JAPI では、次の開発プラットフォームにおいて、各々 4 つに大別される API(機能)群を提供しています。

• Visual C# .NET	.NET Framework 1.1 以降に対応しています。
• Visual Basic .NET	.NET Framework 1.1 以降に対応しています。
• Visual C++	Version 6.0 以降に対応しています。
• Visual Basic	Version 6.0 以降に対応しています。
• COBOL85	COBOL85 Pro Version 8.0 以降に対応しています。

1.3 提供 API 群

• ジョブ制御 API	ジョブ制御を行う API を提供しています。
• イベント処理 API	イベント送信、受信を行う API を提供しています。
• ジョブキュー参照 API	ジョブキューの参照を行う API を提供しています。
• アラート通報 API	イベントログや ESMPRO/ServerManager、ページャにアラートを通報する API を提供しています(Windows XP、Windows Vista 上では使用できません)。

1.4 製品構成

JAPI

— BIN	
— JAPI.DLL	JAPI ダイナミックリンクライブラリファイル (JMSS インストールディレクトリにもコピーされます)
— JapiDotNet.Interop.dll	JAPI .NET アセンブリ
— JAPI.HLP	JAPI オンラインヘルプ
— INCLUDE	
— JMSS.H	Visual C++用のヘッダファイル
— JAPI.BAS	Visual Basic 用宣言ファイル
— JAPI.COBI	COBOL85 用 COPY ライブラリファイル
— LIB	
— JAPI.LIB	インポートライブラリファイル
— SYMBOL	
— JAPI.PDB	JAPI.DLL プログラムデータベース
— JapiDotNet.Interop.pdb	JAPI .NET アセンブリプログラムデータベース
— JMSSDVSV.PDB	Jdriven サービス プログラムデータベース
— SAMPLE	
— VC	Visual C++用のサンプルディレクトリ
— VB	Visual Basic 用のサンプルディレクトリ
— COBOL85	COBOL85 用のサンプルディレクトリ
— CSDotNet	Visual C# .NET 用のサンプルディレクトリ
— VBDotNet	Visual Basic .NET 用のサンプルディレクトリ
— SETJAPI.BAT	JAPI 環境設定バッチファイル
— JAPI.TXT	追加説明
— JAPIM_E71.pdf	ユーザーズマニュアル

1.5 ユーザ AP 起動時に必要なファイル

JAPI を使用したユーザアプリケーションを実行するには、JAPI.DLL が必要です。

JMSS クライアントで起動する場合は、パスの通っているディレクトリにコピーしてください。

Visual Basic .NET/Visual C# .NET で作成されたユーザアプリケーションを実行するには、JapiDotNet.Interop.dll も必要です。

注意) JAPI.DLL/JapiDotNet.Interop.dll は、ひとつの JMSS サーバおよびその JMSS サーバに関連付いている稼働マシン・JMSS クライアント内にのみ配布可能となっています。JMSS サーバが複数ある場合には JMSS サーバ毎に本製品の購入が必要となります。

1.6 JAPI 使用時の注意事項

(1) Visual Basic .NET/Visual C# .NET で JAPI を使用する場合

Visual Basic .NET/Visual C# .NET での JAPI のアクセスを容易にするために、ラッパー DLL(JapiDotNet.Interop.dll)を提供しています。

Visual Basic .NET/Visual C# .NET では、作成したプログラムは JapiDotNet.Interop.dll 内のクラスを利用してプログラミングします。

Visual Basic .NET/Visual C# .NET で作成したプログラムから JAPI の関数を呼び出す場合、次の設定を行ってください。

- ① プロジェクトの参照設定を右クリックし、「参照の追加(R)...」にて[.NET]タブから「JMSS JAPI .NET Wrapper Class」を追加します。

(2) Visual C++ で JAPI を使用する場合

Visual C++ で作成したプログラムから JAPI の関数を呼び出す場合、次の設定を行ってください。

- ① JAPI の関数を使用するソースファイルに

```
#include "JMSS.H"
```

の行を追加します。

- ② "JMSS.H"をプロジェクトファイルと同じディレクトリか、環境変数 "include"に設定されているディレクトリの下にコピーします。

または"JMSS.H"が格納されているディレクトリを環境変数"include"に設定します。

- ③ "JAPI.LIB"をプロジェクトファイルに追加します。

(3) Visual Basic で JAPI を使用する場合

Visual Basic で作成したプログラムから JAPI の関数を呼び出す場合、次の設定を行ってください。

①"JAPI.BAS"をプロジェクトファイルに追加します。

(4) COBOL85 で JAPI を使用する場合

COBOL85 で作成したプログラムから JAPI の関数を呼び出す場合、次の設定を行ってください。

①JAPI の関数を使用するソースファイルの

DATA DIVISION.

WORKING-STORAGE SECTION.

に

COPY JAPI

の行を追加します。

②"JAPI.LIB"をリンクするように指定します。

(5) ジョブキュー一覧ダイアログを表示する非ウィンドウプログラムについて

ジョブキュー一覧ダイアログを表示する非ウィンドウ(コンソール)プログラムを投入した場合、キュー一覧ダイアログが表示されない場合があります。この場合、ウィンドウ系プログラムとして作成するか投入しないで使用してください。

(6) .NET アセンブリをネットワーク経由で実行するには

.NET アセンブリをネットワーク経由で実行するとエラーが発生します。これは、デフォルトのセキュリティがネットワーク経由でのアクセスを許可していないためですので、次の設定を行ってください。

①管理ツール→.NET Configuration のランタイムセキュリティポリシー→「アセンブリの信頼度を上げる」を選択し、該当アセンブリの信頼度を上げます。

※.NET Framework1.1 の場合の例です。

詳細は.NET Framework SDK ドキュメントを参照してください。

(7) JmssGetJobStatusEx()に関して

JmssGetJobStatusEx()において、ジョブ情報構造体クラスの RepeatEndTime (繰り返し実行終了時刻) は正しい値が返却されず、Visual C++ では「0」、Visual Basic .NET や Visual C# .NET では UTC の「1970/1/1 0:00:00」となります。

第2章 Visual C# .NET 用 API リファレンス

2.1 API 一覧

○ジョブ制御 API

JmssThrowJobEx	指定ジョブの投入を行います。
JmssWaitJobExit	指定ジョブの終了待ちを行います。
JmssGetJobStatusEx	指定のジョブ状態を取得します。
JmssControlJob	指定ジョブの実行制御(強制終了、一時停止、再開、停止、継続)を行います。
JmssGetChildJobList	指定条件で指定ジョブから派生したジョブのジョブ番号一覧を取得します。
JmssCurrentJobNo	自ジョブ番号を取得します。

○イベント処理 API

JmssSendEventEx	指定 JMSS サーバの指定ジョブキューにイベントを送信します。
JmssReceiveEvent	指定イベントの受信待ち合わせを行います。

○ジョブキュー参照 API

JmssDispQueueDialog	ジョブキュー名の一覧ダイアログボックスを表示します。
JmssGetJobQueue	指定したジョブキューの情報を取得します。

○アラート通報 API

JmssReportEvent	ESMPRO マネージャ／ページャにアラートを通報します。
-----------------	-------------------------------

○構造体クラス

JMSSJOBTHROWINFOEX	ジョブ投入情報構造体クラス
JMSSJOBINFOEX	ジョブ情報構造体クラス
JMSSJOBQINFO	ジョブキュー情報構造体クラス

2.2 ジョブ制御 API

①JmssThrowJobEx

public static int JmssThrowJobEx(*ServerName*, *JmssJobThrowInfoEx*, *JobNo*)

String	<i>ServerName</i>	/* 本バージョンでは使用されません */
ref JMSSJOBTHROWINFOEX	<i>JmssJobThrowInfoEx</i>	/* ジョブ投入情報構造体*/
ref int	<i>JobNo</i>	/* 投入ジョブ番号(返却) */

JmssThrowJobEx 関数は、ジョブ投入情報構造体クラス JMSSJOBTHROWINFOEX で指定したジョブの投入を行います。

パラメータ

ServerName

JmssJobThrowInfoEx

JobNo

説明

本バージョンでは使用されません。必ず NULL を指定してください。

ジョブ投入情報構造体 JMSSJOBTHROWINFOEX を指定します。

ジョブ投入が成功した場合に通知される投入ジョブ番号を格納する変数を指定します。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NOT_ENOUGH_MEMORY
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_THROW
JMSS_QUEUE_NOTFOUND
JMSS_QUEUE_FULL
JMSS_QUEUE_CLOSED
JMSS_PARENTJOB_TERMINATE
JMSS_POWEROFF_TERMINATE
JMSS_EXCLUSIVE_ERROR
JMSS_BADPATH
JMSS_REJECT_REQUEST

②JmssWaitJobExit

public static int JmssWaitJobExit(*ServerName, JobNo, JmssJobInfo, dwTimeOut*)

String	<i>ServerName</i>	/* 本バージョンでは使用されません */
int	<i>JobNo</i>	/* ジョブ番号 */
ref JMSSJOBINFO	<i>JmssJobInfo</i>	/* 本バージョンでは使用されません */
int	<i>TimeOut</i>	/* タイムアウト時間 */

JmssWaitJobExit 関数は、JobNo で指定したジョブ番号のジョブが終了するまで待ち合わせを行います。すでに指定ジョブが終了している場合には、本関数はすぐに正常終了します。また、タイムアウト時間内にジョブが終了しなかった場合には、エラー終了します。

パラメータ

説明

ServerName	本バージョンでは使用されません。必ず NULL を指定してください。
JobNo	待ち合わせを行うジョブのジョブ番号を指定します。
JmssJobInfo	本バージョンでは使用されません。必ず NULL を指定してください。
TimeOut	タイムアウト時間をミリ秒単位で指定します。 0 を指定した場合は、すぐタイムアウトエラーで終了します。 INFINITE(0xffffffff)を指定した場合は、ジョブが終了するまで無限に待ち続けます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_STOP
JMSS_NO_JOB
JMSS_NO_JOBNO
JMSS_TIMEOUT

③JmssGetJobStatusEx

public static int JmssGetJobStatusEx(*ServerName*, *JobNo*, *JmssJobInfoEx*)

String	<i>ServerName</i>	/* 本バージョンでは使用されません */
int	<i>JobNo</i>	/* ジョブ番号 */
ref JMSSJOBINFOEX	<i>JmssJobInfoEx</i>	/* ジョブ情報構造体*/

JmssGetJobStatusEx 関数は、JobNo で指定したジョブ番号のジョブ状態を取得します。

パラメータ

説明

ServerName	本バージョンでは使用されません。必ず NULL を指定してください。
JobNo	情報(状態)取得を行うジョブのジョブ番号を指定します。
JmssJobInfoEx	ジョブ情報構造体 JMSSJOBINFOEX を指定します。 関数が正常に終了した場合は、このジョブ情報構造体にジョブ情報(状態)が格納されます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_STOP
JMSS_NO_JOB
JMSS_NO_JOBNO
JMSS_REJECT_REQUEST

④JmssControlJob

public static int JmssControlJob(ServerName, ControlMode, JobNo)

String	<i>ServerName</i>	/* 本バージョンでは使用されません */
int	<i>ControlMode</i>	/* 要求する制御の種類 */
int	<i>JobNo</i>	/* ジョブ番号 */

JmssControlJob 関数は、JobNo で指定したジョブ番号のジョブに対して、ControlMode で指定された制御操作を行います。

パラメータ

ServerName

ControlMode

説明

本バージョンでは使用されません。必ず NULL を指定してください。

要求する制御の種類を指定します。

このパラメータには、次の値のいずれかを指定します。

値

JMSS_CONTROL_TERMINATE

JMSS_CONTROL_SUSPEND

JMSS_CONTROL_RESUME

JMSS_CONTROL_HOLD

JMSS_CONTROL_RELEASE

JMSS_CONTROL_DELETE

JMSS_CONTROL_STOP

JMSS_CONTROL_CONTINUE

JobNo

実行制御を行うジョブのジョブ番号を指定します。

意味

強制終了要求を行います。

対象ジョブが実行中であれば強制終了され、実行待ちであればジョブキューから(登録)削除されます。実行中のジョブネットワークの一時停止要求を行います。

本要求は実行中のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。

一時停止中のジョブネットワークの再開要求を行います。

本要求は一時停止中のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。

ジョブの保留要求を行います。

本要求は実行待ち／排他待ち／起動リトライ中のジョブに対してのみ有効に働きます。

ジョブの保留解除要求を尾篳舞います。

本要求は保留ジョブに対してのみ有効に働きます。

ジョブの登録削除要求を行います。

本要求は保留／実行待ち／排他待ち／起動リトライ中のジョブに対してのみ有効に働きます。

ジョブの停止要求を行います。

本要求は実行中のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。

ジョブの継続要求を行います。

本要求は停止／強制終了／不明のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_STOP
JMSS_NO_JOB
JMSS_NO_TERMINATE
JMSS_NO_PAUSE
JMSS_NO_RESTART
JMSS_NOT_JOBNET
JMSS_NO_HOLD
JMSS_NO_RELEASE
JMSS_NO_DELETE
JMSS_NO_STOP
JMSS_NO_CONTINUE
JMSS_NO_JOBNO

⑤JmssGetChildJobList

```
public static int JmssGetChildJobList(ServerName, JobNo, QueryJobStatus,  
                                     lpdwJobCount, lpJobNoList)
```

String	<i>ServerName</i>	/* 本バージョンでは使用されません */
int	<i>JobNo</i>	/* ジョブ番号 */
JobStatus.QueryStatus	<i>QueryJobStatus</i>	/* 問い合わせジョブ状態条件 */
ref int	<i>JobCount</i>	/* 格納配列最大数/格納数 */
ref int[]	<i>JobNoList</i>	/* 派生ジョブ番号格納配列 */

JmssGetChildJobList 関数は、JobNo で指定したジョブ番号のジョブから派生したジョブのうち、問い合わせ条件(ジョブ状態)に一致するジョブのジョブ番号一覧を取得します。

パラメータ

説明

ServerName	本バージョンでは使用されません。必ず NULL を指定してください。
JobNo	派生ジョブを問い合わせる親ジョブ番号を指定します。
QueryJobStatus	取得したい派生ジョブのジョブ状態条件を指定します。 このパラメータには、次に示す値の組み合わせを指定してください。

値

意味

	JMSS_CONTROL_END	実行終了した派生ジョブを対象とします。
	JMSS_CONTROL_RUN	実行中の派生ジョブを対象とします。
	JMSS_CONTROL_QUE	実行待ち(起動中も含む)の派生ジョブを対象とします。
JobCount		格納できる配列の最大数を指定します。 関数が正常に終了した場合は格納した数が、指定した最大数で足りない場合は必要数が返却されます。
JobNoList		派生ジョブのジョブ番号を格納する配列へのポインタを指定します。 本パラメータが NULL の場合は、JobCount パラメータに必要数が設定返却されます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

```
JMSS_PARAM_ERROR  
JMSS_NO_CONNECT  
JMSS_NOGET_SERVERNAME  
JMSS_SECURITY_NO_USE  
JMSS_SECURITY_NO_STOP  
JMSS_NO_JOB  
JMSS_NOT_ENOUGH_BUF  
JMSS_NO_JOBNO
```

⑥JmssCurrentJobNo

public static int JmssCurrentJobNo(*ServerName*, *JobNo*)

out String	<i>ServerName</i>	/* JMSS サーバ名 */
out int	<i>JobNo</i>	/* 自ジョブ番号 */

JmssCurrentJobNo 関数は、自ジョブのジョブ番号と自ジョブを監視している JMSS サーバ名を取得します。

パラメータ

説明

ServerName

自ジョブを監視している JMSS サーバ名が通知されます。JMSS サーバ名の通知が必要でない場合には、NULL を指定してください。

JobNo

自ジョブのジョブ番号が通知されます。監視されていない時は 0 が通知されます。ジョブ番号の通知が必要でない場合には、NULL を指定してください。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_NOWATCH

2.3 イベント処理 API

①JmssSendEventEx

public static int JmssSendEventEx(ServerName, QueueName, EventID, Message, Param)

String	<i>ServerName</i>	/* 送信先 JMSS サーバ名 */
String	<i>QueueName</i>	/* 送信先ジョブキュー名 */
String	<i>EventID</i>	/* 送信イベント ID */
String	<i>Message</i>	/* 送信メッセージ */
String	<i>Param</i>	/* 送信パラメータ */

JmssSendEventEx 関数は、指定 JMSS サーバの指定ジョブキューに指定のイベント ID、メッセージを送信します。

パラメータ	説明
ServerName	送信先の JMSS サーバ名を指定します。 本パラメータに NULL を指定した場合は、デフォルトの JMSS サーバ名が使用されます。
QueueName	送信先ジョブキュー名を指定します。 本パラメータに NULL を指定した場合は、全ジョブキューに対してブロードキャストされます。
EventID	4 文字以内のイベント ID を指定します。
Message	128 文字(バイト)以内の送信メッセージを指定します。 本パラメータを使用しない場合は、NULL を指定してください。
Param	1024 文字(バイト)以内で送信パラメータを指定します。 パラメータと値は NULL で区切ってください。 本パラメータを使用しない場合は、NULL を指定してください。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME

②JmssReceiveEvent

```
public static int JmssReceiveEvent(EventID, ServerName, MachineName, UserName,  
                                   Message, ReceiveEventID, TimeOut)
```

String	<i>EventID</i>	/* 受信イベント ID */
String	<i>ServerName</i>	/* 送信元 JMSS サーバ名 */
String	<i>MachineName</i>	/* 送信元マシン名 */
String	<i>UserName</i>	/* 送信元ユーザ名 */
String	<i>Message</i>	/* 受信メッセージ */
String	<i>ReceiveEventID</i>	/* 受信イベント ID */
int	<i>TimeOut</i>	/* タイムアウト時間 */

JmssReceiveEvent 関数は、指定したイベント ID を指定タイムアウト時間まで受信待ちします。

パラメータ 説明

EventID	受信待ちする 4 文字以内のイベント ID 文字列(英数字のみ)を指定します。 "*"が指定された場合は、どんなイベント ID でも受信します。
ServerName	受信したイベント ID を送信した送信元の JMSS サーバ名が通知されます。 本パラメータに NULL を指定した場合は、本通知は行われません。
MachineName	受信したイベント ID を送信した送信元のマシン名が通知されます。 本パラメータに NULL を指定した場合は、本通知は行われません。
UserName	受信したイベント ID を送信したユーザ名が通知されます。 本パラメータに NULL を指定した場合は、本通知は行われません。
Message	受信した 128 文字(バイト)以内の送信メッセージが格納されます。 本パラメータに NULL を指定した場合は、本通知は行われません。
ReceiveEventID	受信したイベント ID が格納されます。 本パラメータに NULL を指定した場合は、本通知は行われません。
TimeOut	タイムアウト時間を秒単位で指定します。 0 を指定した場合は、すぐタイムアウトエラーで終了します。 INFINITE(0xffffffff)を指定した場合は、指定したイベントを受信するまで無限に待ち続けます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_TIMEOUT

注意

- ①使用するマシンが稼働マシンで、かつ JLook サービスが起動している時にのみ使用可能です。
- ②監視している同一ジョブ内で同時に複数のイベント待ちを行った場合、JLook の画面上に表示される待ちイベント ID は最後にイベント待ち API を呼び出した時のイベント ID が表示されることになります。

2.4 ジョブキュー参照 API

①JmssDispQueueDialog

public static int JmssDispQueueDialog(*ServerName*, *hwndOwner*, *QueueName*, *MessageTitle*)

String	<i>ServerName</i>	/* 本バージョンでは使用されません */
IntPtr	<i>hwndOwner</i>	/* 表示する親ウィンドウハンドル */
String	<i>QueueName</i>	/* 初期選択ジョブキュー名 */
String	<i>MessageTitle</i>	/* エラーメッセージ表示時のタイトル */

JmssDispQueueDialog 関数は、ジョブキュー名の一覧ダイアログボックスを表示します。

パラメータ	説明
ServerName	本バージョンでは使用されません。必ず NULL を指定してください。
hwndOwner	表示するダイアログボックスの親ウィンドウハンドルを指定します(ない場合は NULL を指定してください)。
QueueName	初期選択させたいジョブキュー名を格納したポインタを指定します。 ダイアログボックスでジョブキュー名が選択された場合には、選択ジョブキュー名が本パラメータの指す領域に格納されます。
MessageTitle	エラーメッセージ表示時に表示させるタイトルを指定します。 本パラメータに NULL を指定した場合は、エラーメッセージを表示しません。

戻り値

ユーザがジョブキュー名一覧より任意のジョブキュー名を選択した場合([OK]ボタン選択)は、0 を返します。エラーが発生した場合や、ユーザが[キャンセル]ボタンを選択した場合、ダイアログボックスを閉じた場合などは、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_CANCEL

②JmssGetJobQueue

public static int JmssGetJobQueue(*ServerName*, *QueueName*, *JmssJobQInfo*)

String	<i>ServerName</i>	/* JMSS サーバ名 */
String	<i>QueueName</i>	/* ジョブキュー名 */
ref JMSSJOBQINFO	<i>JmssJobQInfo</i>	/* ジョブキュー情報構造体*/

JmssDispQueueDialog 関数は、ジョブキュー名の一覧ダイアログボックスを表示します。

パラメータ	説明
ServerName	JMSS サーバ名を指定します。 本パラメータに NULL を指定した場合は、デフォルトの JMSS サーバ名が使用されます。
QueueName	情報取得を行うジョブキュー名を指定します。
JmssJobQInfo	ジョブキュー情報構造体クラスのインスタンスを指定します。 関数が正常に終了した場合は、このジョブキュー情報構造体にジョブキュー情報が格納されます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_SECURITY_NO_CONTROL
JMSS_QUEUE_NOTFOUND

2.5 アラート通報 API

①JmssReportEvent

public static int JmssReportEvent(*Mode, Type, Message*)

int	<i>Mode</i>	/* アラートの通知先 */
int	<i>Type</i>	/* アラートのタイプ */
String	<i>Message</i>	/* 出力するメッセージ */

JmssReportEvent 関数は、ESMPRO マネージャ／ページャにアラート通報します。

パラメータ	説明								
Mode	アラートの通知先を以下の値の組み合わせで指定します。 <table><thead><tr><th>値</th><th>意味</th></tr></thead><tbody><tr><td>JMSS_JALT_MODE_MANAGER</td><td>ESMPRO マネージャに通報します。</td></tr><tr><td>JMSS_JALT_MODE_PAGER</td><td>ESMPRO ページャに通報します。</td></tr></tbody></table>	値	意味	JMSS_JALT_MODE_MANAGER	ESMPRO マネージャに通報します。	JMSS_JALT_MODE_PAGER	ESMPRO ページャに通報します。		
値	意味								
JMSS_JALT_MODE_MANAGER	ESMPRO マネージャに通報します。								
JMSS_JALT_MODE_PAGER	ESMPRO ページャに通報します。								
Type	通報するアラートの種別を以下の値から指定します。 <table><thead><tr><th>値</th><th>意味</th></tr></thead><tbody><tr><td>JMSS_JALT_TYPE_INFORMATION</td><td>情報レベルで通報します。 (アラートビューアでは緑色のマーク)</td></tr><tr><td>JMSS_JALT_TYPE_WARNING</td><td>警告レベルで通報します。 (アラートビューアでは黄色のマーク)</td></tr><tr><td>JMSS_JALT_TYPE_ERROR</td><td>エラーレベルで通報します。 (アラートビューアでは赤色のマーク)</td></tr></tbody></table>	値	意味	JMSS_JALT_TYPE_INFORMATION	情報レベルで通報します。 (アラートビューアでは緑色のマーク)	JMSS_JALT_TYPE_WARNING	警告レベルで通報します。 (アラートビューアでは黄色のマーク)	JMSS_JALT_TYPE_ERROR	エラーレベルで通報します。 (アラートビューアでは赤色のマーク)
値	意味								
JMSS_JALT_TYPE_INFORMATION	情報レベルで通報します。 (アラートビューアでは緑色のマーク)								
JMSS_JALT_TYPE_WARNING	警告レベルで通報します。 (アラートビューアでは黄色のマーク)								
JMSS_JALT_TYPE_ERROR	エラーレベルで通報します。 (アラートビューアでは赤色のマーク)								
Message	アラート通報するメッセージを指定します。								

戻り値

正常にアラート通報(イベントログに出力)できた場合、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値を返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NOGET_PRODUCT_ID
JMSS_NOT_REPORT_EVENT
JMSS_NOT_INSTALLED

注意

本 API は ESMPRO/JMSS 上でのみ使用可能です。

2.6 構造体クラス

①JMSSJOBTHROWINFOEX

```
public class JMSSJOBTHROWINFOEX
{
    public const int Size = 1128;           // このクラスのサイズ
    public int Priority;                     // ジョブ優先順位
    public int WatchStdOut;                 // 標準出力の監視有無
    public IntPtr Stdin = IntPtr.Zero;      // 常に NULL
    public IntPtr Stdout = IntPtr.Zero;     // 常に NULL
    public IntPtr Stderr = IntPtr.Zero;     // 常に NULL
    public String QueueName = null;         // 投入先キュー名
    public String JobName = null;           // 業務名
    public String JobPath = null;           // ジョブのファイル名
    public String JobParam = null;          // ジョブのパラメータ
    public String ExecDir = null;           // 実行時ディレクトリ
    public int RepeatLastCount = 0;         // 常に 0
    public int MaxElapseTime = 0;           // 実行経過時間タイムアウト
    public ushort ExecType = 0;             // ジョブ起動方式
    public ushort Reserve = 0;              // 将来拡張用
    public int dReserve = 0;                // 将来拡張用
    public int MaxWorkingSetSize = 0;       // 常に 0
    public int TermReport;                  // ジョブ終了通知有無
    public string StdoutFile = null;        // 標準出力内容保存ファイル名
}
```

ジョブ投入情報構造体クラスは、投入するジョブの情報を格納します。

メンバ

Size

Priority

説明

この構造体クラスのサイズです。特に変更する必要はありません。

ジョブの優先順位を指定します。指定できる値は次のとおりです。

値

JMSS_PRIORITY_REAL

JMSS_PRIORITY_HIGH

JMSS_PRIORITY_NORMAL

JMSS_PRIORITY_IDLE

意味

最高の優先順位でジョブを実行します。オペレーティングシステムを含む他のプロセスよりも優先して実行されますので、処理時間の長いジョブでは、ストールしたような状態になることがあります。一般のジョブでの使用は避けて運用してください。

他のジョブより優先して速やかに実行します。CPUを多く使用するジョブでは、アプリケーションを含む他のジョブが全く動作しなくなる場合がありますので、使用には細心の注意が必要です。

システム標準の優先順位でジョブを実行します。通常はこの順位で実行してください。

システムがアイドル状態の時だけジョブを実行します(スクリーンセーバーと同じと考えてください)。

WatchStdout	標準出力の監視有無を指定します。指定できる値は次のとおりです	
	値	意味
	JMSS_STDOUT_NOWATCH	標準出力の監視をしません。
	JMSS_STDOUT_SYSTEM_OVERWRITE	標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはシステム標準のファイルに上書きされます。
	JMSS_STDOUT_SYSTEM_APEND	標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはシステム標準のファイルに追加されます。
	JMSS_STDOUT_USER_OVERWRITE	標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはユーザ指定ファイル(caStdoutFile で指定したファイル名)に上書きされます。
	JMSS_STDOUT_USER_APEND	標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはユーザ指定ファイル(caStdoutFile で指定したファイル名)に追加されます。
Stdin	本バージョンでは使用されません。常に NULL でなければなりません。	
Stdout	本バージョンでは使用されません。常に NULL でなければなりません。	
Stderr	本バージョンでは使用されません。常に NULL でなければなりません。	
QueueName	投入先キュー名を指定します。キュー名は最大 15 文字です。	
JobName	ジョブの業務名を指定します。業務名は最大 32 です。	
JobPath	ジョブのファイル名をフルパスで指定します。最大 256 文字です。	
JobParam	ジョブのパラメータを指定します。最大 256 文字です。	
ExecDir	ジョブの実行時ディレクトリを指定します。最大 256 文字です。	
RepeatLastCount	将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。	
MaxElapseTime	投入したジョブの実行時間を制限したい場合に分単位で指定します。指定できる時間は 0 分～1000 時間 59 分です。指定した時間が経過してもジョブが終了しなかった場合には強制終了し、終了コードは FFFFFFFB になります。	
ExecType	ジョブ起動方式を指定します。指定できる値は次のとおりです。	
	値	意味
	JMSS_EXECTYPE_NONE	指定しません (JMSS/JEnv の「ジョブ起動方式」の設定にてジョブが起動されます)。
	JMSS_EXECTYPE_SERVICE	JLook サービスのアカウントでジョブが起動されます。
	JMSS_EXECTYPE_LOGON	JMSS/JD (JAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されます。
Reserve	将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。	
dReserve	将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。	
MaxWorkingSetSize	将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。	

TermReport

ジョブの終了を投入元マシンに通知するかどうかを指定します。「JMSS_SEND_MACHINE」を指定すると、投入ジョブの終了時に投入ジョブのジョブ番号、業務名、終了状態、終了コードが投入元マシンに通知されます。指定できる値は次のとおりです。

値

意味

JMSS_SEND_NO

通知しません。

JMSS_SEND_MACHINE

マシン単位で通知します。

StdoutFile

標準出力内容を任意のファイル名で保存したい場合にファイル名を指定します。実行マシンのローカルファイル名か、「¥¥マシン名¥共有名¥ファイル名」で指定してください。WatchStdout に JMSS_STDOUT_SYSTEM_OVERWRITE または JMSS_STDOUT_SYSTEM_APPEND を指定した場合は""を指定してください。標準出力内容保存ファイル名は最大 256 文字までです。

②JMSSJOBINFOEX

public class JMSSJOBINFOEX

```
{
    public const int Size = 1272;           // クラスサイズ
    public int JobType = 0;                 // ジョブ種別
    public int NetId = 0;                   // ジョブボックス ID
    public int NetRev = 0;                  // ジョブネットファイル Revision
    public int SecondaryId = 0;             // 派生ジョブ有無
    public int JobNo = 0;                   // ジョブ番号
    public int RootJobNo = 0;               // ルートジョブ番号
    public int ParentJobNo = 0;             // 親ジョブ番号
    public int ExitCode = 0;                // 終了コード
    public int JobStatus = 0;               // ジョブ状態
    public int Priority = 0;                 // 優先順位
    public int MinWorkingSet = 0;           // 最小ワーキングセットサイズ
    public int MaxWorkingSet = 0;           // 最大ワーキングセットサイズ
    public int UserCPUTime = 0;             // ユーザモードの CPU 使用時間 (ミリ秒)
    public int KernelCPUTime = 0;           // カーネルモードの CPU 使用時間 (ミリ秒)
    public int TotalCPUTime = 0;            // 全モードの CPU 使用時間 (ミリ秒)
    public int UserCPUPercent = 0;          // ユーザモードの CPU 使用率 (%)
    public int KernelCPUPercent = 0;        // カーネルモードの CPU 使用率 (%)
    public DateTime BgnTime;                // ジョブ開始日付／時間
    public DateTime EndTime;                // ジョブ終了日付／時間
    public int RepeatInterval = 0;          // 繰り返し間隔
    public int RepeatMaxCount = 0;          // 繰り返し回数
    public DateTime RepeatEndTime;          // 繰り返し実行終了時間
    public int RepeatCount = 0;             // 繰り返し実行した回数
    public String EventID=null;             // イベント ID
    public String UserName = null;          // 投入元ユーザ名
    public String WsName=null;              // 投入元マシン名
    public String QueueName=null;           // 投入ジョブキュー名
    public String CompName=null;            // 実行先マシン名
    public String JobName=null;             // 業務名
    public String JobPath=null;             // ジョブのファイル名
    public String JobParam=null;            // ジョブのパラメータ
    public String ExecDir=null;             // 実行時ディレクトリ
    public String OutFileName=null;         // 標準出力ファイル名
    public int MaxElapsTime = 0;            // 実行経過時間タイムアウト
    public ushort ExecType = 0;             // ジョブ起動方式
    public ushort Reserve = 0;              // 将来拡張用
    public int dReserve = 0;                // 将来拡張用
    public int ParentJntNo = 0;             // 継続実行の元となったジョブ番号
    public int Branch = 0;                  // 将来拡張用
}
```

}

ジョブ情報構造体クラスは、投入したジョブの各種情報を格納通知します。

メンバ

Size

説明

この構造体クラスのサイズです。特に変更する必要はありません。

JobType

ジョブの種類が通知されます。

ジョブの種類は、ジョブ種別と補足情報との組み合わせにて通知されます。

値

JMSS_JOBTYPE_BAT

JMSS_JOBTYPE_EXE32

JMSS_JOBTYPE_EXE16

JMSS_JOBTYPE_EXEDOS

JMSS_JOBTYPE_JNT

JMSS_JOBTYPE_COM

JMSS_JOBTYPE_CMD

JMSS_JOBTYPE_PIF

JMSS_JOBTYPE_OS2

JMSS_JOBTYPE_POSIX

意味

バッチファイルです。

32ビットアプリケーションです。

16ビットアプリケーションです。

DOS アプリケーションです。

ジョブネットワークです。

COM ファイルです。

CMD ファイルです。

PIF ファイルです(未サポート)。

OS2 用アプリケーションです。

POSIX アプリケーションです。

補足情報

JMSS_JOBTYPE_STDOUT_APEND

JMSS_JOBTYPE_STDOUT_USERFILE

意味

標準出力監視ファイルは追加モードです。

標準出力監視ファイルはユーザ指定ファイルです。

JMSS_JOBTYPE_STDOUT

JMSS_JOBTYPE_CONTINUE

JMSS_JOBTYPE_REPEAT

JMSS_JOBTYPE_SCHEDULE

標準出力監視をしています。

継続実行しているジョブネットワークです。

スケジュール繰り返し実行指定されています。

スケジュール実行されています。

NetId

ジョブネットワークファイルにおけるジョブボックス ID が通知されます。

NetRev

ジョブネットワークファイルの作成レビジョンが通知されます。

SecondaryId

派生ジョブの有無 ID が通知されます。ID には次の 2 つがあります。

値

JMSS_NOEXIST_DERIVE_JOB

JMSS_EXIST_DERIVE_JOB

意味

派生ジョブはありません。

派生ジョブがあります。

JobNo

ジョブ番号が通知されます。

RootJobNo

このジョブの一番最初の親ジョブのジョブ番号が通知されます。本メンバが 0 であった場合は、親ジョブを持っていません。

ParentJobNo

このジョブの親ジョブのジョブ番号が通知されます。本メンバが 0 であった場合は、親ジョブを持っていません。

ExitCode

ジョブの終了コードが通知されます。起動エラー、終了(強制終了含む)時のみ意味を持ちます(起動エラー、終了(強制終了含む)以外の場合には 0 が返却されます)。

JobStatus	ジョブの実行状態を通知します。次の値のいずれかになります。	
	値	意味
	JMSS_JOBSTATUS_RUN	ジョブは実行中です。
	JMSS_JOBSTATUS_FINISH	ジョブは終了しています。
	JMSS_JOBSTATUS_TERM	ジョブは強制終了されています。
	JMSS_JOBSTATUS_ERROR	ジョブは起動エラーとなっています。
	JMSS_JOBSTATUS_EVENT_REC	ジョブはイベント待ち状態です。
	JMSS_JOBSTATUS_PAUSE	ジョブは一時停止(ジョブキュー内での一時停止も含む)されています。
	JMSS_JOBSTATUS_EVENT_SEND	ジョブはイベント送信を完了しています。
	JMSS_JOBSTATUS_WAIT	ジョブは実行待ちとなっています。
	JMSS_JOBSTATUS_PENDING	ジョブは保留状態となっています。
	JMSS_JOBSTATUS_EXECUTE	ジョブは現在起動中です。
	JMSS_JOBSTATUS_EXCLUSIVE	ジョブは排他資源待ち中です。
	JMSS_JOBSTATUS_RETRY	ジョブは起動リトライ中です。
	JMSS_JOBSTATUS_CHILDJOBRETRY	派生ジョブが起動リトライ中です。
	JMSS_JOBSTATUS_STOP	ジョブは停止しています。
	JMSS_JOBSTATUS_STOPPING	ジョブは停止中です。
	JMSS_JOBSTATUS_JOBBOXRETRY	ジョブボックスリトライ中です。
	JMSS_JOBSTATUS_UNKNOWN	ジョブ状態は不明です(ジョブ実行中に JLook サービスが予期せぬ終了をしました)。
Priority	ジョブの優先順位が通知されます。次の値のいずれかになります。	
	値	意味
	JMSS_PRIORITY_REAL	最高の優先順位でジョブを実行しています。
	JMSS_PRIORITY_HIGH	他のジョブより優先して実行しています。
	JMSS_PRIORITY_NORMAL	システム標準の優先順位でジョブを実行しています。
	JMSS_PRIORITY_IDLE	最低の優先順位でジョブを実行しています。
MinWorkingSet	最小ワーキングセットサイズを通知します。	
MaxWorkingSet	最大ワーキングセットサイズを通知します。	
UserCPUTime	ユーザモードの CPU 使用時間をミリ秒単位で通知します。	
KernelCPUTime	カーネルモードの CPU 使用時間をミリ秒単位で通知します。	
TotalCPUTime	全モードの CPU 使用時間をミリ秒単位で通知します。	
UserCPUPercent	ユーザモードの CPU 使用率を%で通知します。	
KernelCPUPercent	カーネルモードの CPU 使用率を%で通知します。	
BgnTime	ジョブ開始日付/時間を通知します。	
EndTime	ジョブ終了日付/時間を通知します。	
RepeatInterval	繰り返し周期の時間間隔が秒単位で通知されます。繰り返し実行以外の場合は常に 0 です。	
RepeatMaxCount	繰り返し回数が通知されます。繰り返し回数指定で起動されたジョブ以外は常に 0 です。	
RepeatEndTime	繰り返し実行における終了時間が通知されます。終了時間指定で繰り返し起動されたジョブ以外は常に UTC の「1970/1/1 0:00:00」となります。	
RepeatCount	繰り返して実行された回数が通知されます。本メンバは、ジョブ終了時にのみ設定され、他のジョブ状態の時には意味を持ちません。	
EventID	イベント ID が通知されます。	
UserName	投入元のユーザ名が通知されます。	

WsName	投入元のマシン名が通知されます。								
QueueName	投入ジョブキュー名が通知されます。								
CompName	実行先のマシン名が通知されます。								
JobName	業務名が通知されます。								
JobPath	ジョブのファイル名がフルパスで通知されます。								
JobParam	ジョブ投入時に指定したパラメータが通知されます。								
ExecDir	ジョブの実行時ディレクトリが通知されます。								
OutFileName	標準出力ファイル名がフルパスで通知されます。								
MaxElapsTime	実行経過時間タイムアウト時間が分単位で通知されます。未設定の場合は 0 が通知されます。								
ExecType	ジョブ起動方式が通知されます。次の値のいずれかになります。								
	<table> <tr> <th>値</th><th>意味</th></tr> <tr> <td>JMSS_EXECTYPE_NONE</td><td>ジョブが起動されていません。</td></tr> <tr> <td>JMSS_EXECTYPE_SERVICE</td><td>JLook サービスのアカウントでジョブが起動されています。</td></tr> <tr> <td>JMSS_EXECTYPE_LOGON</td><td>JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されています。</td></tr> </table>	値	意味	JMSS_EXECTYPE_NONE	ジョブが起動されていません。	JMSS_EXECTYPE_SERVICE	JLook サービスのアカウントでジョブが起動されています。	JMSS_EXECTYPE_LOGON	JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されています。
値	意味								
JMSS_EXECTYPE_NONE	ジョブが起動されていません。								
JMSS_EXECTYPE_SERVICE	JLook サービスのアカウントでジョブが起動されています。								
JMSS_EXECTYPE_LOGON	JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されています。								
Reserve	将来拡張用です。								
dReserve	将来拡張用です。								
ParentJntNo	継続実行の元となったジョブネットのジョブ番号が通知されます。通常は 0 が通知されます。								
Branch	将来拡張用です。								

③JMSSJOBQINFO

```
public class JMSSJOBQINFO
{
    public const int Size = 44;           // クラスサイズ
    public String QueueName = null;       // ジョブキュー名
    public int JobQueCondition;           // ジョブキューの状態
    public int MaxRunningJob;             // 最大ジョブキュー多重度
    public int CurRunningJob;             // 現在実行中ジョブ数
    public int MaxEntryJob;               // 最大登録ジョブ数
    public int CurrentEntryJob;           // 現在登録済みのジョブ数
    public int EntryStatus;               // 登録状況
}
```

ジョブキュー情報構造体クラスは、ジョブキューの各種情報を格納します。

メンバ

Size

QueueName

JobQueCondition

MaxRunningJob

CurRunningJob

MaxEntryJob

CurrentEntryJob

EntryStatus

説明

この構造体クラスのサイズです。特に変更する必要はありません。

情報を取得するジョブキュー名を指定します。キュー名は最大 15 文字までです。

ジョブキューの状態が通知されます。

次の値のいずれかになります。

値

JMSS_JOBQUECOND_OPEN

JMSS_JOBQUECOND_CLOSE

ジョブキューの多重度が通知されます。

現在実行中のジョブ数が通知されます。

ジョブキューの登録可能ジョブ数が通知されます。

現在登録されているジョブ数が通知されます。

ジョブキューへの登録状態が通知されます。

次の値のいずれかになります。

値

JMSS_JOBQUEENTSTS_NORMAL

JMSS_JOBQUEENTSTS_WARNING

JMSS_JOBQUEENTSTS_ERROR

Entrystatus は、一旦 JMSS_JOBQUEENTSTS_WARNING または

JMSS_JOBQUEENTSTS_ERROR となると、登録可能ジョブ数の 80% 未満になるまで値は変化せず、80% 未満になった時点で JMSS_JOBQUEENTSTS_NORMAL となります。

意味

ジョブキューは開いています。

ジョブキューは閉じています。

意味

登録可能ジョブ数の 90% 以下です。

登録可能ジョブ数の 90% を超えています。

登録可能ジョブ数に達しています。

第3章 Visual Basic .NET 用 API リファレンス

3.1 API 一覧

○ジョブ制御 API

JmssThrowJobEx	指定ジョブの投入を行います。
JmssWaitJobExit	指定ジョブの終了待ちを行います。
JmssGetJobStatusEx	指定のジョブ状態を取得します。
JmssControlJob	指定ジョブの実行制御(強制終了、一時停止、再開、停止、継続)を行います。
JmssGetChildJobList	指定条件で指定ジョブから派生したジョブのジョブ番号一覧を取得します。
JmssCurrentJobNo	自ジョブ番号を取得します。

○イベント処理 API

JmssSendEventEx	指定 JMSS サーバの指定ジョブキューにイベントを送信します。
JmssReceiveEvent	指定イベントの受信待ち合わせを行います。

○ジョブキュー参照 API

JmssDispQueueDialog	ジョブキュー名の一覧ダイアログボックスを表示します。
JmssGetJobQueue	指定したジョブキューの情報を取得します。

○アラート通報 API

JmssReportEvent	ESMPRO マネージャ／ページャにアラートを通報します。
-----------------	-------------------------------

○構造体クラス

JMSSJOBTHROWINFOEX	ジョブ投入情報構造体クラス
JMSSJOBINFOEX	ジョブ情報構造体クラス
JMSSJOBQINFO	ジョブキュー情報構造体クラス

3.2 ジョブ制御 API

①JmssThrowJobEx

Public Shared Function JmssThrowJobEx

(ByVal	ServerName	As String
ByRef	JmssJobThrowInfoEx	As JMSSJOBTHROWINFOEX
ByRef	JobNo	As Integer)
As Integer		

ByVal <i>ServerName</i>	As String	' 本バージョンでは使用されません
ByRef <i>JmssJobThrowInfoEx</i>	As JMSSJOBTHROWINFOEX	' ジョブ投入情報構造体
ByRef <i>JobNo</i>	As Integer	' 投入ジョブ番号(返却)

JmssThrowJobEx 関数は、ジョブ投入情報構造体クラス JMSSJOBTHROWINFOEX で指定したジョブの投入を行います。

パラメータ

説明

ServerName	本バージョンでは使用されません。必ず vbNullString を指定してください。
JmssJobThrowInfoEx	ジョブ投入情報構造体 JMSSJOBTHROWINFOEX を指定します。
JobNo	ジョブ投入が成功した場合に通知される投入ジョブ番号を指定します。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NOT_ENOUGH_MEMORY
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_THROW
JMSS_QUEUE_NOTFOUND
JMSS_QUEUE_FULL
JMSS_QUEUE_CLOSED
JMSS_PARENTJOB_TERMINATE
JMSS_POWEROFF_TERMINATE
JMSS_EXCLUSIVE_ERROR
JMSS_REJECT_REQUEST

②JmssWaitJobExit

Public Shared Function **JmssWaitJobExit**

(ByVal	ServerName	As String
ByVal	JobNo	As Integer
ByRef	JmssJobInfo	As Any
ByVal	TimeOut	As Integer)
As Integer		

ByVal <i>ServerName</i>	As String	' 本バージョンでは使用されません
ByVal <i>JobNo</i>	As Integer	' ジョブ番号
ByRef <i>JmssJobInfo</i>	As Any	' 本バージョンでは使用されません
ByVal <i>TimeOut</i>	As Integer	' タイムアウト時間

JmssWaitJobExit 関数は、IJobNo で指定したジョブ番号のジョブが終了するまで待ち合わせを行います。すでに指定ジョブが終了している場合には、本関数はすぐに正常終了します。また、タイムアウト時間内にジョブが終了しなかった場合には、エラー終了します。

パラメータ

説明

ServerName	本バージョンでは使用されません。必ず vbNullString を指定してください。
JobNo	待ち合わせを行うジョブのジョブ番号を指定します。
JmssJobInfo	本バージョンでは使用されません。必ず Null を指定してください。
TimeOut	タイムアウト時間をミリ秒単位で指定します。 0 を指定すると、すぐタイムアウトエラーで終了します。&HFFFF を指定すると、ジョブが終了するまで無限に待ち続けます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_STOP
JMSS_NO_JOB
JMSS_NO_JOBNO
JMSS_TIMEOUT

③JmssGetJobStatusEx

Public Shared Function **JmssGetJobStatusEx**

(ByVal ServerName	As String
ByVal JobNo	As Integer
ByRef JmssJobInfoEx	As JMSSJOBINFOEX)
As Integer	

ByVal <i>ServerName</i>	As String	' 本バージョンでは使用されません
ByVal <i>JobNo</i>	As Integer	' ジョブ番号
ByRef <i>JmssJobInfoEx</i>	As JMSSJOBINFOEX	' ジョブ情報構造体

JmssGetJobStatusEx 関数は、IJobNo で指定したジョブ番号のジョブ状態を取得します。

パラメータ

説明

ServerName	本バージョンでは使用されません。必ず vbNullString を指定してください。
JobNo	情報(状態)取得を行うジョブのジョブ番号を指定します。
JmssJobInfoEx	ジョブ情報構造体 JMSSJOBINFOEX を指すポインタを指定します。 関数が正常に終了した場合は、このジョブ情報構造体にジョブ情報(状態)が格納されます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_STOP
JMSS_NO_JOB
JMSS_NO_JOBNO
JMSS_REJECT_REQUEST

④JmssControlJob

Public Shared Function **JmssControlJob**

(ByVal ServerName As String
ByVal ControlMode As ControlMode
ByVal JobNo As Integer)
As Integer

ByVal *ServerName* As String ' 本バージョンでは使用されません
ByVal *ControlMode* As ControlMode ' 要求する制御の種類
ByVal *JobNo* As Long ' ジョブ番号

JmssControlJob 関数は、JobNo で指定したジョブ番号のジョブに対して、ControlMode で指定された制御操作を行います。

パラメータ	説明																		
ServerName	本バージョンでは使用されません。必ず vbNullString を指定してください。																		
ControlMode	要求する制御の種類を指定します。 このパラメータには、次の値のいずれかを指定します。																		
	<table><tr><th>値</th><th>意味</th></tr><tr><td>JMSS_CONTROL_TERMINATE</td><td>強制終了要求を行います。 対象ジョブが実行中であれば強制終了され、実行待ちであればジョブキューから(登録)削除されます。</td></tr><tr><td>JMSS_CONTROL_SUSPEND</td><td>実行中のジョブネットワークの一時停止要求を行います。 本要求は実行中のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。</td></tr><tr><td>JMSS_CONTROL_RESUME</td><td>一時停止中のジョブネットワークの再開要求を行います。 本要求は一時停止中のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。</td></tr><tr><td>JMSS_CONTROL_HOLD</td><td>ジョブの保留要求を行います。 本要求は実行待ち／排他待ち／起動リトライ中のジョブに対してのみ有効に働きます。</td></tr><tr><td>JMSS_CONTROL_RELEASE</td><td>ジョブの保留解除要求を尾篭舞います。 本要求は保留ジョブに対してのみ有効に働きます。</td></tr><tr><td>JMSS_CONTROL_DELETE</td><td>ジョブの登録削除要求を行います。 本要求は保留／実行待ち／排他待ち／起動リトライ中のジョブに対してのみ有効に働きます。</td></tr><tr><td>JMSS_CONTROL_STOP</td><td>ジョブの停止要求を行います。 本要求は実行中のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。</td></tr><tr><td>JMSS_CONTROL_CONTINUE</td><td>ジョブの継続要求を行います。 本要求は停止／強制終了／不明のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。</td></tr></table>	値	意味	JMSS_CONTROL_TERMINATE	強制終了要求を行います。 対象ジョブが実行中であれば強制終了され、実行待ちであればジョブキューから(登録)削除されます。	JMSS_CONTROL_SUSPEND	実行中のジョブネットワークの一時停止要求を行います。 本要求は実行中のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。	JMSS_CONTROL_RESUME	一時停止中のジョブネットワークの再開要求を行います。 本要求は一時停止中のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。	JMSS_CONTROL_HOLD	ジョブの保留要求を行います。 本要求は実行待ち／排他待ち／起動リトライ中のジョブに対してのみ有効に働きます。	JMSS_CONTROL_RELEASE	ジョブの保留解除要求を尾篭舞います。 本要求は保留ジョブに対してのみ有効に働きます。	JMSS_CONTROL_DELETE	ジョブの登録削除要求を行います。 本要求は保留／実行待ち／排他待ち／起動リトライ中のジョブに対してのみ有効に働きます。	JMSS_CONTROL_STOP	ジョブの停止要求を行います。 本要求は実行中のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。	JMSS_CONTROL_CONTINUE	ジョブの継続要求を行います。 本要求は停止／強制終了／不明のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。
値	意味																		
JMSS_CONTROL_TERMINATE	強制終了要求を行います。 対象ジョブが実行中であれば強制終了され、実行待ちであればジョブキューから(登録)削除されます。																		
JMSS_CONTROL_SUSPEND	実行中のジョブネットワークの一時停止要求を行います。 本要求は実行中のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。																		
JMSS_CONTROL_RESUME	一時停止中のジョブネットワークの再開要求を行います。 本要求は一時停止中のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。																		
JMSS_CONTROL_HOLD	ジョブの保留要求を行います。 本要求は実行待ち／排他待ち／起動リトライ中のジョブに対してのみ有効に働きます。																		
JMSS_CONTROL_RELEASE	ジョブの保留解除要求を尾篭舞います。 本要求は保留ジョブに対してのみ有効に働きます。																		
JMSS_CONTROL_DELETE	ジョブの登録削除要求を行います。 本要求は保留／実行待ち／排他待ち／起動リトライ中のジョブに対してのみ有効に働きます。																		
JMSS_CONTROL_STOP	ジョブの停止要求を行います。 本要求は実行中のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。																		
JMSS_CONTROL_CONTINUE	ジョブの継続要求を行います。 本要求は停止／強制終了／不明のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。																		
JobNo	実行制御を行うジョブのジョブ番号を指定します。																		

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_STOP
JMSS_NO_JOB
JMSS_NO_TERMINATE
JMSS_NO_PAUSE
JMSS_NO_RESTART
JMSS_NOT_JOBNET
JMSS_NO_HOLD
JMSS_NO_RELEASE
JMSS_NO_DELETE
JMSS_NO_STOP
JMSS_NO_CONTINUE
JMSS_NO_JOBNO

⑤JmssGetChildJobList

Public Shared Function **JmssGetChildJobList**

(ByVal ServerName	As String
ByVal JobNo	As Integer
ByVal QueryJobStatus	As QueryStatus
ByRef JobCount	As Integer
ByRef JobNoList	As Integer())
As Integer	

ByVal <i>ServerName</i>	As String	' 本バージョンでは使用されません
ByVal <i>JobNo</i>	As Integer	' ジョブ番号
ByVal <i>QueryJobStatus</i>	As QueryStatus	' 問い合わせジョブ状態条件
ByRef <i>JobCount</i>	As Integer	' 格納配列最大数/格納数
ByRef <i>JobNoList</i>	As Integer()	' 派生ジョブ番号格納配列

JmssGetChildJobList 関数は、JobNo で指定したジョブ番号のジョブから派生したジョブのうち、問い合わせ条件(ジョブ状態)に一致するジョブのジョブ番号一覧を取得します。

パラメータ

説明

ServerName	本バージョンでは使用されません。必ず vbNullString を指定してください。
JobNo	派生ジョブを問い合わせる親ジョブ番号を指定します。
QueryJobStatus	取得したい派生ジョブのジョブ状態条件を指定します。 このパラメータには、次に示す値の組み合わせを指定します。

値

意味

JMSS_CONTROL_END	実行終了した派生ジョブを対象とします。
JMSS_CONTROL_RUN	実行中の派生ジョブを対象とします。
JMSS_CONTROL_QUE	実行待ち(起動中も含む)の派生ジョブを対象とします。

JobCount	格納できる配列の最大数を指定します。 関数が正常に終了した場合は格納した数が、指定した最大数で足りない場合は必要数が返却されます。
JobNoList	派生ジョブのジョブ番号を格納する配列を指定します。 NULL を指定すると、lpdwJobCount パラメータに必要な数が設定返却されます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_STOP
JMSS_NO_JOB
JMSS_NOT_ENOUGH_BUF
JMSS_NO_JOBNO

⑥JmssCurrentJobNo

Public Shared Function **JmssCurrentJobNo**

```
(ByRef ServerName As String  
ByRef JobNo As Integer)  
As Integer
```

```
ByVal ServerName As String ' JMSS サーバ名  
ByRef JobNo As Integer ' 自ジョブ番号
```

JmssCurrentJobNo 関数は、自ジョブのジョブ番号と自ジョブを監視している JMSS サーバ名を取得します。

パラメータ

説明

ServerName

自ジョブを監視している JMSS サーバ名が通知されます。JMSS サーバ名の通知が必要でない場合には、vbNullString を指定してください。

lJobNo

自ジョブのジョブ番号が通知されます。監視されていない時は 0 が通知されます。ジョブ番号の通知が必要でない場合には、vbNullString を指定してください。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

```
JMSS_PARAM_ERROR  
JMSS_NOGET_SERVERNAME  
JMSS_NOWATCH
```


3.3 イベント処理 API

①JmssSendEventEx

Public Shared Function **JmssSendEventEx**

(ByVal ServerName	As String
ByVal QueueName	As String
ByVal EventID	As String
ByVal Message	As String
ByVal Param	As String)
As Integer	

ByVal <i>ServerName</i>	As String	' 送信先 JMSS サーバ名
ByVal <i>QueueName</i>	As String	' 送信先ジョブキュー名
ByVal <i>EventID</i>	As String	' 送信イベント ID
ByVal <i>Message</i>	As String	' 送信メッセージ
ByVal <i>Param</i>	As String	' 送信パラメータ

JmssSendEvent 関数は、指定 JMSS サーバの指定ジョブキューに、指定のイベント ID、メッセージを送信します。

パラメータ	説明
ServerName	送信先の JMSS サーバ名を指定します。 vbNullString を指定すると、デフォルトの JMSS サーバ名が使用されます。
QueueName	送信先ジョブキュー名を指定します。 vbNullString を指定すると、全ジョブキューに対してブロードキャストされます。
EventID	4 文字以内のイベント ID 文字列(英数字のみ)を指定します。
Message	128 文字(バイト)以内の送信メッセージ文字列を指定します。 送信メッセージを使用しない場合は、vbNullString を指定してください。
Param	1024 文字(バイト)以内で送信パラメータを指定します。 パラメータと値は Chr\$(0)で区切ってください。 本パラメータを使用しない場合は、vbNullString を指定してください。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME

②JmssReceiveEvent

Public Shared Function **JmssReceiveEvent**

(ByVal	EventID	As String
ByRef	ServerName	As String
ByRef	MachineName	As String
ByRef	UserName	As String
ByRef	Message	As String
ByRef	ReceiveEventID	As String
ByVal	TimeOut	As UInt32
As Integer		

ByVal <i>EventID</i>	As String	' 受信イベント ID
ByRef <i>ServerName</i>	As String	' 送信元 JMSS サーバ名
ByRef <i>MachineName</i>	As String	' 送信元マシン名
ByRef <i>UserName</i>	As String	' 送信元ユーザ名
ByRef <i>Message</i>	As String	' 受信メッセージ
ByRef <i>ReceiveEventID</i>	As String	' 受信イベント ID
ByVal <i>TimeOut</i>	As UInt32	' タイムアウト時間

JmssReceiveEvent 関数は、指定したイベント ID を指定タイムアウト時間まで受信待ちします。

パラメータ

説明

EventID	受信待ちする 4 文字以内のイベント ID 文字列(英数字のみ)を指定します。 "*"が指定された場合は、どんなイベント ID でも受信します。
ServerName	受信したイベント ID を送信した送信元の JMSS サーバ名が通知されます。 vbNullString を指定すると、通知は行われません。
MachineName	受信したイベント ID を送信した送信元のマシン名が通知されます。 vbNullString を指定すると、通知は行われません。
UserName	受信したイベント ID を送信したユーザ名が通知されます。 vbNullString を指定すると、通知は行われません。
Message	受信した 128 文字(バイト)以内の送信メッセージが格納されます。 vbNullString を指定すると、通知は行われません。
ReceiveEventID	受信したイベント ID が格納されます。 vbNullString を指定すると、通知は行われません。
TimeOut	タイムアウト時間を秒単位で指定します。 0 を指定すると、すぐタイムアウトエラーで終了します。 &HFFFF を指定すると、指定したイベントを受信するまで無限に待ち続けます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR

JMSS_NOGET_SERVERNAME

JMSS_TIMEOUT

注意

- ① 使用するマシンが稼働マシンで、かつ JLook サービスが起動している時にのみ使用可能です。
- ② 監視している同一ジョブ内で同時に複数のイベント待ちを行った場合、JLook の画面上に表示される待ちイベント ID は最後にイベント待ち API を呼び出した時のイベント ID が表示されることになります。

3.4 ジョブキュー参照 API

①JmssDispQueueDialog

Public Shared Function **JmssDispQueueDialog**

(ByVal ServerName	As String
ByVal hwndOwner	As IntPtr
ByRef QueueName	As String
ByVal MessageTitle	As String)
As Integer	

ByVal <i>ServerName</i>	As String	' 本バージョンでは使用されません
ByVal <i>hwndOwner</i>	As IntPtr	' 表示する親ウィンドウハンドル
ByVal <i>QueueName</i>	As String	' 初期選択ジョブキュー名
ByVal <i>MessageTitle</i>	As String	' エラーメッセージ表示時のタイトル

JmssDispQueueDialog 関数は、ジョブキュー名の一覧ダイアログボックスを表示します。

パラメータ	説明
ServerName	本バージョンでは使用されません。 必ず <code>vbNullString</code> を指定してください。
hwndOwner	表示するダイアログボックスの親ウィンドウハンドルを指定します(ない場合は <code>vbNullString</code> を指定してください)。
QueueName	初期選択させたいジョブキュー名を指定します。 ダイアログボックスでジョブキュー名が選択された場合には、選択ジョブキュー名が本パラメータの指す領域に格納されます。
MessageTitle	エラーメッセージ表示時に表示させるタイトルを指定します。 <code>vbNullString</code> を指定すると、エラーメッセージを表示しません。

戻り値

ユーザがジョブキュー名一覧より任意のジョブキュー名を選択した場合([OK]ボタン選択)は、0 を返します。エラーが発生した場合や、ユーザが[キャンセル]ボタンを選択した場合、ダイアログボックスを閉じた場合などは、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_CANCEL

②JmssGetJobQueue

Public Shared Function **JmssGetJobQueue**

(ByVal	ServerName	As String
ByVal	QueueName	As String
ByRef	JmssJobQInfo	As JMSSJOBQINFO)
As Integer		

ByVal <i>ServerName</i>	As String	' JMSS サーバ名
ByVal <i>QueueName</i>	As String	' ジョブキュー名
ByRef <i>JmssJobQInfo</i>	As JMSSJOBQINFO	' ジョブキュー情報構造体

JmssDispQueueDialog 関数は、ジョブキュー名の一覧ダイアログボックスを表示します。

パラメータ 説明

ServerName	JMSS サーバ名を指定します。 本パラメータに NULL を指定した場合は、デフォルトの JMSS サーバ名が使用されます。
QueueName	情報取得を行うジョブキュー名を指定します。
JmssJobQInfo	ジョブキュー情報構造体クラスのインスタンスを指定します。 関数が正常に終了した場合は、このジョブキュー情報構造体にジョブキュー情報が格納されます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_SECURITY_NO_CONTROL
JMSS_QUEUE_NOTFOUND

3.5 アラート通報 API

①JmssReportEvent

Public Shared Function JmssReportEvent

(ByVal Mode	As Mode
ByVal Type	As Type
ByVal Message	As String)
As Integer	

ByVal Mode	As Mode	' アラートの通知先
ByVal Type	As Type	' アラートのタイプ
ByVal Message	As String	' 出力するメッセージ

JmssReportEvent 関数は、ESMPRO マネージャ／ページャにアラート通報します。

パラメータ

説明

Mode

アラートの通知先を以下の値の組み合わせで指定します

値	意味
JMSS_JALT_MODE_MANAGER	ESMPRO マネージャに通報します。
JMSS_JALT_MODE_PAGER	ESMPRO ページャに通報します。

Type

通報するアラートの種別を以下の値から指定します。

値	意味
JMSS_JALT_TYPE_INFORMATION	情報レベルで通報します。 (アラートビューアでは緑色のマーク)
JMSS_JALT_TYPE_WARNING	警告レベルで通報します。 (アラートビューアでは黄色のマーク)
JMSS_JALT_TYPE_ERROR	エラーレベルで通報します。 (アラートビューアでは赤色のマーク)

Message

アラート通報するメッセージを指定します。

戻り値

正常にアラート通報(イベントログに出力)できた場合、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値を返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NOGET_PRODUCT_ID
JMSS_NOT_REPORT_EVENT
JMSS_NOT_INSTALLED

注意

本 API は ESMPRO/JMSS 上でのみ使用可能です。

3.6 構造体クラス

①JMSSJOBTHROWINFOEX

Public Class JMSSJOBTHROWINFOEX

Public	Shared	Size	As Integer	' この構造体クラスのサイズ
Public		Priority	As Integer	' ジョブ優先順位
Public		WatchStdout	As Integer	' 標準出力の監視有無
Public		Stdin	As IntPtr	' 常に 0
Public		Stdout	As IntPtr	' 常に 0
Public		Stderr	As IntPtr	' 常に 0
Public		QueueName	As String	' 投入先キュー名
Public		JobName	As String	' ジョブの業務名
Public		JobPath	As String	' ジョブのファイル名
Public		JobParam	As String	' ジョブのパラメータ
Public		ExecDir	As String	' 実行時ディレクトリ
Public		RepeatLastCount	As Integer	' 常に 0
Public		MaxElapseTime	As Integer	' 実行経過時間タイムアウト
Public		ExecType	As Short	' ジョブ起動方式
Public		Reserve	As Short	' 将来拡張用
Public		dReserve	As Integer	' 将来拡張用
Public		MaxWorkingSetSize	As Integer	' 常に 0
Public		TermReport	As Integer	' ジョブ終了通知
Public		StdoutFile	As String	' 標準出力内容保存ファイル

End Class

ジョブ投入情報構造体クラスは、投入するジョブの情報を格納します。

メンバ

Size

Priority

説明

このクラスのサイズです。特に変更する必要はありません。

ジョブの優先順位を指定します。指定できる値は次のとおりです。

値

JMSS_PRIORITY_REAL

JMSS_PRIORITY_HIGH

JMSS_PRIORITY_NORMAL

JMSS_PRIORITY_IDLE

意味

最高の優先順位でジョブを実行します。オペレーティングシステムを含む他のプロセスよりも優先して実行されますので、処理時間の長いジョブでは、ストールしたような状態になることがあります。一般のジョブでの使用は避けて運用してください。

他のジョブより優先して速やかに実行します。CPUを多く使用するジョブでは、アプリケーションを含む他のジョブが全く動作しなくなる場合がありますので、使用には細心の注意が必要です。

システム標準の優先順位でジョブを実行します。通常はこの順位で実行してください。

システムがアイドル状態の時だけジョブを実行します(スクリーンセーバーと同じと考えてください)。

メンバ

WatchStdout

説明

標準出力の監視有無を指定します。値は次のとおりです。

値

JMSS_STDOUT_NOWATCH

JMSS_STDOUT_SYSTEM_OVERWRITE

JMSS_STDOUT_SYSTEM_APPEND

JMSS_STDOUT_USER_OVERWRITE

JMSS_STDOUT_USER_APPEND

意味

標準出力の監視をしません。

標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはシステム標準のファイルに上書きされます。

標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはシステム標準のファイルに追加されます。

標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはユーザ指定ファイル (StdoutFile で指定したファイル名) に上書きされます。

標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはユーザ指定ファイル (StdoutFile で指定したファイル名) に追加されます。

Stdin

本バージョンでは使用されません。常に 0 でなければなりません。

Stdout

本バージョンでは使用されません。常に 0 でなければなりません。

Stderr

本バージョンでは使用されません。常に 0 でなければなりません。

QueueName

投入先キュー名を指定します。キュー名は最大 15 文字です。

JobName

ジョブの業務名を指定します。業務名は最大 32 文字です。

JobPath

ジョブのファイル名をフルパスで指定します。最大 256 文字です。

JobParam

ジョブのパラメータを指定します。最大 256 文字です。

ExecDir

ジョブの実行時ディレクトリを指定します。最大 256 文字です。

RepeatLastCount

将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。

MaxElapseTime

投入したジョブの実行時間を制限したい場合に分単位で指定します。指定できる時間は 0 分～1000 時間 59 分です。指定した時間が経過してもジョブが終了しなかった場合には強制終了し、終了コードは FFFFFFFB になります。

ExecType

ジョブ起動方式を指定します。指定できる値は次のとおりです。

値

JMSS_EXECTYPE_NONE

JMSS_EXECTYPE_SERVICE

JMSS_EXECTYPE_LOGON

意味

指定しません (JMSS/JEnv の「ジョブ起動方式」の設定にてジョブが起動されます)。

JLook サービスのアカウントでジョブが起動されます。

JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されます。

Reserve

将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。

dReserve

将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。

MaxWorkingSetSize

将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。

TermReport	<p>ジョブの終了を投入元マシンに通知するかどうかを指定します。「JMSS_SEND_MACHINE」を指定すると、投入ジョブの終了時に投入ジョブのジョブ番号、業務名、終了状態、終了コードが投入元マシンに通知されます。指定できる値は次のとおりです。</p>						
	<table> <tr> <th data-bbox="432 289 740 328">値</th><th data-bbox="740 289 1289 328">意味</th></tr> <tr> <td data-bbox="432 328 740 367">JMSS_SEND_NO</td><td data-bbox="740 328 1289 367">通知しません。</td></tr> <tr> <td data-bbox="432 367 740 405">JMSS_SEND_MACHINE</td><td data-bbox="740 367 1289 405">マシン単位で通知します。</td></tr> </table>	値	意味	JMSS_SEND_NO	通知しません。	JMSS_SEND_MACHINE	マシン単位で通知します。
値	意味						
JMSS_SEND_NO	通知しません。						
JMSS_SEND_MACHINE	マシン単位で通知します。						
StdoutFile	<p>標準出力内容をユーザの任意のファイル名で保存したい場合にファイル名を指定します。実行マシンのローカルファイル名か、"¥¥マシン名¥共有名¥ファイル名"で指定してください。</p> <p>WatchStdout に JMSS_STDOUT_SYSTEM_OVERWRITE または JMSS_STDOUT_SYSTEM_APEND を指定した場合は Chr\$(0)を指定してください。標準出力内容保存ファイル名は最大 256 文字までです。</p>						

②JMSSJOBINFOEX

Public Class JMSSJOBINFOEX

Public Shared <i>Size</i>	As Integer	' このクラスのサイズ
Public <i>JobType</i>	As Integer	' ジョブの種類
Public <i>NetId</i>	As Integer	' ジョブボックス ID
Public <i>NetRev</i>	As Integer	' ジョブ ネットファイル Revision
Public <i>SecondaryId</i>	As Integer	' 派生ジョブ有無 ID
Public <i>JobNo</i>	As Integer	' ジョブ番号
Public <i>RootJobNo</i>	As Integer	' ルートジョブ番号
Public <i>ParentJobNo</i>	As Integer	' 親ジョブ番号
Public <i>ExitCode</i>	As Integer	' ジョブ終了コード
Public <i>JobStatus</i>	As Integer	' ジョブ実行状態
Public <i>Priority</i>	As Integer	' ジョブ優先順位
Public <i>MinWorkingSet</i>	As Integer	' 最小ワーキングセットサイズ
Public <i>MaxWorkingSet</i>	As Integer	' 最大ワーキングセットサイズ
Public <i>UserCPUTime</i>	As Integer	' ユーザモードの CPU 使用時間(ミリ秒)
Public <i>KernelCPUTime</i>	As Integer	' カーネルモードの CPU 使用時間(ミリ秒)
Public <i>TotalCPUTime</i>	As Integer	' 全モードの CPU 使用時間(ミリ秒)
Public <i>UserCPUPercent</i>	As Integer	' ユーザモードの CPU 使用率(%)
Public <i>KernelCPUPercent</i>	As Integer	' カーネルモードの CPU 使用率(%)
Public <i>BgnTime</i>	As Date	' ジョブ開始日付/時間
Public <i>EndTime</i>	As Date	' ジョブ終了日付/時間
Public <i>RepeatInterval</i>	As Integer	' 繰り返し間隔
Public <i>RepeatMaxCount</i>	As Integer	' 繰り返し回数
Public <i>RepeatEndTime</i>	As Date	' 繰り返し実行終了時間
Public <i>RepeatCount</i>	As Integer	' 繰り返し実行した回数
Public <i>EventID</i>	As String	' イベント ID
Public <i>UserName</i>	As String	' 投入元ユーザ名
Public <i>WsName</i>	As String	' 投入元マシン名
Public <i>QueueName</i>	As String	' 投入ジョブキュー名
Public <i>CompName</i>	As String	' 実行先マシン名
Public <i>JobName</i>	As String	' 業務名
Public <i>JobPath</i>	As String	' ジョブのファイル名
Public <i>JobParam</i>	As String	' パラメータ
Public <i>ExecDir</i>	As String	' 実行時ディレクトリ
Public <i>OutFileName</i>	As String	' 標準出力ファイル名
Public <i>MaxElapsTime</i>	As Integer	' 実行経過タイムアウト時間(分)
Public <i>ExecType</i>	As Short	' ジョブ起動方式
Public <i>Reserve</i>	As Short	' 将来拡張用
Public <i>dReserve</i>	As Integer	' 将来拡張用
Public <i>ParentJntNo</i>	As Integer	' 継続実行元となったジョブネットのジョブ番号
Public <i>Branch</i>	As Integer	' 将来拡張用

End Class

ジョブ情報構造体クラスは、投入したジョブの各種情報を格納通知します。

メンバ

Size

説明

このクラスのサイズです。特に変更する必要はありません。

JobType

ジョブの種類が通知されます。

ジョブの種類は、ジョブ種別と補足情報との組み合わせにて通知されます。

値

JMSS_JOBTYPE_BAT

JMSS_JOBTYPE_EXE32

JMSS_JOBTYPE_EXE16

JMSS_JOBTYPE_EXEDOS

JMSS_JOBTYPE_JNT

JMSS_JOBTYPE_COM

JMSS_JOBTYPE_CMD

JMSS_JOBTYPE_PIF

JMSS_JOBTYPE_OS2

JMSS_JOBTYPE_POSIX

意味

バッチファイルです。

32ビットアプリケーションです。

16ビットアプリケーションです。

DOS アプリケーションです。

ジョブネットワークです。

COM ファイルです。

CMD ファイルです。

PIF ファイルです(未サポート)。

OS2 用アプリケーションです。

POSIX アプリケーションです。

補足情報

JMSS_JOBTYPE_STDOUT_APEND

JMSS_JOBTYPE_STDOUT_USERFILE

JMSS_JOBTYPE_STDOUT

JMSS_JOBTYPE_CONTINUE

JMSS_JOBTYPE_REPEAT

JMSS_JOBTYPE_SCHEDULE

意味

標準出力監視ファイルは追加モードです。

標準出力監視ファイルはユーザ指定ファイルです。

標準出力監視をしています。

継続実行しているジョブネットワークです。

スケジュール繰り返し実行指定されています。

スケジュール実行されています。

NetId

ジョブネットワークファイルにおけるジョブボックス ID が通知されます。

NetRev

ジョブネットワークファイルの作成リビジョンが通知されます。

SecondaryId

派生ジョブの有無 ID が通知されます。ID には次の 2 つがあります。

値

JMSS_NOEXIST_DERIVE_JOB

JMSS_EXIST_DERIVE_JOB

意味

派生ジョブはありません。

派生ジョブがあります。

JobNo

ジョブ番号が通知されます。

RootJobNo

このジョブの一番最初の親ジョブのジョブ番号が通知されます。本メンバが 0 であった場合は、親ジョブを持っていません。

ParentJobNo

このジョブの親ジョブのジョブ番号が通知されます。本メンバが 0 であった場合は、親ジョブを持っていません。

ExitCode

ジョブの終了コードが通知されます。起動エラー、終了(強制終了含む)時のみ意味を持ちます(起動エラー、終了(強制終了含む)以外の場合には 0 が返却されます)。

JobStatus	ジョブの実行状態を通知します。次の値のいずれかになります。	
	値	意味
	JMSS_JOBSTATUS_RUN	このジョブは実行中です。
	JMSS_JOBSTATUS_FINISH	このジョブは終了しています。
	JMSS_JOBSTATUS_TERM	このジョブは強制終了されています。
	JMSS_JOBSTATUS_ERROR	このジョブは起動エラーとなっています。
	JMSS_JOBSTATUS_EVENT_REC	このジョブはイベント待ち状態です。
	JMSS_JOBSTATUS_PAUSE	このジョブは一時停止(ジョブキュー内での一時停止も含む)されています。
	JMSS_JOBSTATUS_EVENT_SEND	このジョブはイベント送信を完了しています。
	JMSS_JOBSTATUS_WAIT	このジョブは実行待ちとなっています。
	JMSS_JOBSTATUS_PENDINGP	このジョブは保留状態となっています。
	JMSS_JOBSTATUS_EXECUTE	このジョブは現在起動中です。
	JMSS_JOBSTATUS_EXCLUSIVE	このジョブは排他制御待ちです。
	JMSS_JOBSTATUS_RETRY	このジョブは起動リトライ中です。
	JMSS_JOBSTATUS_CHILDJOBRETRY	派生ジョブが起動リトライ中です。
	JMSS_JOBSTATUS_STOP	ジョブは停止しています。
	JMSS_JOBSTATUS_STOPPING	ジョブは停止中です。
	JMSS_JOBSTATUS_JOBBOXRETRY	ジョブボックスリトライ中です。
	JMSS_JOBSTATUS_UNKNOWN	ジョブ状態は不明です(ジョブ実行中にJLook サービスが予期せぬ終了をしました)。
Priority	ジョブの優先順位が通知されます。次の値のいずれかになります。	
	値	意味
	JMSS_PRIORITY_REAL	最高の優先順位でジョブを実行しています。
	JMSS_PRIORITY_HIGH	他のジョブより優先して実行しています。
	JMSS_PRIORITY_NORMAL	システム標準の優先順位でジョブを実行しています。
	JMSS_PRIORITY_IDLE	最低の優先順位でジョブを実行しています。
MinWorkingSet	最小ワーキングセットサイズを通知します。	
MaxWorkingSet	最小ワーキングセットサイズを通知します。	
UserCPUTime	ユーザモードの CPU 使用時間をミリ秒単位で通知します。	
KernelCPUTime	カーネルモードの CPU 使用時間をミリ秒単位で通知します。	
TotalCPUTime	全モードの CPU 使用時間をミリ秒単位で通知します。	
UserCPUPercent	ユーザモードの CPU 使用率を%で通知します。	
KernelCPUPercent	カーネルモードの CPU 使用率を%で通知します。	
BgnTime	ジョブ開始日付/時間を通知します。	
EndTime	ジョブ終了日付/時間を通知します。	
RepeatInterval	繰り返し周期の時間間隔が秒単位で通知されます。時間周期指定以外の場合は常に 0 です。	
RepeatMaxCount	繰り返し回数が通知されます。回数指定以外の場合は常に 0 です。	
RepeatEndTime	繰り返し実行における終了時間が通知されます。終了時間指定で繰り返し起動されたジョブ以外は常に UTC の「1970/1/1 0:00:00」となります。	
RepeatCount	繰り返し実行された回数が通知されます。本メンバは、繰り返しジョブ終了時にのみ設定され、他のジョブ状態の時には意味を持ちません。	
EventID	イベント ID が通知されます。	
UserName	投入元のユーザ名が通知されます。	
WsName	投入元のマシン名が通知されます。	

QueueName	投入ジョブキュー名が通知されます。								
CompName	実行先のマシン名が通知されます。								
JobName	業務名が通知されます。								
JobPath	ジョブのファイル名がフルパスで通知されます。								
caJobParam	ジョブ投入時に指定したパラメータが通知されます。								
caExecDir	ジョブの実行時ディレクトリが通知されます。								
OutFileName	標準出力ファイル名がフルパスで通知されます。								
MaxElapsTime	実行経過時間タイムアウト時間が分単位で通知されます。未設定の場合は0が通知されます。								
ExecType	ジョブ起動方式が通知されます。次の値のいずれかになります。								
	<table> <tr> <th>値</th><th>意味</th></tr> <tr> <td>JMSS_EXECTYPE_NONE</td><td>ジョブが起動されていません。</td></tr> <tr> <td>JMSS_EXECTYPE_SERVICE</td><td>JLook サービスのアカウントでジョブが起動されています。</td></tr> <tr> <td>JMSS_EXECTYPE_LOGON</td><td>JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されています</td></tr> </table>	値	意味	JMSS_EXECTYPE_NONE	ジョブが起動されていません。	JMSS_EXECTYPE_SERVICE	JLook サービスのアカウントでジョブが起動されています。	JMSS_EXECTYPE_LOGON	JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されています
値	意味								
JMSS_EXECTYPE_NONE	ジョブが起動されていません。								
JMSS_EXECTYPE_SERVICE	JLook サービスのアカウントでジョブが起動されています。								
JMSS_EXECTYPE_LOGON	JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されています								
Reserve	将来拡張用です。								
dReserve	将来拡張用です。								
ParentIntNo	継続実行の元となったジョブネットのジョブ番号が通知されます。通常は0が通知されます。								
Branch	将来拡張用です。								

③JMSSJOBQINFO

Public Class JMSSJOBQINFO

Public	Shared	Size	As Integer	' この構造体クラスのサイズ
Public	QueueName		As String	' ジョブキュー名
Public	JobQueCondition		As Integer	' ジョブキューの状態
Public	MaxRunningJob		As Integer	' 最大ジョブキュー多重度
Public	CurRunningJob		As Integer	' 現在実行中ジョブ数
Public	MaxEntryJob		As Integer	' 最大登録ジョブ数
Public	CurrentEntryJob		As Integer	' 現在登録済みのジョブ数
Public	EntryStatus		As Integer	' 登録状況

End Class

ジョブキュー情報構造体クラスは、ジョブキューの各種情報を格納します。

メンバ

Size
QueueName
JobQueCondition

MaxRunningJob
CurRunningJob
MaxEntryJob
CurrentEntryJob
EntryStatus

説明

この構造体クラスのサイズです。特に変更する必要はありません。
情報を取得するジョブキュー名を指定します。キュー名は最大 15 文字までです。
ジョブキューの状態が通知されます。
次の値のいずれかになります。

値

JMSS_JOBQUECOND_OPEN
JMSS_JOBQUECOND_CLOSE

意味

ジョブキューは開いています。
ジョブキューは閉じています。

ジョブキューの多重度が通知されます。
現在実行中のジョブ数が通知されます。
ジョブキューの登録可能ジョブ数が通知されます。
現在登録されているジョブ数が通知されます。
ジョブキューへの登録状態が通知されます。
次の値のいずれかになります。

値

JMSS_JOBQUEENTSTS_NORMAL
JMSS_JOBQUEENTSTS_WARNING
JMSS_JOBQUEENTSTS_ERROR

意味

登録可能ジョブ数の 90% 以下です。
登録可能ジョブ数の 90% を超えています。
登録可能ジョブ数に達しています。

Entrystatus は、一旦 JMSS_JOBQUEENTSTS_WARNING または JMSS_JOBQUEENTSTS_ERROR となると、登録可能ジョブ数の 80% 未満になるまで値は変化せず、80% 未満になった時点で JMSS_JOBQUEENTSTS_NORMAL となります。

第4章 Visual C++用 API リファレンス

4.1 API 一覧

○ジョブ制御 API

JmssThrowJobEx	指定ジョブの投入を行います。
JmssWaitJobExit	指定ジョブの終了待ちを行います。
JmssGetJobStatusEx	指定のジョブ状態を取得します。
JmssControlJob	指定ジョブの実行制御(強制終了、一時停止、再開、停止、継続)を行います。
JmssGetChildJobList	指定条件で指定ジョブから派生したジョブのジョブ番号一覧を取得します。
JmssCurrentJobNo	自ジョブ番号を取得します。

○イベント処理 API

JmssSendEventEx	指定 JMSS サーバの指定ジョブキューにイベントを送信します。
JmssReceiveEvent	指定イベントの受信待ち合わせを行います。

○ジョブキュー参照 API

JmssDispQueueDialog	ジョブキュー名の一覧ダイアログボックスを表示します。
JmssGetJobQueue	指定したジョブキューの情報を取得します。

○アラート通報 API

JmssReportEvent	ESMPRO マネージャ／ページャにアラートを通報します。
-----------------	-------------------------------

○構造体

JMSSJOBTHROWINFOEX	ジョブ投入情報構造体
JMSSJOBINFOEX	ジョブ情報構造体
JMSSJOBQINFO	ジョブキュー情報構造体

4.2 ジョブ制御 API

①JmssThrowJobEx

DWORD WINAPI JmssThrowJobEx(*lpServerName*, *lpJmssJobThrowInfoEx*, *lpJobNo*)

LPSTR	<i>lpServerName</i>	/* 本バージョンでは使用されません */
LPJMSSJOBTHROWINFOEX	<i>lpJmssJobThrowInfoEx</i>	/* ジョブ投入情報構造体 */
LPLONG	<i>lpJobNo</i>	/* 投入ジョブ番号(返却) */

JmssThrowJobEx 関数は、ジョブ投入構造体 JMSSJOBTHROWINFOEX で指定したジョブの投入を行います。

パラメータ	説明
<i>lpServerName</i>	本バージョンでは使用されません。必ず NULL を指定してください。
<i>lpJmssJobThrowInfoEx</i>	ジョブ投入構造体 JMSSJOBTHROWINFOEX を指すポインタを指定します。
<i>lpJobNo</i>	ジョブ投入が成功した場合に通知される投入ジョブ番号を格納するポインタを指定します。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NOT_ENOUGH_MEMORY
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_THROW
JMSS_QUEUE_NOTFOUND
JMSS_QUEUE_FULL
JMSS_QUEUE_CLOSED
JMSS_PARENTJOB_TERMINATE
JMSS_POWEROFF_TERMINATE
JMSS_EXCLUSIVE_ERROR
JMSS_REJECT_REQUEST

②JmssWaitJobExit

DWORD WINAPI JmssWaitJobExit(lpServerName, lJobNo, lpJmssJobInfo, dwTimeOut)

LPSTR	lpServerName	/* 本バージョンでは使用されません */
LONG	lJobNo	/* ジョブ番号 */
LPJMSSJOBINFO	lpJmssJobInfo	/* 本バージョンでは使用されません */
DWORD	dwTimeOut	/* タイムアウト時間 */

JmssWaitJobExit 関数は、lJobNo で指定したジョブ番号のジョブが終了するまで待ち合わせを行います。すでに指定ジョブが終了している場合には、本関数はすぐに正常終了します。また、タイムアウト時間内にジョブが終了しなかった場合には、エラー終了します。

パラメータ	説明
lpServerName	本バージョンでは使用されません。必ず NULL を指定してください。
lJobNo	待ち合わせを行うジョブのジョブ番号を指定します。
lpJmssJobInfo	本バージョンでは使用されません。必ず NULL を指定してください。
dwTimeOut	タイムアウト時間をミリ秒単位で指定します。 0 を指定した場合は、すぐタイムアウトエラーで終了します。 INFINITE(0xffffffff)を指定した場合は、ジョブが終了するまで無限に待ち続けます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_STOP
JMSS_NO_JOB
JMSS_NO_JOBNO
JMSS_TIMEOUT

③JmssGetJobStatusEx

DWORD WINAPI JmssGetJobStatusEx(*lpServerName*, *lJobNo*, *lpJmssJobInfoEx*)

LPSTR	<i>lpServerName</i>	/* 本バージョンでは使用されません */
LONG	<i>lJobNo</i>	/* ジョブ番号 */
LPJMSSJOBINFOEX	<i>lpJmssJobInfoEx</i>	/* ジョブ情報構造体 */

JmssGetJobStatusEx 関数は、lJobNo で指定したジョブ番号のジョブ状態を取得します。

パラメータ

説明

lpServerName	本バージョンでは使用されません。必ず NULL を指定してください。
lJobNo	情報(状態)取得を行うジョブのジョブ番号を指定します。
lpJmssJobInfoEx	ジョブ情報構造体 JMSSJOBINFOEX を指すポインタを指定します。 関数が正常に終了した場合は、このジョブ情報構造体にジョブ情報(状態)が格納されます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_STOP
JMSS_NO_JOB
JMSS_NO_JOBNO
JMSS_REJECT_REQUEST

④JmssControlJob

DWORD WINAPI JmssControlJob(lpServerName, dwControlMode, lJobNo)

LPSTR	lpServerName	/* 本バージョンでは使用されません */
DWORD	dwControlMode	/* 要求する制御の種類 */
LONG	lJobNo	/* ジョブ番号 */

JmssControlJob 関数は、lJobNo で指定したジョブ番号のジョブに対して、dwControlMode で指定された制御操作を行います。

パラメータ

lpServerName
dwControlMode

説明

本バージョンでは使用されません。必ず NULL を指定してください。
要求する制御の種類を指定します。
このパラメータには、次の値のいずれかを指定します。

値

JMSS_CONTROL_TERMINATE

JMSS_CONTROL_SUSPEND

JMSS_CONTROL_RESUME

JMSS_CONTROL_HOLD

JMSS_CONTROL_RELEASE

JMSS_CONTROL_DELETE

JMSS_CONTROL_STOP

JMSS_CONTROL_CONTINUE

意味

強制終了要求を行います。
対象ジョブが実行中であれば強制終了され、実行待ちであればジョブキューから(登録)削除されます。
実行中のジョブネットワークの一時停止要求を行います。
本要求は実行中のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。
一時停止中のジョブネットワークの再開要求を行います。
本要求は一時停止中のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。
ジョブの保留要求を行います。
本要求は実行待ち／排他待ち／起動リトライ中のジョブに対してのみ有効に働きます。
ジョブの保留解除要求を尾篳舞います。
本要求は保留ジョブに対してのみ有効に働きます。
ジョブの登録削除要求を行います。
本要求は保留／実行待ち／排他待ち／起動リトライ中のジョブに対してのみ有効に働きます。
ジョブの停止要求を行います。
本要求は実行中のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。
ジョブの継続要求を行います。
本要求は停止／強制終了／不明のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。

lJobNo

実行制御を行うジョブのジョブ番号を指定します。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_STOP
JMSS_NO_JOB
JMSS_NO_TERMINATE
JMSS_NO_PAUSE
JMSS_NO_RESTART
JMSS_NOT_JOBNET
JMSS_NO_HOLD
JMSS_NO_RELEASE
JMSS_NO_DELETE
JMSS_NO_STOP
JMSS_NO_CONTINUE
JMSS_NO_JOBNO

⑤JmssGetChildJobList

DWORD WINAPI JmssGetChildJobList(*lpServerName, lJobNo, dwQueryJobStatus, lpdwJobCount, lpJobNoList*)

LPSTR	<i>lpServerName</i>	/* 本バージョンでは使用されません */
LONG	<i>lJobNo</i>	/* ジョブ番号 */
DWORD	<i>dwQueryJobStatus</i>	/* 問い合わせジョブ状態条件 */
LPDWORD	<i>lpdwJobCount</i>	/* 格納配列最大数/格納数 */
LPDWORD	<i>lpJobNoList</i>	/* 派生ジョブ番号格納配列へのポインタ */

JmssGetChildJobList 関数は、lJobNo で指定したジョブ番号のジョブから派生したジョブのうち、問い合わせ条件(ジョブ状態)に一致するジョブのジョブ番号一覧を取得します。

パラメータ

lpServerName	本バージョンでは使用されません。必ず NULL を指定してください。
lJobNo	派生ジョブを問い合わせる親ジョブ番号を指定します。
dwQueryJobStatus	取得したい派生ジョブのジョブ状態条件を指定します。 このパラメータには、次に示す値の組み合わせを指定してください。

値

意味

	JMSS_CONTROL_END 実行終了した派生ジョブを対象とします。
	JMSS_CONTROL_RUN 実行中の派生ジョブを対象とします。
	JMSS_CONTROL_QUE 実行待ち(起動中も含む)の派生ジョブを対象とします。
lpdwJobCount	格納できる配列の最大数を指定します。 関数が正常に終了した場合は格納した数が、指定した最大数で足りない場合は必要数が返却されます。
lpJobNoList	派生ジョブのジョブ番号を格納する配列へのポインタを指定します。 本パラメータが NULL の場合は、lpdwJobCount パラメータに必要数が設定返却されます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_STOP
JMSS_NO_JOB
JMSS_NOT_ENOUGH_BUF
JMSS_NO_JOBNO

⑥JmssCurrentJobNo

DWORD WINAPI JmssCurrentJobNo(*lpServerName*, *lplJobNo*)

LPSTR	<i>lpServerName</i>	/* JMSS サーバ名格納ポインタ */
LPLONG	<i>lplJobNo</i>	/* 自ジョブ番号格納ポインタ */

JmssCurrentJobNo 関数は、自ジョブのジョブ番号と自ジョブを監視している JMSS サーバ名を取得します。

パラメータ

説明

lpServerName

自ジョブを監視している JMSS サーバ名が通知されます。JMSS サーバ名の通知が必要でない場合には、NULL を指定してください。

lplJobNo

自ジョブのジョブ番号が通知されます。監視されていない時は 0 が通知されます。ジョブ番号の通知が必要でない場合には、NULL を指定してください。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_NOWATCH

4.3 イベント処理 API

①JmssSendEventEx

DWORD WINAPI JmssSendEventEx(*lpServerName, lpQueueName, lpEventID, lpMessage, lpParam*)

LPSTR	<i>lpServerName</i>	/* 送信先 JMSS サーバ名指定ポインタ */
LPSTR	<i>lpQueueName</i>	/* 送信先ジョブキュー名指定ポインタ */
LPSTR	<i>lpEventID</i>	/* 送信イベント ID */
LPSTR	<i>lpMessage</i>	/* 送信メッセージポインタ */
LPSTR	<i>lpParam</i>	/* 送信パラメータポインタ */

JmssSendEventEx 関数は、指定 JMSS サーバの指定ジョブキューに、指定のイベント ID、メッセージを送信します。

パラメータ	説明
lpServerName	送信先の JMSS サーバ名を指定します。 送信先の JMSS サーバ名は、NULL で終了していなければなりません。 本パラメータに NULL を指定した場合は、デフォルトの JMSS サーバ名が使用されます。
lpQueueName	送信先ジョブキュー名を指定します。 ジョブキュー名は、NULL で終了していなければなりません。 本パラメータに NULL を指定した場合は、全ジョブキューに対してブロードキャストされます。
lpEventID	4 文字以内のイベント ID 文字列(英数字のみ)へのポインタを指定します。 イベント ID 文字列は、NULL で終了していなければなりません。
lpMessage	128 文字(バイト)以内の送信メッセージ文字列へのポインタを指定します。 送信メッセージ文字列は、NULL で終了していなければなりません。 本パラメータを使用しない場合は、NULL を指定してください。
lpParam	1024 文字(バイト)以内で送信パラメータを指定します。 パラメータと値は「name¥0value¥0name¥0value¥0...name¥0value¥0¥0」の形式で指定します。 送信パラメータ文字列は、NULL で終了していなければなりません。 本パラメータを使用しない場合は、NULL を指定してください。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME

②JmssReceiveEvent

DWORD WINAPI JmssReceiveEvent(*lpEventID*, *lpServerName*, *lpMachineName*, *lpUserName*,
lpMessage, *lpReceiveEventID*, *dwTimeOut*)

LPSTR	<i>lpEventID</i>	/* 受信イベント ID */
LPSTR	<i>lpServerName</i>	/* 送信元 JMSS サーバ名格納ポインタ */
LPSTR	<i>lpMachineName</i>	/* 送信元マシン名格納ポインタ */
LPSTR	<i>lpUserName</i>	/* 送信元ユーザ名格納ポインタ */
LPSTR	<i>lpMessage</i>	/* 受信メッセージポインタ */
LPSTR	<i>lpReceiveEventID</i>	/* 受信イベント ID */
DWORD	<i>dwTimeOut</i>	/* タイムアウト時間 */

JmssReceiveEvent 関数は、指定したイベント ID を指定タイムアウト時間まで受信待ちします。

パラメータ

説明

<i>lpEventID</i>	受信待ちする 4 文字以内のイベント ID 文字列(英数字のみ)を格納したポインタを指定します。 イベント ID 文字列は、NULL で終了していなければなりません。 "*"が指定された場合は、どんなイベント ID でも受信します。
<i>lpServerName</i>	受信したイベント ID を送信した送信元の JMSS サーバ名が通知されます。 本パラメータに NULL を指定した場合は、本通知は行われません。NULL 以外を指定する場合は、16 バイト以上の領域が必要となります。
<i>lpMachineName</i>	受信したイベント ID を送信した送信元のマシン名が通知されます。 本パラメータに NULL を指定した場合は、本通知は行われません。NULL 以外を指定する場合は、16 バイト以上の領域が必要となります。
<i>lpUserName</i>	受信したイベント ID を送信したユーザ名が通知されます。 本パラメータに NULL を指定した場合は、本通知は行われません。NULL 以外を指定する場合は、41 バイト以上の領域が必要となります。
<i>lpMessage</i>	受信した 128 文字(バイト)以内の送信メッセージが格納されます。 本パラメータに NULL を指定した場合は、本通知は行われません。NULL 以外を指定する場合は、129 バイト以上の領域が必要となります。
<i>lpReceiveEventID</i>	受信したイベント ID が格納されます。 本パラメータに NULL を指定した場合は、本通知は行われません。NULL 以外を指定する場合は、5 バイト以上の領域が必要となります。
<i>dwTimeOut</i>	タイムアウト時間を秒単位で指定します。 0 を指定した場合は、すぐタイムアウトエラーで終了します。 INFINITE(0xffffffff)を指定した場合は、指定したイベントを受信するまで無限に待ち続けます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR

JMSS_NOGET_SERVERNAME

JMSS_TIMEOUT

注意

- ①使用するマシンが稼働マシンで、かつ JLook サービスが起動している時にのみ使用可能です。
- ②監視している同一ジョブ内で同時に複数のイベント待ちを行った場合、JLook の画面上に表示される待ちイベント ID は最後にイベント待ち API を呼び出した時のイベント ID が表示されることになります。

4.4 ジョブキュー参照 API

①JmssDispQueueDialog

DWORD WINAPI JmssDispQueueDialog(lpServerName, hwndOwner, lpQueueName, lpMessageTitle)

LPSTR	<i>lpServerName</i>	/* 本バージョンでは使用されません */
HWND	<i>hwndOwner</i>	/* 表示する親ウィンドウハンドル */
LPSTR	<i>lpQueueName</i>	/* 初期選択ジョブキュー名 */
LPSTR	<i>lpMessageTitle</i>	/* エラーメッセージ表示時のタイトル */

JmssDispQueueDialog 関数は、ジョブキュー名の一覧ダイアログボックスを表示します。

パラメータ	説明
lpServerName	本バージョンでは使用されません。必ず NULL を指定してください。
hwndOwner	表示するダイアログボックスの親ウィンドウハンドルを指定します(ない場合は NULL を指定してください)。
lpQueueName	初期選択させたいジョブキュー名を格納したポインタを指定します。 ジョブキュー名は、 NULL で終了していなければなりません。 ダイアログボックスでジョブキュー名が選択された場合には、選択ジョブキュー名が本パラメータの指す領域に格納されます。
lpMessageTitle	エラーメッセージ表示時に表示させるタイトルを格納した文字列へのポインタを指定します。 タイトル文字列は、 NULL で終了していなければなりません。 本パラメータに NULL を指定した場合は、エラーメッセージを表示しません。

戻り値

ユーザがジョブキュー名一覧より任意のジョブキュー名を選択した場合([OK]ボタン選択)は、0 を返します。エラーが発生した場合や、ユーザが[キャンセル]ボタンを選択した場合、ダイアログボックスを閉じた場合などは、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_CANCEL

②JmssGetJobQueue

DWORD WINAPI JmssGetJobQueue(lpcaServerName, lpcaQueueName, lpJmssJobQInfo)

LPSTR	<i>lpcaServerName</i>	/* JMSS サーバ名 */
LPSTR	<i>lpcaQueueName</i>	/* ジョブキュー名 */
LPJMSSJOBQINFO	<i>lpJmssJobQInfo</i>	/* ジョブキュー情報構造体 */

JmssGetJobQueue 関数は、lpcaQueueName で指定したジョブキューの情報を取得します。

この関数を実行するユーザには、JMSS の「セキュリティ設定権」が必要です。

パラメータ	説明
lpcaServerName	JMSS サーバ名を指定します。 JMSS サーバ名は、NULL で終了していなければなりません。 本パラメータに NULL を指定した場合は、デフォルトの JMSS サーバ名が使用されます。
lpcaQueueName	情報取得を行うジョブキュー名を指定します。
lpJmssJobQInfo	ジョブキュー情報構造体を指すポインタを指定します。 関数が正常に終了した場合は、このジョブキュー情報構造体にジョブキュー情報が格納されます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_SECURITY_NO_CONTROL
JMSS_QUEUE_NOTFOUND

4.5 アラート通報 API

①JmssReportEvent

DWORD WINAPI JmssReportEvent(dwMode, dwType, lpcaMessage)

DWORD	<i>dwMode</i>	/* アラートの通知先 */
DWORD	<i>dwType</i>	/* アラートのタイプ */
LPSTR	<i>lpcaMessage</i>	/* 出力するメッセージ */

JmssReportEvent 関数は、ESMPRO マネージャ／ページャにアラート通報します。

パラメータ

説明

dwMode

アラートの通知先を以下の値の組み合わせで指定します。

値

意味

JMSS_JALT_MODE_MANAGER ESMPRO マネージャに通報します。

JMSS_JALT_MODE_PAGER ESMPRO ページャに通報します。

dwType

通報するアラートの種別を以下の値から指定します。

値

意味

JMSS_JALT_TYPE_INFORMATION 情報レベルで通報します。
(アラートビューアでは緑色のマーク)

JMSS_JALT_TYPE_WARNING 警告レベルで通報します。
(アラートビューアでは黄色のマーク)

JMSS_JALT_TYPE_ERROR エラーレベルで通報します。
(アラートビューアでは赤色のマーク)

lpcaMessage

アラート通報するメッセージを指定します。
メッセージは、NULL で終了していなければなりません。

戻り値

正常にアラート通報(イベントログに出力)できた場合、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値を返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NOGET_PRODUCT_ID
JMSS_NOT_REPORT_EVENT
JMSS_NOT_INSTALLED

注意

本 API は ESMPRO/JMSS システム上でのみ使用可能です。

4.6 構造体

①JMSSJOBTHROWINFOEX

```
typedef struct _JMSSJOBTHROWINFOEX {
    DWORD      dwSize;           // この構造体のサイズ
    DWORD      dwPriority;        // ジョブ優先順位
    DWORD      fWatchStdout;     // 標準出力の監視有無
    HANDLE      hStdin;          // 常に NULL
    HANDLE      hStdout;         // 常に NULL
    HANDLE      hStderr;         // 常に NULL
    char        caQueueName[15+1]; // 投入先キュー名
    char        caJobName[32+1];  // ジョブの業務名
    char        caJobPath[256+1]; // ジョブのファイル名
    char        caJobParam[256+1]; // ジョブのパラメータ
    char        caExecDir[256+1]; // 実行時ディレクトリ
    DWORD      dwRepeatLastCount; // 常に 0
    DWORD      dwMaxElapseTime;   // 実行経過タイムアウト時間
    WORD        wExecType;        // ジョブ起動方式
    WORD        wReserve;         // 将来拡張用
    DWORD      dwReserve;         // 将来拡張用
    DWORD      dwMaxWorkingSetSize; // 常に 0
    DWORD      dwTermReport;      // ジョブ終了通知
    char        caStdoutFile[256+1]; // 標準出力内容保存ファイル名
} JMSSJOBTHROWINFOEX, FAR *LPJMSSJOBTHROWINFOEX;
```

ジョブ投入情報構造体は、投入するジョブの情報を格納します。

メンバ

dwSize
dwPriority

説明

この構造体のサイズを必ず指定します。

ジョブの優先順位を指定します。指定できる値は次の 4 種類です。

値	意味
JMSS_PRIORITY_REAL	最高の優先順位でジョブを実行します。オペレーティングシステムを含む他のプロセスよりも優先して実行されますので、処理時間の長いジョブでは、ストールしたような状態になることがあります。一般のジョブでの使用は避けて運用してください。
JMSS_PRIORITY_HIGH	他のジョブより優先して速やかに実行します。CPU を多く使用するジョブでは、アプリケーションを含む他のジョブが全く動作しなくなる場合がありますので、使用には細心の注意が必要です。
JMSS_PRIORITY_NORMAL	システム標準の優先順位でジョブを実行します。通常はこの順位で実行してください。

	JMSS_PRIORITY_IDLE	システムがアイドル状態の時だけジョブを実行します(スクリーンセーバーと同じと考えてください)。
fWatchStdout	標準出力の監視有無を指定します。指定できる値は次のとおりです。	
	値	意味
	JMSS_STDOUT_NOWATCH	標準出力の監視をしません。
	JMSS_STDOUT_SYSTEM_OVERWRITE	標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはシステム標準のファイルに上書きされます。
	JMSS_STDOUT_SYSTEM_APPEND	標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはシステム標準のファイルに追加されます。
	JMSS_STDOUT_USER_OVERWRITE	標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはユーザ指定ファイル(caStdoutFile で指定したファイル名)に上書きされます。
	JMSS_STDOUT_USER_APPEND	標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはユーザ指定ファイル(caStdoutFile で指定したファイル名)に追加されます。
hStdin	本バージョンでは使用されません。常に NULL でなければなりません。	
hStdout	本バージョンでは使用されません。常に NULL でなければなりません。	
hStderr	本バージョンでは使用されません。常に NULL でなければなりません。	
caQueueName	投入先キュー名を指定します。キュー名は最大 15 文字。NULL で終了していなければなりません。	
caJobName	ジョブの業務名を指定します。業務名は最大 32 文字。NULL で終了していなければなりません。	
caJobPath	ジョブのファイル名をフルパスで指定します。最大 256 文字。NULL で終了していなければなりません。	
caJobParam	ジョブのパラメータを指定します。最大 256 文字。NULL で終了していなければなりません。	
caExecDir	ジョブの実行時ディレクトリを指定します。最大 256 文字。NULL で終了していなければなりません。	
dwRepeatLastCount	将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。	
dwMaxElapsedTime	投入したジョブの実行時間を制限したい場合に分単位で指定します。指定できる時間は 0 分～1000 時間 59 分です。指定した時間が経過してもジョブが終了しなかった場合には強制終了し、終了コードは FFFFFFFB になります。	
wExecType	ジョブ起動方式を指定します。指定できる値は次のとおりです。	
	値	意味
	JMSS_EXECTYPE_NONE	指定しません(JMSS/JEnv の「ジョブ起動方式」の設定にてジョブが起動されます)。
	JMSS_EXECTYPE_SERVICE	JLook サービスのアカウントでジョブが起動されます。
	JMSS_EXECTYPE_LOGON	JMSS/JD (JDAdmin)を起動したユーザでジョブが起動されます。
wReserve	将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。	
dwReserve	将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。	

dwMaxWorkingSetSize

dwTermReport

将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。

ジョブの終了を投入元マシンに通知するかどうかを指定します。

「JMSS_SEND_MACHINE」を指定すると、投入ジョブの終了時に投入ジョブのジョブ番号、業務名、終了状態、終了コードが投入元マシンに通知されます。指定できる値は次のとおりです。

値	意味
JMSS_SEND_NO	通知しません。
JMSS_SEND_MACHINE	マシン単位で通知します。

caStdoutFile

標準出力内容をユーザの任意のファイル名で保存したい場合にファイル名を指定します。実行マシンのローカルファイル名か、”¥¥マシン名¥共有名¥ファイル名”で指定してください。

fWatchStdout に JMSS_STDOUT_SYSTEM_OVERWRITE または JMSS_STDOUT_SYSTEM_APEND を指定した場合は””を指定してください。標準出力内容保存ファイル名は最大 256 文字までで、NULL で終了していません。

②JMSSJOBINFOEX

```
typedef struct _JMSSJOBINFOEX{
    DWORD    dwSize;                // この構造体のサイズ
    DWORD    dwJobType;             // ジョブの種類
    DWORD    dwNetId;               // ジョブボックス ID
    DWORD    dwNetRev;              // ジョブネットファイル Revision
    DWORD    dwSecondaryId;         // 派生ジョブ有無 ID
    long     lJobNo;                // ジョブ番号
    long     lRootJobNo;            // ルートジョブ番号
    long     lParentJobNo;          // 親ジョブ番号
    DWORD    dwExitCode;            // ジョブ終了コード
    DWORD    dwJobStatus;           // ジョブ実行状態
    DWORD    dwPriority;             // ジョブ優先順位
    DWORD    dwMinWorkingSet;       // 最小ワーキングセットサイズ
    DWORD    dwMaxWorkingSet;       // 最大ワーキングセットサイズ
    DWORD    dwUserCPUTime;         // ユーザモードの CPU 使用時間(ミリ秒)
    DWORD    dwKernelCPUTime;       // カーネルモードの CPU 使用時間(ミリ秒)
    DWORD    dwTotalCPUTime;        // 全モードの CPU 使用時間(ミリ秒)
    DWORD    dwUserCPUPercent;      // ユーザモードの CPU 使用率(%)
    DWORD    dwKernelCPUPercent;    // カーネルモードの CPU 使用率(%)
    time_t   tBgn;                  // ジョブ開始日付/時間
    time_t   tEnd;                  // ジョブ終了日付/時間
    DWORD    dwRepeatInterval;      // 繰り返し間隔
    DWORD    dwRepeatMaxCount;      // 繰り返し回数
    time_t   tEndTime;              // 繰り返し実行終了時間
    DWORD    dwRepeatCount;         // 繰り返し実行した回数
    char     caEventID[4+1];        // イベント ID
    char     caUserName[40+1];      // 投入元ユーザ名
    char     caWsName[15+1];        // 投入元マシン名
    char     caQueueName[15+1];     // 投入ジョブキュー名
    char     caCompName[15+1];      // 実行先マシン名
    char     caJobName[32+1];       // 業務名
    char     caJobPath[256+1];      // ジョブのファイル名
    char     caJobParam[256+1];     // パラメータ
    char     caExecDir[256+1];      // 実行時ディレクトリ
    char     caOutFileName[256+1];  // 標準出力ファイル名
    DWORD    dwMaxElapsTime;        // 実行経過時間タイムアウト
    WORD     wExecType;             // ジョブ起動方式
    WORD     wReserve;              // 将来拡張用
    DWORD    dwReserve;             // 将来拡張用
    DWORD    dwParentJntNo;         // 継続実行の元となったジョブネットのジョブ番号
    DWORD    dwBranch;              // 将来拡張用
} JMSSJOBINFOEX, FAR *LPJMSSJOBINFOEX;
```


ジョブ情報構造体は、投入したジョブの各種情報を格納通知します。

メンバ

dwSize

dwJobType

説明

この構造体のサイズを必ず指定します。

ジョブの種類が通知されます。

ジョブの種類は、ジョブ種別と補足情報との組み合わせにて通知されます。

値

JMSS_JOBTYPE_BAT

JMSS_JOBTYPE_EXE32

JMSS_JOBTYPE_EXE16

JMSS_JOBTYPE_EXEDOS

JMSS_JOBTYPE_JNT

JMSS_JOBTYPE_COM

JMSS_JOBTYPE_CMD

JMSS_JOBTYPE_PIF

JMSS_JOBTYPE_OS2

JMSS_JOBTYPE_POSIX

補足情報

JMSS_JOBTYPE_STDOUT_APEND

JMSS_JOBTYPE_STDOUT_USERFILE

JMSS_JOBTYPE_STDOUT

JMSS_JOBTYPE_CONTINUE

JMSS_JOBTYPE_REPEAT

JMSS_JOBTYPE_SCHEDULE

dwNetId

dwNetRev

dwSecondaryId

ジョブネットワークファイルにおけるジョブボックス ID が通知されます。

ジョブネットワークファイルの作成レビジョンが通知されます。

派生ジョブの有無 ID が通知されます。ID には次の 2 つがあります。

値

JMSS_NOEXIST_DERIVE_JOB

JMSS_EXIST_DERIVE_JOB

意味

派生ジョブはありません。

派生ジョブがあります。

lJobNo

lRootJobNo

lParentJobNo

ジョブ番号が通知されます。

このジョブの一番最初の親ジョブのジョブ番号が通知されます。本メンバが 0 であった場合は、親ジョブを持っていません。

このジョブの親ジョブのジョブ番号が通知されます。本メンバが 0 であった場合は、親ジョブを持っていません。

dwExitCode

ジョブの終了コードが通知されます。起動エラー、終了(強制終了含む)時のみ意味を持ちます(起動エラー、終了(強制終了含む)以外の場合には 0 が返却されます)。

dwJobStatus	ジョブの実行状態を通知します。次の値のいずれかになります。	
	値	意味
	JMSS_JOBSTATUS_RUN	ジョブは実行中です。
	JMSS_JOBSTATUS_FINISH	ジョブは終了しています。
	JMSS_JOBSTATUS_TERM	ジョブは強制終了されています。
	JMSS_JOBSTATUS_ERROR	ジョブは起動エラーとなっています。
	JMSS_JOBSTATUS_EVENT_REC	ジョブはイベント待ち状態です。
	JMSS_JOBSTATUS_PAUSE	ジョブは一時停止(ジョブキュー内での一時停止も含む)されています。
	JMSS_JOBSTATUS_EVENT_SEND	ジョブはイベント送信を完了しています。
	JMSS_JOBSTATUS_WAIT	ジョブは実行待ちとなっています。
	JMSS_JOBSTATUS_PENDING	ジョブは保留状態になっています。
	JMSS_JOBSTATUS_EXECUTE	ジョブは現在起動中です。
	JMSS_JOBSTATUS_EXCLUSIVE	ジョブは排他資源待ち中です。
	JMSS_JOBSTATUS_RETRY	ジョブは起動リトライ中です。
	JMSS_JOBSTATUS_CHILDJOBRETRY	派生ジョブが起動リトライ中です。
	JMSS_JOBSTATUS_STOP	ジョブは停止しています。
	JMSS_JOBSTATUS_STOPPING	ジョブは停止中です。
	JMSS_JOBSTATUS_JOBBOXRETRY	ジョブボックスリトライ中です。
	JMSS_JOBSTATUS_UNKNOWN	ジョブ状態は不明です(ジョブ実行中に JLook サービスが予期せぬ終了をしました)。
dwPriority	ジョブの優先順位が通知されます。次の 4 種類の値のいずれかになります。	
	値	意味
	JMSS_PRIORITY_REAL	最高の優先順位でジョブを実行しています。
	JMSS_PRIORITY_HIGH	他のジョブより優先して実行しています。
	JMSS_PRIORITY_NORMAL	システム標準の優先順位でジョブを実行しています。
	JMSS_PRIORITY_IDLE	最低の優先順位でジョブを実行しています。
dwMinWorkingSet	最小ワーキングセットサイズを通知します。	
dwMaxWorkingSet	最小ワーキングセットサイズを通知します。	
dwUserCPUTime	ユーザモードの CPU 使用時間をミリ秒単位で通知します。	
dwKernelCPUTime	カーネルモードの CPU 使用時間をミリ秒単位で通知します。	
dwTotalCPUTime	全モードの CPU 使用時間をミリ秒単位で通知します。	
dwUserCPUPercent	ユーザモードの CPU 使用率を%で通知します。	
dwKernelCPUPercent	カーネルモードの CPU 使用率を%で通知します。	
tBgn	ジョブ開始日付/時間を通知します。	
tEnd	ジョブ終了日付/時間を通知します。	
dwRepeatInterval	繰り返し周期の時間間隔が秒単位で通知されます。繰り返し実行以外の場合は常に 0 です。	
dwRepeatMaxCount	繰り返し回数が通知されます。繰り返し回数指定で起動されたジョブ以外は常に 0 です。	
tEndTime	繰り返し実行における終了時間が通知されます。終了時間指定で繰り返し起動されたジョブ以外は常に 0 です。	
dwRepeatCount	繰り返して実行された回数が通知されます。本メンバは、ジョブ終了時にのみ設定され、他のジョブ状態の時には意味を持ちません。	
caEventID	イベント ID が NULL で終わる文字列(最大 4 文字)として通知されます。	
caUserName	投入元のユーザ名が NULL で終わる文字列(最大 40 文字)として通知されます。	

caWsName	投入元のマシン名が NULL で終わる文字列(最大 15 文字)として通知されます。								
caQueueName	投入ジョブキュー名が NULL で終わる文字列(最大 15 文字)として通知されます。								
caCompName	実行先のマシン名が NULL で終わる文字列(最大 15 文字)として通知されます。								
caJobName	業務名が NULL で終わる文字列(最大 32 文字)として通知されます。								
caJobPath	ジョブのファイル名が NULL で終わる文字列(最大 256 文字)としてフルパスで通知されます。								
caJobParam	ジョブ投入時に指定したパラメータが NULL で終わる文字列(最大 256 文字)として通知されます。								
caExecDir	ジョブの実行時ディレクトリが NULL で終わる文字列(最大 256 文字)として通知されます。								
caOutFileName	標準出力ファイル名が NULL で終わる文字列(最大 256 文字)としてフルパスで通知されます。								
dwMaxElapsTime	実行経過時間タイムアウト時間が分単位で通知されます。未設定の場合は 0 が通知されます。								
wExecType	ジョブの起動方式が通知されます。次の値のいずれかになります。 <table> <tr> <th>値</th><th>意味</th></tr> <tr> <td>JMSS_EXECTYPE_NONE</td><td>ジョブが起動されていません。</td></tr> <tr> <td>JMSS_EXECTYPE_SERVICE</td><td>JLook サービスのアカウントでジョブが起動されています。</td></tr> <tr> <td>JMSS_EXECTYPE_LOGON</td><td>JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されています。</td></tr> </table>	値	意味	JMSS_EXECTYPE_NONE	ジョブが起動されていません。	JMSS_EXECTYPE_SERVICE	JLook サービスのアカウントでジョブが起動されています。	JMSS_EXECTYPE_LOGON	JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されています。
値	意味								
JMSS_EXECTYPE_NONE	ジョブが起動されていません。								
JMSS_EXECTYPE_SERVICE	JLook サービスのアカウントでジョブが起動されています。								
JMSS_EXECTYPE_LOGON	JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されています。								
wReserve	将来拡張用です。								
dwReserve	将来拡張用です。								
dwParentJntNo	継続実行の元となったジョブネットのジョブ番号が通知されます。通常は 0 が通知されます。								
dwBranch	将来拡張用です。								

③JMSSJOBQINFO

```
typedef struct _JMSSJOBQINFO {  
    DWORD      dwSize;           // 構造体サイズ  
    char        caQueueName[15+1]; // ジョブキュー名  
    DWORD      dwJobQueCondition; // ジョブキューの状態  
    DWORD      dwMaxRunningJob;   // 最大ジョブキュー多重度  
    DWORD      dwCurRunningJob;  // 現在実行中ジョブ数  
    DWORD      dwMaxEntryJob;    // 最大登録ジョブ数  
    DWORD      dwCurrentEntryJob; // 現在登録済みのジョブ数  
    DWORD      dwEntryStatus;    // 登録状況  
} JMSSJOBQINFO, FAR *LPJMSSJOBQINFO;
```

ジョブキュー情報構造体は、ジョブキューの各種情報を格納します。

メンバ

	説明
dwSize	この構造体のサイズを必ず指定します。
caQueueName	情報を取得するジョブキュー名を指定します。キュー名は最大 15 文字までです。
dwJobQueCondition	ジョブキューの状態が通知されます。 次の値のいずれかになります。

値

JMSS_JOBQUECOND_OPEN
JMSS_JOBQUECOND_CLOSE

意味

ジョブキューは開いています。
ジョブキューは閉じています。

dwMaxRunningJob	ジョブキューの多重度が通知されます。
dwCurRunningJob	現在実行中のジョブ数が通知されます。
dwMaxEntryJob	ジョブキューの登録可能ジョブ数が通知されます。
dwCurrentEntryJob	現在登録されているジョブ数が通知されます。
dwEntryStatus	ジョブキューへの登録状態が通知されます。 次の値のいずれかになります。

値

JMSS_JOBQUEENTSTS_NORMAL
JMSS_JOBQUEENTSTS_WARNING
JMSS_JOBQUEENTSTS_ERROR

意味

登録可能ジョブ数の 90% 以下です。
登録可能ジョブ数の 90% を超えています。
登録可能ジョブ数に達しています。

dwEntryStatus は、一旦 JMSS_JOBQUEENTSTS_WARNING または JMSS_JOBQUEENTSTS_ERROR となると、登録可能ジョブ数の 80% 未満になるまで値は変化せず、80% 未満になった時点で JMSS_JOBQUEENTSTS_NORMAL となります。

第5章 Visual Basic 用 API リファレンス

5.1 API 一覧

○ジョブ制御 API

JmssThrowJobEx	指定ジョブの投入を行います。
JmssWaitJobExit	指定ジョブの終了待ちを行います。
JmssGetJobStatusEx	指定のジョブ状態を取得します。
JmssControlJob	指定ジョブの実行制御(強制終了、一時停止、再開)を行います。
JmssGetChildJobList	指定条件で指定ジョブから派生したジョブのジョブ番号一覧を取得します。
JmssCurrentJobNo	自ジョブ番号を取得します。
JmssSetErrorLevel	errorlevel を設定します。

○イベント処理 API

JmssSendEventEx	指定 JMSS サーバの指定ジョブキューにイベントを送信します。
JmssReceiveEvent	指定イベントの受信待ち合わせを行います。

○ジョブキュー参照 API

JmssDispQueueDialog	ジョブキュー名の一覧ダイアログボックスを表示します。
JmssGetJobQueue	指定したジョブキューの情報を取得します。

○アラート通報 API

JmssReportEvent	ESMPRO マネージャ／ページャにアラートを通報します。
-----------------	-------------------------------

○データ定義型

JMSSJOBTHROWINFOEX	ジョブ投入情報データ定義型
JMSSJOBINFOEX	ジョブ情報データ定義型
JMSSJOBQINFO	ジョブキュー情報データ定義型

5.2 ジョブ制御 API

①JmssThrowJobEx

```
Declare Function JmssThrowJobEx Lib "JAPI"  
    (ByVal lpServerName As String  
     ByRef lpJmssJobThrowInfoEx As JMSSJOBTHROWINFOEX  
     ByRef lpJobNo As Long)  
    As Long  
  
ByVal lpServerName As String ' 本バージョンでは使用されません  
ByRef lpJmssJobThrowInfoEx As JMSSJOBTHROWINFOEX ' ジョブ投入情報構造体  
ByRef lpJobNo As Long ' 投入ジョブ番号(返却)
```

JmssThrowJobEx 関数は、ジョブ投入データ定義型 JMSSJOBTHROWINFOEX で指定したジョブの投入を行います。

パラメータ	説明
lpServerName	本バージョンでは使用されません。必ず vbNullString を指定してください。
lpJmssJobThrowInfoEx	ジョブ投入データ定義型 JMSSJOBTHROWINFOEX を指すポインタを指定します。
lpJobNo	ジョブ投入が成功した場合に通知される投入ジョブ番号を格納するポインタを指定します。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

```
JMSS_PARAM_ERROR  
JMSS_NOT_ENOUGH_MEMORY  
JMSS_NO_CONNECT  
JMSS_NOGET_SERVERNAME  
JMSS_SECURITY_NO_USE  
JMSS_SECURITY_NO_THROW  
JMSS_QUEUE_NOTFOUND  
JMSS_QUEUE_FULL  
JMSS_QUEUE_CLOSED  
JMSS_PARENTJOB_TERMINATE  
JMSS_POWEROFF_TERMINATE  
JMSS_EXCLUSIVE_ERROR  
JMSS_REJECT_REQUEST
```

②JmssWaitJobExit

Declare Function	JmssWaitJobExit	Lib "JAPI"
	(ByVal <i>lpServerName</i>	As String
	ByVal <i>lJobNo</i>	As Long
	ByRef <i>lpJmssJobInfo</i>	As Any
	ByVal <i>dwTimeOut</i>	As Long)
	As Long	
ByVal <i>lpServerName</i>	As String	' 本バージョンでは使用されません
ByVal <i>lJobNo</i>	As Long	' ジョブ番号
ByRef <i>lpJmssJobInfo</i>	As Any	' 本バージョンでは使用されません
ByVal <i>dwTimeOut</i>	As Long	' タイムアウト時間

JmssWaitJobExit 関数は、lJobNo で指定したジョブ番号のジョブが終了するまで待ち合わせを行います。すでに指定ジョブが終了している場合には、本関数はすぐに正常終了します。また、タイムアウト時間内にジョブが終了しなかった場合には、エラー終了します。

パラメータ

説明

lpServerName	本バージョンでは使用されません。必ず vbNullString を指定してください。
lJobNo	待ち合わせを行うジョブのジョブ番号を指定します。
lpJmssJobInfo	本バージョンでは使用されません。必ず Null を指定してください。
dwTimeOut	タイムアウト時間をミリ秒単位で指定します。 0 を指定すると、すぐタイムアウトエラーで終了します。&HFFFF を指定すると、ジョブが終了するまで無限に待ち続けます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_STOP
JMSS_NO_JOB
JMSS_TIMEOUT
JMSS_NO_JOBNO

③JmssGetJobStatusEx

Declare Function	JmssGetJobStatusEx	Lib "JAPI"
	(ByVal <i>lpServerName</i>	As String
	ByVal <i>lJobNo</i>	As Long
	ByRef <i>lpJmssJobInfoEx</i>	As JMSSJOBINFOEX)
	As Long	
ByVal <i>lpServerName</i>	As String	' 本バージョンでは使用されません
ByVal <i>lJobNo</i>	As Long	' ジョブ番号
ByRef <i>lpJmssJobInfoEx</i>	As JMSSJOBINFOEX	' ジョブ情報データ定義型

JmssGetJobStatusEx 関数は、lJobNo で指定したジョブ番号のジョブ状態を取得します。

パラメータ

説明

lpServerName	本バージョンでは使用されません。必ず vbNullString を指定してください。
lJobNo	情報(状態)取得を行うジョブのジョブ番号を指定します。
lpJmssJobInfoEx	ジョブ情報構造体 JMSSJOBINFOEX を指すポインタを指定します。 関数が正常に終了した場合は、このジョブ情報構造体にジョブ情報(状態)が格納されます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_STOP
JMSS_NO_JOB
JMSS_NO_JOBNO
JMSS_REJECT_REQUEST

④JmssControlJob

Declare Function	JmssControlJob	Lib "JAPI"
	(ByVal <i>lpServerName</i>	As String
	ByVal <i>dwControlMode</i>	As Long
	ByVal <i>lJobNo</i>	As Long)
	As Long	
ByVal <i>lpServerName</i>	As String	' 本バージョンでは使用されません
ByVal <i>dwControlMode</i>	As Long	' 要求する制御の種類
ByVal <i>lJobNo</i>	As Long	' ジョブ番号

JmssControlJob 関数は、lJobNo で指定したジョブ番号のジョブに対して、dwControlMode で指定された制御操作を行います。

パラメータ	説明
lpServerName	本バージョンでは使用されません。必ず vbNullString を指定してください。
dwControlMode	要求する制御の種類を指定します。 このパラメータには、次の値のいずれかを指定します。
値	意味
JMSS_CONTROL_TERMINATE	強制終了要求を行います。 対象ジョブが実行中であれば強制終了され、実行待ちであればジョブキューから(登録)削除されます。
JMSS_CONTROL_SUSPEND	実行中のジョブネットワークの一時停止要求を行います。 本要求は実行中のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。
JMSS_CONTROL_RESUME	一時停止中のジョブネットワークの再開要求を行います。 本要求は一時停止中のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。
JMSS_CONTROL_HOLD	ジョブの保留要求を行います。 本要求は実行待ち／排他待ち／起動リトライ中のジョブに対してのみ有効に働きます。
JMSS_CONTROL_RELEASE	ジョブの保留解除要求を尾篭舞います。 本要求は保留ジョブに対してのみ有効に働きます。
JMSS_CONTROL_DELETE	ジョブの登録削除要求を行います。 本要求は保留／実行待ち／排他待ち／起動リトライ中のジョブに対してのみ有効に働きます。
JMSS_CONTROL_STOP	ジョブの停止要求を行います。 本要求は実行中のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。
JMSS_CONTROL_CONTINUE	ジョブの継続要求を行います。 本要求は停止／強制終了／不明のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。
lJobNo	実行制御を行うジョブのジョブ番号を指定します。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_STOP
JMSS_NO_JOB
JMSS_NO_TERMINATE
JMSS_NO_PAUSE
JMSS_NO_RESTART
JMSS_NOT_JOBNET
JMSS_NO_HOLD
JMSS_NO_RELEASE
JMSS_NO_DELETE
JMSS_NO_STOP
JMSS_NO_CONTINUE
JMSS_NO_JOBNO

⑤JmssGetChildJobList

Declare Function	JmssGetChildJobList	Lib "JAPI"
	(ByVal <i>lpServerName</i>	As String
	ByVal <i>lJobNo</i>	As Long
	ByVal <i>dwQueryJobStatus</i>	As Long
	ByRef <i>lpdwJobCount</i>	As Long
	ByRef <i>lpJobNoList</i>	As Any)
	As Long	
ByVal <i>lpServerName</i>	As String	' 本バージョンでは使用されません
ByVal <i>lJobNo</i>	As Long	' ジョブ番号
ByVal <i>dwQueryJobStatus</i>	As Long	' 問い合わせジョブ状態条件
ByRef <i>lpdwJobCount</i>	As Long	' 格納配列最大数/格納数
ByRef <i>lpJobNoList</i>	As Any	' 派生ジョブ番号格納配列へのポインタ

JmssGetChildJobList 関数は、lJobNo で指定したジョブ番号のジョブから派生したジョブのうち、問い合わせ条件(ジョブ状態)に一致するジョブのジョブ番号一覧を取得します。

パラメータ	説明								
lpServerName	本バージョンでは使用されません。必ず vbNullString を指定してください。								
lJobNo	派生ジョブを問い合わせる親ジョブ番号を指定します。								
dwQueryJobStatus	取得したい派生ジョブのジョブ状態条件を指定します。 このパラメータには、次に示す値の組み合わせを指定します。								
	<table> <tr> <th>値</th><th>意味</th></tr> <tr> <td>JMSS_CONTROL_END</td><td>実行終了した派生ジョブを対象とします。</td></tr> <tr> <td>JMSS_CONTROL_RUN</td><td>実行中の派生ジョブを対象とします。</td></tr> <tr> <td>JMSS_CONTROL_QUE</td><td>実行待ち(起動中も含む)の派生ジョブを対象とします。</td></tr> </table>	値	意味	JMSS_CONTROL_END	実行終了した派生ジョブを対象とします。	JMSS_CONTROL_RUN	実行中の派生ジョブを対象とします。	JMSS_CONTROL_QUE	実行待ち(起動中も含む)の派生ジョブを対象とします。
値	意味								
JMSS_CONTROL_END	実行終了した派生ジョブを対象とします。								
JMSS_CONTROL_RUN	実行中の派生ジョブを対象とします。								
JMSS_CONTROL_QUE	実行待ち(起動中も含む)の派生ジョブを対象とします。								
lpdwJobCount	格納できる配列の最大数を指定します。 関数が正常に終了した場合は格納した数が、指定した最大数で足りない場合は必要数が返却されます。								
lpJobNoList	派生ジョブのジョブ番号を格納する配列へのポインタを指定します。 NULL を指定すると、lpdwJobCount パラメータに必要数が設定返却されます。								

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
 JMSS_NO_CONNECT
 JMSS_NOGET_SERVERNAME
 JMSS_SECURITY_NO_USE
 JMSS_SECURITY_NO_STOP
 JMSS_NO_JOB
 JMSS_NOT_ENOUGH_BUF
 JMSS_NO_JOBNO

⑥JmssCurrentJobNo

```
Declare Function JmssCurrentJobNo Lib "JAPI"  
    (ByVal lpServerName As String  
     ByRef lpJobNo As Long)  
    As Long  
  
ByVal lpServerName As String ' JMSS サーバ名格納ポインタ  
ByRef lpJobNo As Long ' 自ジョブ番号格納ポインタ
```

JmssCurrentJobNo 関数は、自ジョブのジョブ番号と自ジョブを監視している JMSS サーバ名を取得します。

パラメータ	説明
<i>lpServerName</i>	自ジョブを監視している JMSS サーバ名が通知されます。JMSS サーバ名の通知が必要でない場合には、vbNullString を指定してください。
<i>lpJobNo</i>	自ジョブのジョブ番号が通知されます。監視されていない時は 0 が通知されます。ジョブ番号の通知が必要でない場合には、vbNullString を指定してください。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_NOWATCH

⑦JmssSetErrorLevel

```
Declare Sub JmssSetErrorLevel Lib "JAPI"  
    (ByVal lErrorLevel As Long)  
  
ByVal lErrorLevel As Long ' 終了コード
```

JmssSetErrorLevel 関数は、VBアプリケーションから **ERRORLEVEL** を設定したいときに使用します。JLook の終了コードに表示され、ジョブネットの条件分岐で終了コードの判別が可能となります。この関数は、終了コードを設定後、VBアプリケーションを終了します。

プロシージャを終了させる End ステートメント等の終了ステートメントの代わりに記述します。

パラメータ	説明
<i>lErrorLevel</i>	終了コードを指定します。 ERRORLEVEL に設定されます。

戻り値

戻り値はありません。

5.3 イベント処理 API

①JmssSendEventEx

Declare	Function	JmssSendEventEx	Lib	"JAPI"
		(ByVal <i>lpServerName</i>	As String	
		ByVal <i>lpQueueName</i>	As String	
		ByVal <i>lpEventID</i>	As String	
		ByVal <i>lpMessage</i>	As String	
		ByVal <i>lpParam</i>	As String)	
		As Long		
ByVal <i>lpServerName</i>	As String	' 送信先 JMSS サーバ名指定ポインタ		
ByVal <i>lpQueueName</i>	As String	' 送信先ジョブキュー名指定ポインタ		
ByVal <i>lpEventID</i>	As String	' 送信イベント ID		
ByVal <i>lpMessage</i>	As String	' 送信メッセージポインタ		
ByVal <i>lpParam</i>	As String	' 送信パラメータポインタ		

JmssSendEventEx 関数は、指定 JMSS サーバの指定ジョブキューに指定のイベント ID、メッセージを送信します。

パラメータ	説明
<i>lpServerName</i>	送信先の JMSS サーバ名を指定します。 送信先の JMSS サーバ名は、Chr\$(0)で終了していなければなりません。 vbNullString を指定すると、デフォルトの JMSS サーバ名が使用されます。
<i>lpQueueName</i>	送信先ジョブキュー名を指定します。 ジョブキュー名は、Chr\$(0)で終了していなければなりません。 vbNullString を指定すると、全ジョブキューに対してブロードキャストされます。
<i>lpEventID</i>	4 文字以内のイベント ID 文字列(英数字のみ)へのポインタを指定します。 イベント ID 文字列は、Chr\$(0)で終了していなければなりません。
<i>lpParam</i>	1024 文字(バイト)以内の送信パラメータ文字列へのポインタを指定します。 パラメータと値は vbNullString で区切ってください。 送信メッセージ文字列は、Chr\$(0)で終了していなければなりません。
<i>lpMessage</i>	送信メッセージを使用しない場合は、vbNullString を指定してください。 128 文字(バイト)以内の送信メッセージ文字列へのポインタを指定します。 送信メッセージ文字列は、Chr\$(0)で終了していなければなりません。 送信メッセージを使用しない場合は、vbNullString を指定してください。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME

②JmssReceiveEvent

Declare Function **JmssReceiveEvent** Lib "JAPI"

(ByVal *lpEventID* As String
ByVal *lpServerName* As String
ByVal *lpMachineName* As String
ByVal *lpUserName* As String
ByVal *lpMessage* As String
ByVal *lpReceiveEventID* As String
ByVal *dwTimeOut* As Long)
As Long

ByVal <i>lpEventID</i>	As String	' 受信イベント ID
ByVal <i>lpServerName</i>	As String	' 送信元 JMSS サーバ名格納ポインタ
ByVal <i>lpMachineName</i>	As String	' 送信元マシン名格納ポインタ
ByVal <i>lpUserName</i>	As String	' 送信元ユーザ名格納ポインタ
ByVal <i>lpMessage</i>	As String	' 受信メッセージポインタ
ByVal <i>lpReceiveEventID</i>	As String	' 受信イベント ID
ByVal <i>dwTimeOut</i>	As Long	' タイムアウト時間

JmssReceiveEvent 関数は、指定したイベント ID を指定タイムアウト時間まで受信待ちします。

パラメータ

説明

lpEventID	受信待ちする 4 文字以内のイベント ID 文字列(英数字のみ)を格納したポインタを指定します。 イベント ID 文字列は、Chr\$(0)で終了していなければなりません。 "*"が指定された場合は、どんなイベント ID でも受信します。
lpServerName	受信したイベント ID を送信した送信元の JMSS サーバ名が通知されます。 vbNullString を指定すると、通知は行われません。vbNullString 以外を指定する場合は、16 バイト以上の領域が必要となります。
lpMachineName	受信したイベント ID を送信した送信元のマシン名が通知されます。 vbNullString を指定すると、通知は行われません。vbNullString 以外を指定する場合は、16 バイト以上の領域が必要となります。
lpUserName	受信したイベント ID を送信したユーザ名が通知されます。 vbNullString を指定すると、通知は行われません。vbNullString 以外を指定する場合は、41 バイト以上の領域が必要となります。
lpMessage	受信した 128 文字(バイト)以内の送信メッセージが格納されます。 vbNullString を指定すると、通知は行われません。vbNullString 以外を指定する場合は、129 バイト以上の領域が必要となります。
lpReceiveEventID	受信したイベント ID が格納されます。 vbNullString を指定すると、通知は行われません。vbNullString 以外を指定する場合は、5 バイト以上の領域が必要となります。
dwTimeOut	タイムアウト時間を秒単位で指定します。 0 を指定すると、すぐタイムアウトエラーで終了します。&HFFFF を指定すると、指定したイベントを受信するまで無限に待ち続けます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_TIMEOUT

注意

- ③ 使用するマシンが稼働マシンで、かつ JLook サービスが起動している時にのみ使用可能です。
- ④ 監視している同一ジョブ内で同時に複数のイベント待ちを行った場合、JLook の画面上に表示される待ちイベント ID は最後にイベント待ち API を呼び出した時のイベント ID が表示されることになります。

5.4 ジョブキュー参照 API

①JmssDispQueueDialog

Declare	Function	JmssDispQueueDialog	Lib	"JAPI"
		(ByVal <i>lpServerName</i>		As String
		ByVal <i>hwndOwner</i>		As Long
		ByVal <i>lpQueueName</i>		As String
		ByVal <i>lpMessageTitle</i>		As String)
		As Long		
ByVal <i>lpServerName</i>		As String		' 本バージョンでは使用されません
ByVal <i>hwndOwner</i>		As Long		' 表示する親ウィンドウハンドル
ByVal <i>lpQueueName</i>		As String		' 初期選択ジョブキュー名
ByVal <i>lpMessageTitle</i>		As String		' エラーメッセージ表示時のタイトル

JmssDispQueueDialog 関数は、ジョブキュー名の一覧ダイアログボックスを表示します。

パラメータ	説明
<i>lpServerName</i>	本バージョンでは使用されません。 必ず <code>vbNullString</code> を指定してください。
<i>hwndOwner</i>	表示するダイアログボックスの親ウィンドウハンドルを指定します(ない場合は <code>vbNullString</code> を指定してください)。
<i>lpQueueName</i>	初期選択させたいジョブキュー名を格納したポインタを指定します。 ジョブキュー名は、 <code>Chr\$(0)</code> で終了していなければなりません。 ダイアログボックスでジョブキュー名が選択された場合には、選択ジョブキュー名が本パラメータの指す領域に格納されます。
<i>lpMessageTitle</i>	エラーメッセージ表示時に表示させるタイトルを格納した文字列へのポインタを指定します。 タイトル文字列は、 <code>Chr\$(0)</code> で終了していなければなりません。 <code>vbNullString</code> を指定すると、エラーメッセージを表示しません。

戻り値

ユーザがジョブキュー名一覧より任意のジョブキュー名を選択した場合([OK]ボタン選択)は、0 を返します。エラーが発生した場合や、ユーザが[キャンセル]ボタンを選択した場合、ダイアログボックスを閉じた場合などは、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_CANCEL

②JmssGetJobQueue

Declare Function **JmssGetJobQueue** Lib "JAPI"

(ByVal lpServerName	As String
ByVal lpQueueName	As String
ByRef lpJmssJobQInfo	As JMSSJOBQINFO)
As Long	

ByVal lpServerName	As String	' JMSS サーバ名
ByVal lpQueueName	As String	' ジョブキュー名
ByRef lpJmssJobQInfo	As JMSSJOBQINFO	' ジョブキュー情報データ定義型

JmssGetJobQueue 関数は、lpQueueName で指定したジョブキューの情報を取得します。
この関数を実行するユーザには、JMSS の「セキュリティ設定権」が必要です。

パラメータ

説明

lpServerName	JMSS サーバ名を指定します。 JMSS サーバ名は、Chr\$(0)で終了していなければなりません。 本パラメータに vbNullString を指定した場合は、デフォルトの JMSS サーバ名が使用されます。
lpQueueName	情報取得を行うジョブキュー名を指定します。 ジョブキュー名は、Chr\$(0)で終了していなければなりません。
lpJmssJobQInfo	ジョブキュー情報データ定義型を指すポインタを指定します。 関数が正常に終了した場合は、このジョブキュー情報データ定義型にジョブキュー情報が格納されます。

戻り値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_SECURITY_NO_CONTROL
JMSS_QUEUE_NOTFOUND

5.5 アラート通報 API

①JmssReportEvent

Declare Function	JmssReportEvent Lib "JAPI"	
	(ByVal <i>dwMode</i>	As Long
	ByVal <i>dwType</i>	As Long
	ByVal <i>lpcaMessage</i>	As String)
	As Long	
ByVal <i>dwMode</i>	As Long	' アラートの通知先
ByVal <i>dwType</i>	As Long	' アラートのタイプ
ByVal <i>lpcaMessage</i>	As String	' 出力するメッセージ

JmssReportEvent 関数は、ESMPRO マネージャ／ページャにアラート通報します。

パラメータ	説明								
dwMode	アラートの通知先を以下の値の組み合わせで指定します <table><tr><th>値</th><th>意味</th></tr><tr><td>JMSS_JALT_MODE_MANAGER</td><td>ESMPRO マネージャに通報します。</td></tr><tr><td>JMSS_JALT_MODE_PAGER</td><td>ESMPRO ページャに通報します。</td></tr></table>	値	意味	JMSS_JALT_MODE_MANAGER	ESMPRO マネージャに通報します。	JMSS_JALT_MODE_PAGER	ESMPRO ページャに通報します。		
値	意味								
JMSS_JALT_MODE_MANAGER	ESMPRO マネージャに通報します。								
JMSS_JALT_MODE_PAGER	ESMPRO ページャに通報します。								
dwType	通報するアラートの種別を以下の値から指定します。 <table><tr><th>値</th><th>意味</th></tr><tr><td>JMSS_JALT_TYPE_INFORMATION</td><td>情報レベルで通報します。 (アラートビューアでは緑色のマーク)</td></tr><tr><td>JMSS_JALT_TYPE_WARNING</td><td>警告レベルで通報します。 (アラートビューアでは黄色のマーク)</td></tr><tr><td>JMSS_JALT_TYPE_ERROR</td><td>エラーレベルで通報します。 (アラートビューアでは赤色のマーク)</td></tr></table>	値	意味	JMSS_JALT_TYPE_INFORMATION	情報レベルで通報します。 (アラートビューアでは緑色のマーク)	JMSS_JALT_TYPE_WARNING	警告レベルで通報します。 (アラートビューアでは黄色のマーク)	JMSS_JALT_TYPE_ERROR	エラーレベルで通報します。 (アラートビューアでは赤色のマーク)
値	意味								
JMSS_JALT_TYPE_INFORMATION	情報レベルで通報します。 (アラートビューアでは緑色のマーク)								
JMSS_JALT_TYPE_WARNING	警告レベルで通報します。 (アラートビューアでは黄色のマーク)								
JMSS_JALT_TYPE_ERROR	エラーレベルで通報します。 (アラートビューアでは赤色のマーク)								
lpcaMessage	アラート通報するメッセージを指定します。 メッセージは、Chr\$(0)で終了していなければなりません。								

戻り値

正常にアラート通報(イベントログに出力)できた場合、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値を返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NOGET_PRODUCT_ID
JMSS_NOT_REPORT_EVENT
JMSS_NOT_INSTALLED

注意

本 API は ESMPRO/JMSS システム上でのみ使用可能です。

5.6 データ定義型

①JMSSJOBTHROWINFOEX

Public Type JMSSJOBTHROWINFOEX

<i>dwSize</i>	As Long	' このデータ型のサイズ(1128 を指定)
<i>dwPriority</i>	As Long	' ジョブ優先順位
<i>fWatchStdout</i>	As Long	' 標準出力の監視有無
<i>hStdin</i>	As Long	' 常に 0
<i>hStdout</i>	As Long	' 常に 0
<i>hStderr</i>	As Long	' 常に 0
<i>caQueueName</i>	As String*16	' 投入先キュー名
<i>caJobName</i>	As String*33	' ジョブの業務名
<i>caJobPath</i>	As String*257	' ジョブのファイル名
<i>caJobParam</i>	As String*257	' ジョブのパラメータ
<i>caExecDir</i>	As String*257	' 実行時ディレクトリ
<i>dwRepeatLastCount</i>	As Long	' 常に 0
<i>dwMaxElapseTime</i>	As Long	' 実行経過時間タイムアウト
<i>wExecType</i>	As Short	' ジョブ起動方式
<i>wReserve</i>	As Short	' 将来拡張用
<i>dwReserve</i>	As Long	' 将来拡張用
<i>dwMaxWorkingSetSize</i>	As Long	' 常に 0
<i>dwTermReport</i>	As Long	' ジョブ終了通知
<i>caStdoutFile</i>	As String*257	' 標準出力内容保存ファイル

End Type

ジョブ投入情報データ定義型は、投入するジョブの情報を格納します。

メンバ

dwSize

dwPriority

説明

このデータ型のサイズ(1128)を指定します。

ジョブの優先順位を指定します。指定できる値は次の 4 種類です。

値	意味
JMSS_PRIORITY_REAL	最高の優先順位でジョブを実行します。オペレーティングシステムを含む他のプロセスよりも優先して実行されますので、処理時間の長いジョブでは、ストールしたような状態になることがあります。一般のジョブでの使用は避けて運用してください。
JMSS_PRIORITY_HIGH	他のジョブより優先して速やかに実行します。CPU を多く使用するジョブでは、アプリケーションを含む他のジョブが全く動作しなくなる場合がありますので、使用には細心の注意が必要です。
JMSS_PRIORITY_NORMAL	システム標準の優先順位でジョブを実行します。通常はこの順位で実行してください。
JMSS_PRIORITY_IDLE	システムがアイドル状態の時だけジョブを実行します(スクリーンセーバーと同じと考えてください)。

fWatchStdout

標準出力の監視有無を指定します。指定できる値は次のとおりです。

値	意味
JMSS_STDOUT_NOWATCH	標準出力の監視をしません。
JMSS_STDOUT_SYSTEM_OVERWRITE	標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはシステム標準のファイルに上書きされます。
JMSS_STDOUT_SYSTEM_APEND	標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはシステム標準のファイルに追加されます。
JMSS_STDOUT_USER_OVERWRITE	標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはユーザ指定ファイル(caStdoutFile で指定したファイル名)に上書きされます。
JMSS_STDOUT_USER_APEND	標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはユーザ指定ファイル(caStdoutFile で指定したファイル名)に追加されます。

hStdin

本バージョンでは使用されません。常に 0 でなければなりません。

hStdout

本バージョンでは使用されません。常に 0 でなければなりません。

hStderr

本バージョンでは使用されません。常に 0 でなければなりません。

caQueueName

投入先キュー名を指定します。キュー名は最大 15 文字。Chr\$(0)で終了してなければなりません。

caJobName

ジョブの業務名を指定します。業務名は最大 32 文字。Chr\$(0)で終了してなければなりません。

caJobPath

ジョブのファイル名をフルパスで指定します。最大 256 文字。Chr\$(0)で終了してなければなりません。

caJobParam

ジョブのパラメータを指定します。最大 256 文字。Chr\$(0)で終了してなければなりません。

caExecDir

ジョブの実行時ディレクトリを指定します。最大 256 文字。Chr\$(0)で終了してなければなりません。

dwRepeatLastCount	将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。
dwMaxElapseTime	投入したジョブの実行時間を制限したい場合に分単位で指定します。指定できる時間は 0 分～1000 時間 59 分です。指定した時間が経過してもジョブが終了しなかった場合には強制終了し、終了コードは FFFFFFFB になります。
wExecType	ジョブ起動方式を指定します。指定できる値は次のとおりです。 <div> <div> 値 JMSS_EXECTYPE_NONE JMSS_EXECTYPE_SERVICE JMSS_EXECTYPE_LOGON </div> <div> 意味 指定しません (JMSS/JEnv の「ジョブ起動方式」の設定にてジョブが起動されます)。 JLook サービスのアカウントでジョブが起動されます。 JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されます。 </div> </div>
wReserve	将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。
dwReserve	将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。
dwMaxWorkingSetSize	将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。
dwTermReport	ジョブの終了を投入元マシンに通知するかどうかを指定します。「JMSS_SEND_MACHINE」を指定すると、投入ジョブの終了時に投入ジョブのジョブ番号、業務名、終了状態、終了コードが投入元マシンに通知されます。指定できる値は次のとおりです。 <div> <div> 値 JMSS_SEND_NO JMSS_SEND_MACHINE </div> <div> 意味 通知しません。 マシン単位で通知します。 </div> </div>
caStdoutFile	標準出力内容をユーザの任意のファイル名で保存したい場合にファイル名を指定します。実行マシンのローカルファイル名か、" ¥¥ マシン名¥共有名¥ファイル名"で指定してください。 fWatchStdout に JMSS_STDOUT_SYSTEM_OVERWRITE または JMSS_STDOUT_SYSTEM_APPEND を指定した場合は Chr\$(0)を指定してください。標準出力内容保存ファイル名は最大 256 文字までで、Chr\$(0)で終了していなければなりません。

②JMSSJOBINFOEX

Public type JMSSJOBINFOEX

<i>dwSize</i>	As Long	' このデータ型のサイズ(1272 を指定)
<i>dwJobType</i>	As Long	' ジョブの種類
<i>dwNetId</i>	As Long	' ジョブボックス ID
<i>dwNetRev</i>	As Long	' ジョブネットファイル Revision
<i>dwSecondaryId</i>	As Long	' 派生ジョブ有無 ID
<i>lJobNo</i>	As Long	' ジョブ番号
<i>lRootJobNo</i>	As Long	' ルートジョブ番号
<i>lParentJobNo</i>	As Long	' 親ジョブ番号
<i>dwExitCode</i>	As Long	' ジョブ終了コード
<i>dwJobStatus</i>	As Long	' ジョブ実行状態
<i>dwPriority</i>	As Long	' ジョブ優先順位
<i>dwMinWorkingSet</i>	As Long	' 最小ワーキングセットサイズ
<i>dwMaxWorkingSet</i>	As Long	' 最大ワーキングセットサイズ
<i>dwUserCPUTime</i>	As Long	' ユーザモードの CPU 使用時間(ミリ秒)
<i>dwKernelCPUTime</i>	As Long	' カーネルモードの CPU 使用時間(ミリ秒)
<i>dwTotalCPUTime</i>	As Long	' 全モードの CPU 使用時間(ミリ秒)
<i>dwUserCPUPercent</i>	As Long	' ユーザモードの CPU 使用率(%)
<i>dwKernelCPUPercent</i>	As Long	' カーネルモードの CPU 使用率(%)
<i>tBgn</i>	As Long	' ジョブ開始日付/時間
<i>tEnd</i>	As Long	' ジョブ終了日付/時間
<i>dwRepeatInterval</i>	As Long	' 繰り返し間隔
<i>dwRepeatMaxCount</i>	As Long	' 繰り返し回数
<i>tEndTime</i>	As Long	' 繰り返し実行終了時間
<i>dwRepeatCount</i>	As Long	' 繰り返し実行した回数
<i>caEventID</i>	As String*5	' イベント ID
<i>caUserName</i>	As String*41	' 投入元ユーザ名
<i>caWsName</i>	As String*16	' 投入元マシン名
<i>caQueueName</i>	As String*16	' 投入ジョブキュー名
<i>caCompName</i>	As String*16	' 実行先マシン名
<i>caJobName</i>	As String*33	' 業務名
<i>caJobPath</i>	As String*257	' ジョブのファイル名
<i>caJobParam</i>	As String*257	' パラメータ
<i>caExecDir</i>	As String*257	' 実行時ディレクトリ
<i>caOutFileName</i>	As String*257	' 標準出力ファイル名
<i>dwMaxElapsTime</i>	As Long	' 実行経過タイムアウト時間(分)
<i>wExecType</i>	As Short	' ジョブ起動方式
<i>wReserve</i>	As Short	' 将来拡張用
<i>dwReserve</i>	As Long	' 将来拡張用
<i>dwParentJntNo</i>	As Long	' 継続実行元となったジョブネットのジョブ番号
<i>dwBranch</i>	As Long	' 将来拡張用

End Type

ジョブ情報データ定義型は、投入したジョブの各種情報を格納通知します。

メンバ

dwSize

説明

このデータ型のサイズ(1272)を指定します。

dwJobType

ジョブの種類が通知されます。

ジョブの種類は、ジョブ種別と補足情報との組み合わせにて通知されます。

値

JMSS_JOBTYPE_BAT

JMSS_JOBTYPE_EXE32

JMSS_JOBTYPE_EXE16

JMSS_JOBTYPE_EXEDOS

JMSS_JOBTYPE_JNT

JMSS_JOBTYPE_COM

JMSS_JOBTYPE_CMD

JMSS_JOBTYPE_PIF

JMSS_JOBTYPE_OS2

JMSS_JOBTYPE_POSIX

意味

バッチファイルです。

32 ビットアプリケーションです。

16 ビットアプリケーションです。

DOS アプリケーションです。

ジョブネットワークです。

COM ファイルです。

CMD ファイルです。

PIF ファイルです(未サポート)。

OS2 用アプリケーションです。

POSIX アプリケーションです。

補足情報

JMSS_JOBTYPE_STDOUT_APEND

JMSS_JOBTYPE_STDOUT_USERFILE

意味

標準出力監視ファイルは追加モードです。

標準出力監視ファイルはユーザ指定ファイルです。

JMSS_JOBTYPE_STDOUT

JMSS_JOBTYPE_CONTINUE

JMSS_JOBTYPE_REPEAT

JMSS_JOBTYPE_SCHEDULE

標準出力監視をしています。

継続実行しているジョブネットワークです。

スケジュール繰り返し実行指定されています。

スケジュール実行されています。

dwNetId

ジョブネットワークファイルにおけるジョブボックス ID が通知されます。

dwNetRev

ジョブネットワークファイルの作成リビジョンが通知されます。

dwSecondaryId

派生ジョブの有無 ID が通知されます。ID には次の 2 つがあります。

値

JMSS_NOEXIST_DERIVE_JOB

JMSS_EXIST_DERIVE_JOB

意味

派生ジョブはありません。

派生ジョブがあります。

lJobNo

ジョブ番号が通知されます。

lRootJobNo

このジョブの一番最初の親ジョブのジョブ番号が通知されます。本メンバが 0 であった場合は、親ジョブを持っていません。

lParentJobNo

このジョブの親ジョブのジョブ番号が通知されます。本メンバが 0 であった場合は、親ジョブを持っていません。

dwExitCode

ジョブの終了コードが通知されます。起動エラー、終了(強制終了含む)時のみ意味を持ちます(起動エラー、終了(強制終了含む)以外の場合には 0 が返却されます)。

dwJobStatus	ジョブの実行状態を通知します。次の値のいずれかになります。	
	値	意味
	JMSS_JOBSTATUS_RUN	このジョブは実行中です。
	JMSS_JOBSTATUS_FINISH	このジョブは終了しています。
	JMSS_JOBSTATUS_TERM	このジョブは強制終了されています。
	JMSS_JOBSTATUS_ERROR	このジョブは起動エラーとなっています。
	JMSS_JOBSTATUS_EVENT_REC	このジョブはイベント待ち状態です。
	JMSS_JOBSTATUS_PAUSE	このジョブは一時停止(ジョブキュー内での一時停止も含む)されています。
	JMSS_JOBSTATUS_EVENT_SEND	このジョブはイベント送信を完了しています。
	JMSS_JOBSTATUS_WAIT	このジョブは実行待ちとなっています。
	JMSS_JOBSTATUS_PENDINGP	このジョブは保留状態になっています。
	JMSS_JOBSTATUS_EXECUTE	このジョブは現在起動中です。
	JMSS_JOBSTATUS_EXCLUSIVE	このジョブは排他制御待ちです。
	JMSS_JOBSTATUS_RETRY	このジョブは起動リトライ中です。
	JMSS_JOBSTATUS_CHILDJOBRETRY	派生ジョブが起動リトライ中です。
	JMSS_JOBSTATUS_STOP	ジョブは停止しています。
	JMSS_JOBSTATUS_STOPPING	ジョブは停止中です。
	JMSS_JOBSTATUS_JOBBOXRETRY	ジョブボックスリトライ中です。
	JMSS_JOBSTATUS_UNKNOWN	ジョブ状態は不明です(ジョブ実行中に JLook サービスが予期せぬ終了をしました)。
dwPriority	ジョブの優先順位が通知されます。次の 4 種類の値のいずれかになります。	
	値	意味
	JMSS_PRIORITY_REAL	最高の優先順位でジョブを実行しています。
	JMSS_PRIORITY_HIGH	他のジョブより優先して実行しています。
	JMSS_PRIORITY_NORMAL	システム標準の優先順位でジョブを実行しています。
	JMSS_PRIORITY_IDLE	最低の優先順位でジョブを実行しています。
dwMinWorkingSet	最小ワーキングセットサイズを通知します。	
dwMaxWorkingSet	最小ワーキングセットサイズを通知します。	
dwUserCPUTime	ユーザモードの CPU 使用時間をミリ秒単位で通知します。	
dwKernelCPUTime	カーネルモードの CPU 使用時間をミリ秒単位で通知します。	
dwTotalCPUTime	全モードの CPU 使用時間をミリ秒単位で通知します。	
dwUserCPUPercent	ユーザモードの CPU 使用率を%で通知します。	
dwKernelCPUPercent	カーネルモードの CPU 使用率を%で通知します。	
tBgn	ジョブ開始日付/時間を通知します。	
tEnd	ジョブ終了日付/時間を通知します。	
dwRepeatInterval	繰り返し周期の時間間隔が秒単位で通知されます。繰り返し実行以外の場合は常に 0 です。	
dwRepeatMaxCount	繰り返し回数が通知されます。繰り返し回数指定で起動されたジョブ以外は常に 0 です。	
tEndTime	繰り返し実行における終了時間が通知されます。終了時間指定で繰り返し起動されたジョブ以外は常に 0 です。	
dwRepeatCount	繰り返して実行された回数が通知されます。本メンバは、ジョブ終了時にのみ設定され、他のジョブ状態の時には意味を持ちません。	
caEventID	イベント ID が NULL で終わる文字列(最大 4 文字)として通知されます。	
caUserName	投入元のユーザ名が NULL で終わる文字列(最大 40 文字)として通知されます。	

caWsName	投入元のマシン名が NULL で終わる文字列(最大 15 文字)として通知されます。								
caQueueName	投入ジョブキュー名が NULL で終わる文字列(最大 15 文字)として通知されます。								
caCompName	実行先のマシン名が NULL で終わる文字列(最大 15 文字)として通知されます。								
caJobName	業務名が NULL で終わる文字列(最大 32 文字)として通知されます。								
caJobPath	ジョブのファイル名が NULL で終わる文字列(最大 256 文字)としてフルパスで通知されます。								
caJobParam	ジョブ投入時に指定したパラメータが NULL で終わる文字列(最大 256 文字)として通知されます。								
caExecDir	ジョブの実行時ディレクトリが NULL で終わる文字列(最大 256 文字)として通知されます。								
caOutFileName	標準出力ファイル名が NULL で終わる文字列(最大 256 文字)としてフルパスで通知されます。								
dwMaxElapsTime	実行経過時間タイムアウト時間が分単位で通知されます。未設定の場合は 0 が通知されます。								
wExecType	ジョブ起動方式が通知されます。次の値のいずれかになります。 <table> <tr> <th>値</th><th>意味</th></tr> <tr> <td>JMSS_EXECTYPE_NONE</td><td>ジョブが起動されていません。</td></tr> <tr> <td>JMSS_EXECTYPE_SERVICE</td><td>JLook サービスのアカウントでジョブが起動されています。</td></tr> <tr> <td>JMSS_EXECTYPE_LOGON</td><td>JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されています。</td></tr> </table>	値	意味	JMSS_EXECTYPE_NONE	ジョブが起動されていません。	JMSS_EXECTYPE_SERVICE	JLook サービスのアカウントでジョブが起動されています。	JMSS_EXECTYPE_LOGON	JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されています。
値	意味								
JMSS_EXECTYPE_NONE	ジョブが起動されていません。								
JMSS_EXECTYPE_SERVICE	JLook サービスのアカウントでジョブが起動されています。								
JMSS_EXECTYPE_LOGON	JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されています。								
wReserve	将来拡張用です。								
dwReserve	将来拡張用です。								
dwParentJntNo	継続実行の元となったジョブネットのジョブ番号が通知されます。通常は 0 が通知されます。								
dwBranch	将来拡張用です。								

③JMSSJOBQINFO

Public type JMSSJOBQINFO

<i>dwSize</i>	As Long	' このデータ型のサイズ
<i>caQueueName</i>	As String*16	' ジョブキュー名
<i>dwJobQueCondition</i>	As Long	' ジョブキューの状態
<i>dwMaxRunningJob</i>	As Long	' 最大ジョブキュー多重度
<i>dwCurRunningJob</i>	As Long	' 現在実行中ジョブ数
<i>dwMaxEntryJob</i>	As Long	' 最大登録ジョブ数
<i>dwCurrentEntryJob</i>	As Long	' 現在登録済みのジョブ数
<i>dwEntryStatus</i>	As Long	' 登録状況

End Type

ジョブキュー情報データ定義型は、ジョブキューの各種情報を格納します。

メンバ

<i>dwSize</i>	このデータ型のサイズを指定します。
<i>caQueueName</i>	情報を取得するジョブキュー名を指定します。キュー名は最大 15 文字までです。
<i>dwJobQueCondition</i>	ジョブキューの状態が通知されます。 次の値のいずれかになります。

値

意味

JMSS_JOBQUECOND_OPEN	ジョブキューは開いています。
JMSS_JOBQUECOND_CLOSE	ジョブキューは閉じています。

<i>dwMaxRunningJob</i>	ジョブキューの多重度が通知されます。
<i>dwCurRunningJob</i>	現在実行中のジョブ数が通知されます。
<i>dwMaxEntryJob</i>	ジョブキューの登録可能ジョブ数が通知されます。
<i>dwCurrentEntryJob</i>	現在登録されているジョブ数が通知されます。
<i>dwEntryStatus</i>	ジョブキューへの登録状態が通知されます。 次の値のいずれかになります。

値

意味

JMSS_JOBQUEENTSTS_NORMAL	登録可能ジョブ数の 90% 以下です。
JMSS_JOBQUEENTSTS_WARNING	登録可能ジョブ数の 90% を超えています。
JMSS_JOBQUEENTSTS_ERROR	登録可能ジョブ数に達しています。

dwEntryStatus は、一旦 JMSS_JOBQUEENTSTS_WARNING または JMSS_JOBQUEENTSTS_ERROR となると、登録可能ジョブ数の 80% 未満になるまで値は変化せず、80% 未満になった時点で JMSS_JOBQUEENTSTS_NORMAL となります。

第 6 章 COBOL85 用 API リファレンス

6.1 API 一覧

○ジョブ制御 API

<code>_JmssThrowJobEx</code>	指定ジョブの投入を行います。
<code>_JmssWaitJobExit</code>	指定ジョブの終了待ちを行います。
<code>_JmssGetJobStatusEx</code>	指定のジョブ状態を取得します。
<code>_JmssControlJob</code>	指定ジョブの実行制御(強制終了、一時停止、再開)を行います。
<code>_JmssGetChildJobList</code>	指定条件で指定ジョブから派生したジョブのジョブ番号一覧を取得します。
<code>_JmssCurrentJobNo</code>	自ジョブ番号を取得します。

○イベント処理 API

<code>_JmssSendEventEx</code>	指定 JMSS サーバの指定ジョブキューにイベントを送信します。
<code>_JmssReceiveEvent</code>	指定イベントの受信待ち合わせを行います。

○ジョブキュー参照 API

<code>_JmssDispQueueDialog</code>	ジョブキュー名の一覧ダイアログボックスを表示します。
<code>_JmssGetJobQueue</code>	指定したジョブキューの情報を取得します。

○アラート通報 API

<code>_JmssReportEvent</code>	ESMPRO マネージャ／ページャにアラートを通報します。
-------------------------------	-------------------------------

○集団項目

<code>JMSSJOBTHROWINFOEX</code>	ジョブ投入情報集団項目
<code>JMSSJOBINFOEX</code>	ジョブ情報集団項目
<code>JMSSJOBQINFO</code>	ジョブキュー情報集団項目

6.2 ジョブ制御 API

① _JmssThrowJobEx

* 本バージョンでは使用されません

01 SERVERNAME PIC X(15) VALUE LOW-VALUE.

01 FILLER PIC X VALUE LOW-VALUE.

* ジョブ投入情報集団項目

01 JMSSJOBTHROWINFOEX

* 投入ジョブ番号(返却)

01 JOBNO USAGE IS COMP-2.

*

77 RESULTCODE USAGE IS COMP-2.

```
CALL  "_JmssThrowJobEx" USING
                                BY REFERENCE SERVERNAME,
                                BY REFERENCE JMSSJOBTHROWINFOEX,
                                BY VALUE JOBNO
                                WITH RETURNING TO RESULTCODE.
```

_JmssThrowJobEx は、ジョブ投入集団項目 JMSSJOBTHROWINFOEX で指定したジョブの投入を行います。

パラメータ

説明

SERVERNAME	本バージョンでは使用されません。必ず NULL-STRING を指定してください。
JMSSJOBTHROWINFOEX	ジョブ投入集団項目 JMSSJOBTHROWINFOEX を指定します。
JOBNO	ジョブ投入が成功した場合に通知される投入ジョブ番号を指定します。

RESULTCODE の値

処理が正常に終了した場合は、0 を設定します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを設定します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NOT_ENOUGH_MEMORY
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_THROW
JMSS_QUEUE_NOTFOUND
JMSS_QUEUE_FULL
JMSS_QUEUE_CLOSED
JMSS_PARENTJOB_TERMINATE
JMSS_POWEROFF_TERMINATE
JMSS_EXCLUSIVE_ERROR
JMSS_REJECT_REQUEST

②_JmssWaitJobExit

* 本バージョンでは使用されません

01 SERVERNAME PIC X(15) VALUE LOW-VALUE.

01 FILLER PIC X VALUE LOW-VALUE.

* ジョブ番号

01 JOBNO USAGE IS COMP-2.

* 本バージョンでは使用されません

01 JMSSJOBINFO

* タイムアウト時間

01 TIMEOUT USAGE IS COMP-2.

*

77 RESULTCODE USAGE IS COMP-2.

CALL "_JmssWaitJobExit" USING

BY REFERENCE SERVERNAME,

BY VALUE JOBNO,

BY REFERENCE JMSSJOBINFO,

BY VALUE TIMEOUT

WITH RETURNING TO RESULTCODE.

_JmssWaitJobExit は、JOBNO で指定したジョブ番号のジョブが終了するまで待ち合わせを行います。すでに指定ジョブが終了している場合には、すぐに正常終了します。また、タイムアウト時間内にジョブが終了しなかった場合には、エラー終了します。

パラメータ

説明

SERVERNAME	本バージョンでは使用されません。必ず NULL-STRING を指定してください。
JOBNO	待ち合わせを行うジョブのジョブ番号を指定します。
JMSSJOBINFO	本バージョンでは使用されません。必ず NULL-POINTER を指定してください。
TIMEOUT	タイムアウト時間をミリ秒単位で指定します。 0 を指定した場合は、すぐタイムアウトエラーで終了します。 -1 を指定した場合は、ジョブが終了するまで無限に待ち続けます。

RESULTCODE の値

処理が正常に終了した場合は、0 を設定します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを設定します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_STOP
JMSS_NO_JOB
JMSS_TIMEOUT
JMSS_NO_JOBNO

③ _JmssGetJobStatusEx

* 本バージョンでは使用されません

01 SERVERNAME PIC X(15) VALUE LOW-VALUE.

01 FILLER PIC X VALUE LOW-VALUE.

* ジョブ番号

01 JOBNO USAGE IS COMP-2.

* ジョブ情報集団項目

01 JMSSJOBINFOEX

*

77 RESULTCODE USAGE IS COMP-2.

CALL "_JmssGetJobStatusEx" USING

BY REFERENCE SERVERNAME,

BY VALUE JOBNO,

BY REFERENCE JMSSJOBINFOEX

WITH RETURNING TO RESULTCODE.

_JmssGetJobStatusEx は、JOBNO で指定したジョブ番号のジョブ状態を取得します。

パラメータ

SERVERNAME

説明

本バージョンでは使用されません。

必ず NULL-STRING を指定してください。

JOBNO

情報(状態)取得を行うジョブのジョブ番号を指定します。

JMSSJOBINFOEX

ジョブ情報集団項目 JMSSJOBINFOEX を指定します。

処理が正常に終了した場合は、このジョブ情報集団項目にジョブ情報(状態)が格納されます。

RESULTCODE の値

処理が正常に終了した場合は、0 を設定します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを設定します。

JMSS_PARAM_ERROR

JMSS_NO_CONNECT

JMSS_NOGET_SERVERNAME

JMSS_SECURITY_NO_USE

JMSS_SECURITY_NO_STOP

JMSS_NO_JOB

JMSS_NO_JOBNO

JMSS_REJECT_REQUEST

④ **_JmssControlJob**

```
* 本バージョンでは使用されません
01  SERVERNAME          PIC X(15) VALUE LOW-VALUE.
01  FILLER              PIC X VALUE LOW-VALUE.
* 要求する制御の種類
01  CONTROLMODE        USAGE IS COMP-2.
* ジョブ番号
01  JOBNO              USAGE IS COMP-2.
*
77  RESULTCODE         USAGE IS COMP-2.

CALL  "_JmssControlJob" USING

                                BY REFERENCE SERVERNAME,
                                BY VALUE CONTROLMODE,
                                BY VALUE JOBNO

                                WITH RETURNING TO RESULTCODE.
```

_JmssControlJob は、JOBNO で指定したジョブ番号のジョブに対して、CONTROLMODE で指定された制御操作を行います。

パラメータ

SERVERNAME
CONTROLMODE

説明

本バージョンでは使用されません。必ず NULL-STRING を指定してください。
要求する制御の種類を指定します。
このパラメータには、次の値のいずれかを指定します。

値	意味
0	強制終了要求を行います。 対象ジョブが実行中であれば強制終了され、実行待ちであればジョブキューから(登録)削除されます。
1	実行中のジョブネットワークの一時停止要求を行います。 本要求は実行中のジョブネットワークジョブに対してのみ有効に働きます。
2	一時停止中のジョブネットワークの再開要求を行います。 本要求は一時停止中のジョブネットワークジョブに対してのみ有効に働きます。
4	ジョブの保留要求を行います。 本要求は実行待ち／排他待ち／起動リトライ中のジョブに対してのみ有効に働きます。
5	ジョブの保留解除要求を尾篭舞います。 本要求は保留ジョブに対してのみ有効に働きます。
6	ジョブの登録削除要求を行います。 本要求は保留／実行待ち／排他待ち／起動リトライ中のジョブに対してのみ有効に働きます。
7	ジョブの停止要求を行います。 本要求は実行中のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。

- 8 ジョブの継続要求を行います。
本要求は停止／強制終了／不明のジョブネットワーク／繰り返しジョブに対してのみ有効に働きます。

JOBNO

実行制御を行うジョブのジョブ番号を指定します。

RESULTCODE の値

処理が正常に終了した場合は、0 を設定します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを設定します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_SECURITY_NO_STOP
JMSS_NO_JOB
JMSS_NO_TERMINATE
JMSS_NO_PAUSE
JMSS_NO_RESTART
JMSS_NOT_JOBNET
JMSS_NO_HOLD
JMSS_NO_RELEASE
JMSS_NO_DELETE
JMSS_NO_STOP
JMSS_NO_CONTINUE
JMSS_NO_JOBNO

④ _JmssGetChildJobList

* 本バージョンでは使用されません

01 SERVERNAME PIC X(15) VALUE LOW-VALUE.

01 FILLER PIC X VALUE LOW-VALUE.

* ジョブ番号

01 JOBNO USAGE IS COMP-2.

* 問い合わせジョブ状態条件

01 QUERYJOBSTATUS USAGE IS COMP-2.

* 格納配列最大数/格納数

01 JOBCOUNT USAGE IS COMP-2.

* 派生ジョブ番号格納配列へのポインタ

01 JOBINFOLIST USAGE IS POINTER.

*

77 RESULTCODE USAGE IS COMP-2.

```
CALL  "_JmssGetChildJobList" USING
      BY REFERENCE SERVERNAME,
      BY VALUE JOBNO,
      BY VALUE QUERYJOBSTATUS,
      BY REFERENCE JOBCOUNT,
      BY VALUE JOBINFOLIST
```

WITH RETURNING TO RESULTCODE.

_JmssGetChildJobList は、JOBNO で指定したジョブ番号のジョブから派生したジョブのうち、問い合わせ条件(ジョブ状態)に一致するジョブのジョブ番号一覧を取得します。

パラメータ

説明

SERVERNAME 本バージョンでは使用されません。必ず NULL-STRING を指定してください。

JOBNO 派生ジョブを問い合わせる親ジョブ番号を指定します。

QUERYJOBSTATUS 取得したい派生ジョブのジョブ状態条件を指定します。

このパラメータには、次に示す値のいずれかを指定してください。

値 意味

1 実行終了した派生ジョブを対象とします。

16 実行中の派生ジョブを対象とします。

256 実行終了した派生ジョブ、および実行中の派生ジョブを対象とします。

17 実行待ち(起動中も含む)の派生ジョブを対象とします。

257 実行終了した派生ジョブ、および実行待ち(起動中も含む)の派生ジョブを対象とします。

272 実行中の派生ジョブ、および実行待ち(起動中も含む)の派生ジョブを対象とします。

273 すべての状態の派生ジョブを対象とします。

JOBCOUNT	格納できる配列の最大数を指定します。 処理が正常に終了した場合は格納した数が、指定した最大数で足りない場合は必要数が設定されます。
JOBINFOLIST	派生ジョブのジョブ番号を格納する配列へのポインタを指定します。 本パラメータが NULL-POINTER の場合は、JOBCOUNT パラメータに必要数が設定返却されます。

RESULTCODE の値

処理が正常に終了した場合は、0 を設定します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを設定します。

JMSS_PARAM_ERROR
 JMSS_NO_CONNECT
 JMSS_NOGET_SERVERNAME
 JMSS_SECURITY_NO_USE
 JMSS_SECURITY_NO_STOP
 JMSS_NO_JOB
 JMSS_NOT_ENOUGH_BUF
 JMSS_NO_JOBNO

⑤ _JmssCurrentJobNo

* JMSS サーバ名

01 SERVERNAME PIC X(15) VALUE LOW-VALUE.

01 FILLER PIC X VALUE LOW-VALUE.

* 自ジョブ番号

01 JOBNO USAGE IS COMP-2.

*

77 RESULTCODE USAGE IS COMP-2.

```
CALL  "_JmssCurrentJobNo" USING
                                BY REFERENCE SERVERNAME,
                                BY REFERENCE JOBNO
                                WITH RETURNING TO RESULTCODE.
```

_JmssCurrentJobNo は、自ジョブのジョブ番号と自ジョブを監視している JMSS サーバ名を取得します。

パラメータ

SERVERNAME

説明

自ジョブを監視している JMSS サーバ名が通知されます。JMSS サーバ名の設定が必要でない場合には、NULL-POINTER を指定してください。

JOBNO

自ジョブのジョブ番号が通知されます。監視されていない時は 0 が設定されます。ジョブ番号の設定が必要でない場合には、NULL-POINTER を指定してください。

RESULTCODE の値

処理が正常に終了した場合は、0 を設定します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを設定します。

JMSS_PARAM_ERROR

JMSS_NOGET_SERVERNAME

JMSS_NOWATCH

6.3 イベント処理 API

① _JmssSendEventEx

* 送信先 JMSS サーバ名指定ポインタ

01 SERVERNAME PIC X(15).
01 FILLER PIC X VALUE LOW-VALUE.

* 送信先ジョブキュー名指定ポインタ

01 QUEUENAME PIC X(15).
01 FILLER PIC X VALUE LOW-VALUE.

* 送信イベント ID

01 EVENTID PIC X(4).
01 FILLER PIC X VALUE LOW-VALUE.

* 送信メッセージポインタ

01 EVENTMSG PIC X(128).
01 FILLER PIC X VALUE LOW-VALUE.

* 送信パラメータポインタ

01 EVENTPARAM PIC X(1024).
01 FILLER PIC X VALUE LOW-VALUE.

*

77 RESULTCODE USAGE IS COMP-2.

CALL "_JmssSendEventEx" USING

BY REFERENCE SERVERNAME,
BY REFERENCE QUEUENAME,
BY REFERENCE EVENTID,
BY REFERENCE EVENTMSG,
BY REFERENCE EVENTPARAM

WITH RETURNING TO RESULTCODE.

_JmssSendEventEx 関数は、指定 JMSS サーバの指定ジョブキューに指定のイベント ID、メッセージを送信します。

パラメータ

説明

SERVERNAME

送信先の JMSS サーバ名を指定します。
送信先の JMSS サーバ名の最後は、"00"で終了していなければなりません。
本パラメータに NULL-STRING を指定した場合は、デフォルトの JMSS サーバ名が使用されます。

QUEUENAME

送信先ジョブキュー名を指定します。
ジョブキュー名の最後は、"00"で終了していなければなりません。
本パラメータに NULL-STRING を指定した場合は、全ジョブキューに対してブロードキャストされます。

パラメータ

説明

EVENTID

4 文字以内のイベント ID 文字列(英数字のみ)を指定します。
イベント ID 文字列の最後は、"00"で終了していなければなりません。

EVENTMSG

128 文字(バイト)以内の送信メッセージ文字列を指定します。
送信メッセージ文字列の最後は、"00"で終了していなければなりません。
本パラメータを使用しない場合は、NULL-STRING を指定してください。

EVENTPARAM

1024 文字(バイト)以内で送信パラメータを指定します。
パラメータと値は NULL で区切ってください。
送信パラメータ文字列の最後は、"00"で終了していなければなりません。
本パラメータを使用しない場合は、NULL-STRING を指定してください。

RESULTCODE の値

処理が正常に終了した場合は、0 を設定します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを設定します。

JMSS_PARAM_ERROR

JMSS_NO_CONNECT

JMSS_NOGET_SERVERNAME

② _JmssReceiveEvent

* 受信イベント ID

01	EVENTID	PIC X(4).
01	FILLER	PIC X VALUE LOW-VALUE.

* 送信元 JMSS サーバ名格納ポインタ

01	SERVERNAME	PIC X(15).
01	FILLER	PIC X VALUE LOW-VALUE.

* 送信元マシン名格納ポインタ

01	MACHINENAME	PIC X(15).
01	FILLER	PIC X VALUE LOW-VALUE.

* 送信元ユーザ名格納ポインタ

01	USERNAME	PIC X(40).
01	FILLER	PIC X VALUE LOW-VALUE.

* 受信メッセージポインタ

01	EVENTMSG	PIC X(128).
01	FILLER	PIC X VALUE LOW-VALUE.

* 受信イベント ID

01	RECEIVEID	PIC X(4).
01	FILLER	PIC X VALUE LOW-VALUE.

* タイムアウト時間

01	TIMEOUT	USAGE IS COMP-2.
----	---------	------------------

*

77	RESULTCODE	USAGE IS COMP-2.
----	------------	------------------

CALL "_JmssReceiveEvent" USING

BY REFERENCE EVENTID,
BY REFERENCE SERVERNAME,
BY REFERENCE MACHINENAME,
BY REFERENCE USERNAME,
BY REFERENCE EVENTMSG,
BY REFERENCE RECEIVEID,
BY VALUE TIMEOUT

WITH RETURNING TO RESULTCODE.

_JmssReceiveEvent は、指定したイベント ID を指定タイムアウト時間まで受信待ちします。

パラメータ

説明

EVENTID	受信待ちする 4 文字以内のイベント ID 文字列(英数字のみ)を指定します。 イベント ID 文字列の最後は、"00"で終了していなければなりません。 "*"が指定された場合は、どんなイベント ID でも受信します。
SERVERNAME	受信したイベント ID を送信した送信元の JMSS サーバ名が通知されます。 本パラメータに NULL-POINTER を指定した場合は、本通知は行われません。
MACHINENAME	受信したイベント ID を送信した送信元のマシン名が通知されます。 本パラメータに NULL-POINTER を指定した場合は、本通知は行われません。
USERNAME	受信したイベント ID を送信したユーザ名が通知されます。 本パラメータに NULL-POINTER を指定した場合は、本通知は行われません。
EVENTMSG	受信した 128 文字(バイト)以内の送信メッセージが格納されます。 本パラメータに NULL-POINTER を指定した場合は、本通知は行われません。
RECEIVEID	受信したイベント ID が格納されます。 本パラメータに NULL-POINTER を指定した場合は、本通知は行われません。
TIMEOUT	タイムアウト時間を秒単位で指定します。 0 を指定した場合は、すぐタイムアウトエラーで終了します。 -1 を指定した場合は、指定したイベントを受信するまで無限に待ち続けます。

RESULTCODE の値

処理が正常に終了した場合は、0 を設定します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを設定します。

JMSS_PARAM_ERROR

JMSS_NOGET_SERVERNAME

JMSS_TIMEOUT

注意

- ① 使用するマシンが稼働マシンで、かつ JLook サービスが起動している時にのみ使用可能です。
- ② 監視している同一ジョブ内で同時に複数のイベント待ちを行った場合、JLook の画面上に表示される待ちイベント ID は最後にイベント待ち API を呼び出した時のイベント ID が表示されることになります。

6.4 ジョブキュー参照 API

① _JmssDispQueueDialog

* 本バージョンでは使用されません

01 SERVERNAME PIC X(15) VALUE LOW-VALUE.

01 FILLER PIC X VALUE LOW-VALUE.

* 表示する親ウィンドウハンドル

01 OWNERWND USAGE IS COMP-2.

* 初期選択ジョブキュー名

01 QUEUENAME PIC X(15).

01 FILLER PIC X VALUE LOW-VALUE.

* エラーメッセージ表示時のタイトル

01 MESSAGETITLE PIC X(64).

01 FILLER PIC X VALUE LOW-VALUE.

*

77 RESULTCODE USAGE IS COMP-2.

CALL "_JmssDispQueueDialog" USING

BY REFERENCE SERVERNAME,

BY VALUE OWNERWND,

BY REFERENCE QUEUENAME,

BY REFERENCE MESSAGETITLE

WITH RETURNING TO RESULTCODE.

_JmssDispQueueDialog は、ジョブキュー名の一覧ダイアログボックスを表示します。

パラメータ

説明

SERVERNAME

本バージョンでは使用されません。必ず NULL-STRING を指定してください。

OWNERWND

表示するダイアログボックスの親ウィンドウハンドルを指定します(ない場合は 0 を指定してください)。

QUEUENAME

初期選択させたいジョブキュー名を指定します。

ジョブキュー名の最後は、"00"で終了していなければなりません。

ダイアログボックスでジョブキュー名が選択された場合には、選択ジョブキュー名が本パラメータに設定されます。

MESSAGETITLE

エラーメッセージ表示時に表示させるタイトルを指定します。

タイトル文字列の最後は、"00"で終了していなければなりません。

本パラメータに NULL-STRING を指定した場合は、エラーメッセージを表示しません。

RESULTCODE の値

ユーザがジョブキュー名一覧より任意のジョブキュー名を選択した場合([OK]ボタン選択)は、0を設定します。エラーが発生した場合や、ユーザが[キャンセル]ボタンを選択した場合、ダイアログボックスを閉じた場合などは、次のいずれかの値、またはシステムからのエラーコードを設定します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_NOGET_SERVERNAME
JMSS_SECURITY_NO_USE
JMSS_CANCEL

② _JmssGetJobQueue

* JMSS サーバ名

01 SERVERNAME PIC X(15) VALUE LOW-VALUE.
01 FILLER PIC X VALUE LOW-VALUE.

* ジョブ番号

01 QUEUENAME PIC X(15) VALUE LOW-VALUE.
01 FILLER PIC X VALUE LOW-VALUE.

* ジョブキュー情報集団項目

01 JMSSJOBQINFO

*

77 RESULTCODE USAGE IS COMP-2.

```
CALL  "_JmssGetJobQueue " USING
      BY REFERENCE SERVERNAME,
      BY REFERENCE QUEUENAME,
      BY REFERENCE JMSSJOBQINFO
      WITH RETURNING TO RESULTCODE.
```

_JmssGetJobQueue 関数は、QUEUENAME で指定したジョブキューの情報を取得します。
この関数を実行するユーザには、JMSS の「セキュリティ設定権」が必要です。

パラメータ

説明

SERVERNAME

JMSS サーバ名を指定します。
JMSS サーバ名の最後は、"00"で終了していなければなりません。
本パラメータに NULL-STRING を指定した場合は、デフォルトの JMSS
サーバ名が使用されます。

QUEUENAME

情報取得を行うジョブキュー名を指定します。
ジョブキュー名の最後は、"00"で終了していなければなりません。

JMSSJOBQINFO

ジョブキュー情報集団項目を指定します。
処理が正常に終了した場合は、このジョブキュー情報集団項目にジョ
ブキュー情報が格納されます。

RESULTCODE の値

関数が正常に終了した場合は、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値、ま
たはシステムからのエラーコードを返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NO_CONNECT
JMSS_SECURITY_NO_CONTROL
JMSS_QUEUE_NOTFOUND

6.5 アラート通報 API

① _JmssReportEvent

```
* アラートの通知先
01 ALERTMODE                               USAGE IS COMP-2.

* アラートのタイプ
01 ALERTTYPE                               USAGE IS COMP-2.

* 出力するメッセージ
01 ALERTMESSAGE                           PIC X(63).
01 FILLER                                 PIC X VALUE LOW-VALUE.

*

77 RESULTCODE                             USAGE IS COMP-2.

CALL  "_JmssReportEvent " USING
                                BY VALUE ALERTMODE,
                                BY VALUE ALERTTYPE,
                                BY REFERENCE ALERTMESSAGE
                                WITH RETURNING TO RESULTCODE.
```

_JmssReportEvent 関数は、ESMPRO マネージャ／ページャにアラート通報します。

パラメータ	説明								
ALERTMODE	アラートの通知先を以下の値の組み合わせで指定します。 <table><tr><th>値</th><th>意味</th></tr><tr><td>JMSS_JALT_MODE_MANAGER</td><td>ESMPRO マネージャに通報します。</td></tr><tr><td>JMSS_JALT_MODE_PAGER</td><td>ESMPRO ページャに通報します。</td></tr></table>	値	意味	JMSS_JALT_MODE_MANAGER	ESMPRO マネージャに通報します。	JMSS_JALT_MODE_PAGER	ESMPRO ページャに通報します。		
値	意味								
JMSS_JALT_MODE_MANAGER	ESMPRO マネージャに通報します。								
JMSS_JALT_MODE_PAGER	ESMPRO ページャに通報します。								
ALERTTYPE	通報するアラートの種別を以下の値から指定します。 <table><tr><th>値</th><th>意味</th></tr><tr><td>JMSS_JALT_TYPE_INFORMATION</td><td>情報レベルで通報します。 (アラートビューアでは緑色のマーク)</td></tr><tr><td>JMSS_JALT_TYPE_WARNING</td><td>警告レベルで通報します。 (アラートビューアでは黄色のマーク)</td></tr><tr><td>JMSS_JALT_TYPE_ERROR</td><td>エラーレベルで通報します。 (アラートビューアでは赤色のマーク)</td></tr></table>	値	意味	JMSS_JALT_TYPE_INFORMATION	情報レベルで通報します。 (アラートビューアでは緑色のマーク)	JMSS_JALT_TYPE_WARNING	警告レベルで通報します。 (アラートビューアでは黄色のマーク)	JMSS_JALT_TYPE_ERROR	エラーレベルで通報します。 (アラートビューアでは赤色のマーク)
値	意味								
JMSS_JALT_TYPE_INFORMATION	情報レベルで通報します。 (アラートビューアでは緑色のマーク)								
JMSS_JALT_TYPE_WARNING	警告レベルで通報します。 (アラートビューアでは黄色のマーク)								
JMSS_JALT_TYPE_ERROR	エラーレベルで通報します。 (アラートビューアでは赤色のマーク)								
ALERTMESSAGE	アラート通報するメッセージを指定します。 メッセージの最後は、"00"で終了していなければなりません。								

RESULTCODE の値

正常にアラート通報(イベントログに出力)できた場合、0 を返します。エラーが発生した場合は、次のいずれかの値を返します。

JMSS_PARAM_ERROR
JMSS_NOGET_PRODUCT_ID
JMSS_NOT_REPORT_EVENT
JMSS_NOT_INSTALLED

注意

本 API は ESMPRO/JMSS システム上でのみ使用可能です。

6.6 集団項目

①JMSSJOBTHROWINFOEX

01	JMSSJOBTHROWINFOEX	
02	JE-SIZE	USAGE IS COMP-2 VALUE 1128.
*	ジョブ優先順位	
02	JE-PRIORITY	USAGE IS COMP-2.
*	標準出力の監視有無	
02	JE-WATCHSTDOUT	USAGE IS COMP-2.
*	常に0	
02	JE-STDIN	USAGE IS COMP-2.
*	常に0	
02	JE-STDOUT	USAGE IS COMP-2.
*	常に0	
02	JE-STDERR	USAGE IS COMP-2.
*	投入先キュー名	
02	JE-QUEUENAME	PIC X(15).
02	FILLER	PIC X VALUE LOW-VALUE.
*	ジョブの業務名	
02	JE-JOBNAME	PIC X(32).
02	FILLER	PIC X VALUE LOW-VALUE.
*	ジョブのファイル名	
02	JE-JOBPATH	PIC X(256).
02	FILLER	PIC X VALUE LOW-VALUE.
*	ジョブのパラメータ	
02	JE-JOBPARAM	PIC X(256).
02	FILLER	PIC X VALUE LOW-VALUE.
*	実行時ディレクトリ	
02	JE-EXECDIR	PIC X(256).
02	FILLER	PIC X VALUE LOW-VALUE.
*	常に0	
02	JE-REPEATLASTCOUNT	USAGE IS COMP-2.
*	実行経過時間タイムアウト	
02	JE-MAXELAPSETIME	USAGE IS COMP-2.
*	ジョブ起動方式	
02	JE-EXECTYPE	USAGE IS COMP-2.
*	将来予約用	
02	JE-RESERVE	USAGE IS COMP-2.
*	将来予約用	
02	JE-DRESERVE	USAGE IS COMP-2.
*	常に0	
02	JE-MAXWORKINGSETSIZE	USAGE IS COMP-2.

- * ジョブ終了通知
 - 02 JE-TERMREPORT USAGE IS COMP-2.
- * 標準出力内容保存ファイル
 - 02 JE-STDOUTFILE PIC X(256).
 - 02 FILLER PIC X VALUE LOW-VALUE.

ジョブ投入情報集団項目は、投入するジョブの情報を格納します。

項目	説明	
JE-SIZE	この集団項目のサイズです。	
JE-PRIORITY	ジョブの優先順位を指定します。指定できる値は次のとおりです。	
	値	意味
	JMSS_PRIORITY_REAL	最高の優先順位でジョブを実行します。オペレーティングシステムを含む他のプロセスよりも優先して実行されますので、処理時間の長いジョブでは、ストールしたような状態になることがあります。一般のジョブでの使用は避けて運用してください。
	JMSS_PRIORITY_HIGH	他のジョブより優先して速やかに実行します。CPUを多く使用するジョブでは、アプリケーションを含む他のジョブが全く動作しなくなる場合がありますので、使用には細心の注意が必要です。
	JMSS_PRIORITY_NORMAL	システム標準の優先順位でジョブを実行します。通常はこの順位で実行してください。
	JMSS_PRIORITY_IDLE	システムがアイドル状態の時だけジョブを実行します(スクリーンセーバーと同じと考えてください)。
JE-WATCHSTDOUT	標準出力の監視有無を指定します。	
	値	意味
	JMSS_STDOUT_NOWATCH	標準出力の監視をしません。
	JMSS_STDOUT_SYSTEM_OVERWRITE	標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはシステム標準のファイルに上書きされます。
	JMSS_STDOUT_SYSTEM_APEND	標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはシステム標準のファイルに追加されます。
	JMSS_STDOUT_USER_OVERWRITE	標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはユーザ指定ファイル(caStd-outFile で指定したファイル名)に上書きされます。
	JMSS_STDOUT_USER_APEND	標準出力の監視を行います。標準出力内容保存ファイルはユーザ指定ファイル(caStdout-File で指定したファイル名)に追加されます。

JE-STDIN	本バージョンでは使用されません。常に 0 でなければなりません。								
JE-STDOUT	本バージョンでは使用されません。常に 0 でなければなりません。								
JE-STDERR	本バージョンでは使用されません。常に 0 でなければなりません。								
JE-QUEUENAME	投入先キュー名を指定します。キュー名は最大 15 文字。文字列の最後は"00"で終了していなければなりません。								
JE-JOBNAME	ジョブの業務名を指定します。業務名は最大 32 文字。文字列の最後は"00"で終了していなければなりません。								
JE-JOBPATH	ジョブのファイル名をフルパスで指定します。最大 256 文字。文字列の最後は"00"で終了していなければなりません。								
JE-JOBPARAM	ジョブのパラメータを指定します。最大 256 文字。文字列の最後は"00"で終了していなければなりません。								
JE-EXECDIR	ジョブの実行時ディレクトリを指定します。最大 256 文字。文字列の最後は"00"で終了していなければなりません。								
JE-REPEATLASTCOUNT	将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。								
JE-MAXELAPSETIM	投入したジョブの実行時間を制限したい場合に分単位で指定します。指定できる時間は 0 分～1000 時間 59 分です。指定した時間が経過してもジョブが終了しなかった場合には強制終了し、終了コードは FFFFFFFB になります。								
JE-EXECTYPE	ジョブ起動方式を指定します。指定できる値は次のとおりです。								
	<table> <tr> <th>値</th><th>意味</th></tr> <tr> <td>JMSS_EXECTYPE_NONE</td><td>指定しません(JMSS/JEnv の「ジョブ起動方式」の設定にてジョブが起動されます)。</td></tr> <tr> <td>JMSS_EXECTYPE_SERVICE</td><td>JLook サービスのアカウントでジョブが起動されます。</td></tr> <tr> <td>JMSS_EXECTYPE_LOGON</td><td>JMSS/JD (JAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されます。</td></tr> </table>	値	意味	JMSS_EXECTYPE_NONE	指定しません(JMSS/JEnv の「ジョブ起動方式」の設定にてジョブが起動されます)。	JMSS_EXECTYPE_SERVICE	JLook サービスのアカウントでジョブが起動されます。	JMSS_EXECTYPE_LOGON	JMSS/JD (JAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されます。
値	意味								
JMSS_EXECTYPE_NONE	指定しません(JMSS/JEnv の「ジョブ起動方式」の設定にてジョブが起動されます)。								
JMSS_EXECTYPE_SERVICE	JLook サービスのアカウントでジョブが起動されます。								
JMSS_EXECTYPE_LOGON	JMSS/JD (JAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されます。								
JE-RESERVE	将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。								
JE-DRESERVE	将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。								
JE-MAXWORKINGSETSIZE	将来のために予約されています。必ず 0 を指定してください。								
JE-TERMREPORT	ジョブの終了を投入元マシンに通知するかどうかを指定します。「JMSS_SEND_MACHINE」を指定すると、投入ジョブの終了時に投入ジョブのジョブ番号、業務名、終了状態、終了コードが投入元マシンに通知されます。指定できる値は次のとおりです。								
	<table> <tr> <th>値</th><th>意味</th></tr> <tr> <td>JMSS_SEND_NO</td><td>通知しません。</td></tr> <tr> <td>JMSS_SEND_MACHINE</td><td>マシン単位で通知します。</td></tr> </table>	値	意味	JMSS_SEND_NO	通知しません。	JMSS_SEND_MACHINE	マシン単位で通知します。		
値	意味								
JMSS_SEND_NO	通知しません。								
JMSS_SEND_MACHINE	マシン単位で通知します。								
JE-STDOUTFILE	標準出力内容をユーザの任意のファイル名で保存したい場合にファイル名を指定します。実行マシンのローカルファイル名か、"¥¥マシン名¥¥共有名¥¥ファイル名"で指定してください。								
	JE-WATCHSTDOUT に JMSS_STDOUT_SYSTEM_OVERWRITE または JMSS_STDOUT_SYSTEM_APPEND を指定した場合は"00"を指定してください。標準出力内容保存ファイル名は最大 256 文字までで、"00"で終了していなければなりません。								

②JMSSJOBINFOEX

01	JMSSJOBINFOEX	
02	JN-SIZE	USAGE IS COMP-2 VALUE 1264.
*	ジョブの種類	
02	JN-JOBTYPE	USAGE IS COMP-2.
*	ジョブボックス ID	
02	JN-NETID	USAGE IS COMP-2.
*	ジョブネットファイル Revision	
02	JN-NETREV	USAGE IS COMP-2.
*	派生ジョブ有無 ID	
02	JN-SECONDARYID	USAGE IS COMP-2.
*	ジョブ番号	
02	JN-JOBNO	USAGE IS COMP-2.
*	ルートジョブ番号	
02	JN-ROOTJOBNO	USAGE IS COMP-2.
*	親ジョブ番号	
02	JN-PARENTJOBNO	USAGE IS COMP-2.
*	ジョブ終了コード	
02	JN-EXITCODE	USAGE IS COMP-2.
*	ジョブ実行状態	
02	JN-JOBSTATUS	USAGE IS COMP-2.
*	ジョブ優先順位	
02	JN-PRIORITY	USAGE IS COMP-2.
*	最小ワーキングセットサイズ	
02	JN-MINWORKINGSET	USAGE IS COMP-2.
*	最大ワーキングセットサイズ	
02	JN-MAXWORKINGSET	USAGE IS COMP-2.
*	ユーザモードの CPU 使用時間(ミリ秒)	
02	JN-USERCPUTIME	USAGE IS COMP-2.
*	カーネルモードの CPU 使用時間(ミリ秒)	
02	JN-KERNELCPUTIME	USAGE IS COMP-2.
*	全モードの CPU 使用時間(ミリ秒)	
02	JN-TOTALCPUTIME	USAGE IS COMP-2.
*	ユーザモードの CPU 使用率(%)	
02	JN-USERCPUPERCENT	USAGE IS COMP-2.
*	カーネルモードの CPU 使用率(%)	
02	JN-KERNELCPUPERCENT	USAGE IS COMP-2.
*	ジョブ開始日付/時間	
02	JN-BEGINTIME	USAGE IS COMP-2.
*	ジョブ終了日付/時間	
02	JN-ENDTIME	USAGE IS COMP-2.
*	繰り返し間隔	
02	JN-REPEATINTERVAL	USAGE IS COMP-2.

* 繰り返し回数		
02 JN-REPEATMAXCOUNT		USAGE IS COMP-2.
* 繰り返し実行終了時間		
02 JN-ENDREPEATTIME		USAGE IS COMP-2.
* 繰り返し実行した回数		
02 JN-REPEATCOUNT		USAGE IS COMP-2.
* イベント ID		
02 JN-EVENTID		PIC X(4).
02 FILLER		PIC X VALUE LOW-VALUE.
* 投入元ユーザ名		
02 JN-USERNAME		PIC X(40).
02 FILLER		PIC X VALUE LOW-VALUE.
* 投入元マシン名		
02 JN-WSNAME		PIC X(15).
02 FILLER		PIC X VALUE LOW-VALUE.
* 投入ジョブキュー名		
02 JN-QUEUEENAME		PIC X(15).
02 FILLER		PIC X VALUE LOW-VALUE.
* 実行先マシン名		
02 JN-COMPUTERNAME		PIC X(15).
02 FILLER		PIC X VALUE LOW-VALUE.
* 業務名		
02 JN-JOBNAME		PIC X(32).
02 FILLER		PIC X VALUE LOW-VALUE.
* ジョブのファイル名		
02 JN-JOBPATH		PIC X(256).
02 FILLER		PIC X VALUE LOW-VALUE.
* パラメータ		
02 JN-JOBPARAM		PIC X(256).
02 FILLER		PIC X VALUE LOW-VALUE.
* 実行時ディレクトリ		
02 JN-EXECDIR		PIC X(256).
02 FILLER		PIC X VALUE LOW-VALUE.
* 標準出力ファイル名		
02 JN-OUTFILENAME		PIC X(256).
02 FILLER		PIC X VALUE LOW-VALUE.
* FILLER		
02 FILLER		PIC X(1).
* 実行経過時間タイムアウト		
02 JN-MAXELAPSTIME		USAGE IS COMP-2.
* ジョブ起動方式		
02 JN-EXECTYPE		USAGE IS COMP-2.
* 将来拡張用		
02 JN-RESERVE		USAGE IS COMP-2.

- | | | |
|--------------------------|-------------------|------------------|
| * 将来拡張用 | 02 JN-DRESERVE | USAGE IS COMP-2. |
| * 継続実行の元となったジョブネットのジョブ番号 | 02 JN-PARENTJNTNO | USAGE IS COMP-2. |
| * 将来拡張用 | 02 JN-BRANCH | USAGE IS COMP-2. |

ジョブ情報集団項目は、投入したジョブの各種情報を格納通知します。

項目	説明
JN-SIZE	この集団項目のサイズです。
JN-JOBTYP	ジョブの種類が通知されます。
	ジョブの種類は、ジョブ種別と補足情報との組み合わせにて通知されます。
値	意味
JMSS_JOBTYP_BAT	バッチファイルです。
JMSS_JOBTYP_EXE32	32 ビットアプリケーションです。
JMSS_JOBTYP_EXE16	16 ビットアプリケーションです。
JMSS_JOBTYP_EXEDOS	DOS アプリケーションです。
JMSS_JOBTYP_JNT	ジョブネットワークです。
JMSS_JOBTYP_COM	COM ファイルです。
JMSS_JOBTYP_CMD	CMD ファイルです。
JMSS_JOBTYP_PIF	PIF ファイルです(未サポート)。
JMSS_JOBTYP_OS2	OS2 アプリケーションです。
JMSS_JOBTYP_POSIX	POSIX アプリケーションです。
補足情報	意味
JMSS_JOBTYP_STDOUT_APPEND	標準出力監視ファイルは追加モードです。
JMSS_JOBTYP_STDOUT_USERFILE	標準出力監視ファイルはユーザ指定ファイルです。
JMSS_JOBTYP_STDOUT	標準出力監視をしています。
JMSS_JOBTYP_CONTINUE	継続実行しているジョブネットワークです。
JMSS_JOBTYP_REPEAT	スケジュール繰り返し実行指定されています。
JMSS_JOBTYP_SCHEDULE	スケジュール実行されています。
JN-NETID	ジョブネットワークファイルにおけるジョブボックス ID が通知されます。
JN-NETREV	ジョブネットワークファイルの作成レビジョンが通知されます。
JN-SECONDARYID	派生ジョブの有無 ID が通知されます。
値	意味
JMSS_NOEXIST_DERIVE_JOB	派生ジョブはありません。
JMSS_EXIST_DERIVE_JOB	派生ジョブがあります。
JN-JOBNO	ジョブ番号が通知されます。
JN-ROOTJOBNO	このジョブの一番最初の親ジョブのジョブ番号が通知されます。本メンバが 0 であった場合は、親ジョブを持っていません。
JN-PARENTJOBNO	このジョブの親ジョブのジョブ番号が通知されます。本メンバが 0 であった場合は、親ジョブを持っていません。
JN-EXITCODE	ジョブの終了コードが通知されます。起動エラー、終了(強制終了含む)時の

み意味を持ちます(起動エラー、終了(強制終了含む)以外の場合には0が返却されます)。

JN-JOBSTATUS

ジョブの実行状態を通知します。次の値のいずれかになります。

値	意味
JMSS_JOBSTATUS_RUN	このジョブは実行中です。
JMSS_JOBSTATUS_FINISH	このジョブは終了しています。
JMSS_JOBSTATUS_TERM	このジョブは強制終了されています。
JMSS_JOBSTATUS_ERROR	このジョブは起動エラーとなっています。
JMSS_JOBSTATUS_EVENT_REC	このジョブはイベント待ち状態です。
JMSS_JOBSTATUS_PAUSE	このジョブは一時停止(ジョブキュー内での一時停止も含む)されています。
JMSS_JOBSTATUS_EVENT_SEND	このジョブはイベント送信を完了しています。
JMSS_JOBSTATUS_WAIT	このジョブは実行待ちとなっています。
JMSS_JOBSTATUS_PENDING	このジョブは保留状態となっています。
JMSS_JOBSTATUS_EXECUTE	このジョブは現在起動中です。
JMSS_JOBSTATUS_EXCLUSIVE	このジョブは排他制御待ちです。
JMSS_JOBSTATUS_RETRY	このジョブは起動リトライ中です。
JMSS_JOBSTATUS_CHILDJOBRETRY	派生ジョブが起動リトライ中です。
JMSS_JOBSTATUS_STOP	ジョブは停止しています。
JMSS_JOBSTATUS_STOPPING	ジョブは停止中です。
JMSS_JOBSTATUS_JOBBOXRETRY	ジョブボックスリトライ中です。
JMSS_JOBSTATUS_UNKNOWN	ジョブ状態は不明です(ジョブ実行中にJLook サービスが予期せぬ終了をしました)。

JN-PRIORITY

ジョブの優先順位が通知されます。次の値のいずれかになります。

値	意味
JMSS_PRIORITY_REAL	最高の優先順位でジョブを実行しています。
JMSS_PRIORITY_HIGH	他のジョブより優先して実行しています。
JMSS_PRIORITY_NORMAL	システム標準の優先順位でジョブを実行しています。
JMSS_PRIORITY_IDLE	最低の優先順位でジョブを実行しています。

JN-MINWORKINGSET

最小ワーキングセットサイズを通知します。

JN-MAXWORKINGSET

最小ワーキングセットサイズを通知します。

JN-USERCPUTIME

ユーザモードの CPU 使用時間をミリ秒単位で通知します。

JN-KERNELCPUTIME

カーネルモードの CPU 使用時間をミリ秒単位で通知します。

JN-TOTALCPUTIME

全モードの CPU 使用時間をミリ秒単位で通知します。

JN-USERCPUPERCENT

ユーザモードの CPU 使用率を%で通知します。

JN-KERNELCPUPERCENT

カーネルモードの CPU 使用率を%で通知します。

JN-BEGINTIME

ジョブ開始日付/時間を通知します。

JN-ENDTIME

ジョブ終了日付/時間を通知します。

JN-REPEATINTERVAL

繰り返し周期の時間間隔が秒単位で通知されます。繰り返し実行以外の場合は常に0です。

JN-REPEATMAXCOUNT

繰り返し回数が通知されます。繰り返し回数指定で起動されたジョブ以外は常に0です。

JN-ENDREPEATTIME

繰り返し実行における終了時間が通知されます。終了時間指定で繰り返し起動されたジョブ以外は常に0です。

JN-REPEATCOUNT

繰り返して実行された回数が通知されます。本項目は、ジョブ終了時にのみ

JN-EVENTID	設定され、他のジョブ状態の時には意味を持ちません。								
JN-USERNAME	イベント ID(最大 4 文字)が通知されます。								
JN-WSNAME	投入元のユーザ名(最大 40 文字)が通知されます。								
JN-QUEUENAME	投入元のマシン名(最大 15 文字)が通知されます。								
JN-COMPUTERNAME	投入ジョブキュー名(最大 15 文字)が通知されます。								
JN-JOBNAME	実行先のマシン名(最大 15 文字)が通知されます。								
JN-JOBPATH	業務名(最大 32 文字)が通知されます。								
JN-JOBPARAM	ジョブのファイル名(最大 256 文字)がフルパスで通知されます。								
JN-EXECDIR	ジョブ投入時に指定したパラメータ(最大 256 文字)が通知されます。								
JN-OUTFILENAME	ジョブの実行時ディレクトリ(最大 256 文字)が通知されます。								
JN-MAXELAPSTIME	標準出力ファイル名(最大 256 文字)がフルパスで通知されます。								
JN-EXECTYPE	実行経過時間タイムアウト時間が分単位で通知されます。未設定の場合は 0 が通知されます。								
	ジョブ起動方式が通知されます。次の値のいずれかになります。								
	<table> <tr> <th>値</th><th>意味</th></tr> <tr> <td>JMSS_EXECTYPE_NONE</td><td>ジョブが起動されていません。</td></tr> <tr> <td>JMSS_EXECTYPE_SERVICE</td><td>JLook サービスのアカウントでジョブが起動されています。</td></tr> <tr> <td>JMSS_EXECTYPE_LOGON</td><td>JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されています。</td></tr> </table>	値	意味	JMSS_EXECTYPE_NONE	ジョブが起動されていません。	JMSS_EXECTYPE_SERVICE	JLook サービスのアカウントでジョブが起動されています。	JMSS_EXECTYPE_LOGON	JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されています。
値	意味								
JMSS_EXECTYPE_NONE	ジョブが起動されていません。								
JMSS_EXECTYPE_SERVICE	JLook サービスのアカウントでジョブが起動されています。								
JMSS_EXECTYPE_LOGON	JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザでジョブが起動されています。								
JN-RESERVE	将来拡張用です。								
JN-DRESERVE	将来拡張用です。								
JN-PARENTJNTNO	継続実行の元となったジョブネットのジョブ番号が通知されます。通常は 0 が通知されます。								
JN-BRANCH	将来拡張用です。								

③JMSSJOBQINFO

01	JMSSJOBQINFO	
02	JQ-INFO SIZE	USAGE IS COMP-2 VALUE 44.
* ジョブキュー名		
02	JQ-QUEUE NAME	PIC X(15).
02	FILLER	PIC X VALUE LOW-VALUE.
* ジョブキューの状態		
02	JQ-QUEUE CONDITION	USAGE IS COMP-2.
* 最大ジョブキュー多重度		
02	JQ-MAX RUNNING JOB	USAGE IS COMP-2.
* 現在実行中ジョブ数		
02	JQ-CURRENT RUNNING JOB	USAGE IS COMP-2.
* 最大登録ジョブ数		
02	JQ-MAX ENTRY JOB	USAGE IS COMP-2.
* 現在登録済みのジョブ数		
02	JQ-CURRENT ENTRY JOB	USAGE IS COMP-2.
* 登録状況		
02	JQ-ENTRY STATUS	USAGE IS COMP-2.

ジョブキュー情報集団項目は、ジョブキューの各種情報を格納します。

項目	説明								
JQ-INFO SIZE	この集団項目のサイズです。								
JQ-QUEUE NAME	情報を取得するジョブキュー名を指定します。キュー名は最大 15 文字までです。文字列の最後は"00"で終了していなければなりません。								
JQ-QUEUE CONDITION	ジョブキューの状態が通知されます。次の値のいずれかになります。 <table><tr><th>値</th><th>意味</th></tr><tr><td>JMSS_JOBQUECOND_OPEN</td><td>ジョブキューは開いています。</td></tr><tr><td>JMSS_JOBQUECOND_CLOSE</td><td>ジョブキューは閉じています。</td></tr></table>	値	意味	JMSS_JOBQUECOND_OPEN	ジョブキューは開いています。	JMSS_JOBQUECOND_CLOSE	ジョブキューは閉じています。		
値	意味								
JMSS_JOBQUECOND_OPEN	ジョブキューは開いています。								
JMSS_JOBQUECOND_CLOSE	ジョブキューは閉じています。								
JQ-MAX RUNNING JOB	ジョブキューの多重度が通知されます。								
JQ-CURRENT RUNNING JOB	現在実行中のジョブ数が通知されます。								
JQ-MAX ENTRY JOB	ジョブキューの登録可能ジョブ数が通知されます。								
JQ-CURRENT ENTRY JOB	現在登録されているジョブ数が通知されます。								
JQ-ENTRY STATUS	ジョブキューへの登録状態が通知されます。次の値のいずれかになります。 <table><tr><th>値</th><th>意味</th></tr><tr><td>JMSS_JOBQUEENTSTS_NORMAL</td><td>登録可能ジョブ数の 90% 以下です。</td></tr><tr><td>JMSS_JOBQUEENTSTS_WARNING</td><td>登録可能ジョブ数の 90% を超えています。</td></tr><tr><td>JMSS_JOBQUEENTSTS_ERROR</td><td>登録可能ジョブ数に達しています。</td></tr></table>	値	意味	JMSS_JOBQUEENTSTS_NORMAL	登録可能ジョブ数の 90% 以下です。	JMSS_JOBQUEENTSTS_WARNING	登録可能ジョブ数の 90% を超えています。	JMSS_JOBQUEENTSTS_ERROR	登録可能ジョブ数に達しています。
値	意味								
JMSS_JOBQUEENTSTS_NORMAL	登録可能ジョブ数の 90% 以下です。								
JMSS_JOBQUEENTSTS_WARNING	登録可能ジョブ数の 90% を超えています。								
JMSS_JOBQUEENTSTS_ERROR	登録可能ジョブ数に達しています。								
JQ-ENTRY STATUS は、一旦 JMSS_JOBQUEENTSTS_WARNING または JMSS_JOBQUEENTSTS_ERROR となると、登録可能ジョブ数の 80% 未満になるまで値は変化せず、80% 未満になった時点で JMSS_JOBQUEENTSTS_NORMAL となります。									

第7章 コード一覧

7.1 エラーコード

JAPI の各 API で返却されるエラーコードについて説明します。

(“0x”が付いている数値は 16 進数を表します。)

JMSS_PARAM_ERROR	1610612736(0x60000000)	指定されたパラメータが不正です。
JMSS_NOT_ENOUGH_MEMORY	1610612737(0x60000001)	メモリが足りません。
JMSS_NO_CONNECT	1610612738(0x60000002)	JMSS サーバに接続できません。
JMSS_NOGET_SERVERNAME	1610612739(0x60000003)	デフォルトの JMSS サーバ名が取得できません。JMSS インストールディレクトリにある JAPI.dll をロードしていないときに起きることがあります。
JMSS_SECURITY_NO_USE	1610612740(0x60000004)	現在のユーザに JMSS 利用権がありません。JMSS/JEnv で設定してください。
JMSS_SECURITY_NO_THROW	1610612741(0x60000005)	現在のユーザにジョブ投入権がありません。JMSS/JEnv で設定してください。
JMSS_SECURITY_NO_STOP	1610612742(0x60000006)	他ユーザ強制終了権を持っていないユーザが、他ユーザ投入ジョブを強制終了しようとした。
JMSS_QUEUE_NOTFOUND	1610612743(0x60000007)	ジョブキューが見つかりません。
JMSS_QUEUE_FULL	1610612744(0x60000008)	指定されたジョブキューはすでに最大登録ジョブ数分のジョブが登録されています。
JMSS_QUEUE_CLOSED	1610612745(0x60000009)	指定されたジョブキューは閉じられています。
JMSS_NO_JOB	1610612746(0x6000000A)	指定されたジョブ番号のジョブはありません。
JMSS_NOWATCH	1610612747(0x6000000B)	このジョブは監視されていません。
JMSS_TIMEOUT	1610612748(0x6000000C)	タイムアウトしました。

JMSS_NOT_ENOUGH_BUF	1610612749(0x6000000D)	指定された領域が不足しています。
JMSS_CANCEL	1610612750(0x6000000E)	[キャンセル]ボタンが選択されました。
JMSS_NO_TERMINATE	1610612752(0x60000010)	指定されたジョブの強制終了はできませんでした(すでに終了/強制終了/起動エラーとなっている可能性があります)。
JMSS_WSEML_JOB	1610612753(0x60000011)	このジョブは WS-EML 環境で起動されたジョブです。
JMSS_NO_SEND_EVENT	1610612754(0x60000012)	イベント送信に失敗しました。
JMSS_SECURITY_ERROR	1610612755(0x60000013)	セキュリティ情報の取得に失敗しました。
JMSS_NO_PAUSE	1610612756(0x60000014)	指定されたジョブの一時停止はできませんでした(すでに一時停止している可能性があります)。
JMSS_NO_RESTART	1610612757(0x60000015)	指定されたジョブの再開はできませんでした(すでに再開されている可能性があります)。
JMSS_NOT_JOBNET	1610612758(0x60000016)	指定されたジョブ番号のジョブはジョブネットワークではありません(指定したジョブが実行中の場合にのみ通知されます)。
JMSS_ERROR_NOGET_ENVIRONMENT	1610612759(0x60000017)	WS-EML 用の環境変数取得に失敗しました。
JMSS_NO_CHAILDJOB	1610612760(0x60000018)	派生ジョブがありません。
JMSS_PARENTJOB_TERMINATE	1610612761(0x60000019)	親ジョブが強制終了中です。
JMSS_POWEROFF_TERMINATE	1610612768(0x60000020)	電源切断処理中です。
JMSS_EXCLUSIVE_ERROR	1610612769(0x60000021)	排他待ちのため投入できませんでした。
JMSS_NOGET_PRODUCT_ID	1610612770(0x60000022)	JMSS の種別が判別できません。
JMSS_NOT_REPORT_EVENT	1610612771(0x60000023)	アラート(イベントログ)が出力できません。

JMSS_NOT_INSTALLED	1610612772(0x60000024)
JMSS が正常にインストールされていません。	
JMSS_NO_HOLD	1610612775(0x60000027)
ジョブを保留できません。	
JMSS_NO_RELEASE	1610612776(0x60000028)
ジョブを保留解除できません。	
JMSS_NO_DELETE	1610612777(0x60000029)
ジョブを登録削除できません。	
JMSS_OVERLAP_JOBNO	1610612784(0x60000030)
ジョブ番号が重複しています。	
JMSS_NO_STOP	1610612785(0x60000031)
ジョブを停止できません。	
JMSS_NO_CONTINUE	1610612786(0x60000032)
ジョブを継続できません。	
JMSS_SECURITY_NO_CONTROL	1610612787(0x60000033)
セキュリティ設定権がありません。	
JMSS_REJECT_REQUEST	1610612801 (0x60000041)
旧バージョンの JAPI.DLL は利用できません。	
本バージョンの JAPI.DLL を使用してください。	
JMSS_BADPATH	1610612802(0x60000042)
指定したパスの長さが規定値を超えています。	
JMSS_NO_JOBNO	1611661312(0x60100000)
指定されたジョブ番号のジョブは存在しません。	

7.2 その他定数

JAPI の各 API で使用するコード(定数)について説明します。
("0x"が付いている数値は 16 進数を表します。)

○JmssControlJob(_JmssControlJob)API で使用されます。

JMSS_CONTROL_TERMINATE	0	強制終了要求を行います。
JMSS_CONTROL_SUSPEND	1	実行中のジョブネットワークの一時停止を要求します。
JMSS_CONTROL_RESUME	2	一時停止中のジョブネットワークの再開を要求します。
JMSS_CONTROL_HOLD	4	ジョブの保留を要求します。
JMSS_CONTROL_RELEASE	5	保留ジョブの保留解除を要求します。
JMSS_CONTROL_DELETE	6	ジョブネット/繰り返しジョブの登録削除を要求します。
JMSS_CONTROL_STOP	7	実行中ジョブネット/繰り返しジョブの停止を要求します。
JMSS_CONTROL_CONTINUE	8	停止中ジョブネット/繰り返しジョブの継続を要求します。

○JmssGetChildJobList(_JmssGetChildJobList)API で指定する派生ジョブ状態に設定される値です。

JMSS_CONTROL_END	0x00000001	実行終了した派生ジョブを対象とします。
JMSS_CONTROL_RUN	0x00000010	実行中の派生ジョブを対象とします。
JMSS_CONTROL_QUE	0x00000100	実行待ち(起動中も含む)の派生ジョブを対象とします。

○JmssGetJobStatusEx(_JmssGetJobStatusEx)API で取得したジョブ種別に設定される値です。

JMSS_JOBTYPE_BAT	1	バッチファイルです。
JMSS_JOBTYPE_EXE32	2	32 ビットアプリケーションです。
JMSS_JOBTYPE_EXE16	3	16 ビットアプリケーションです。
JMSS_JOBTYPE_EXEDOS	4	DOS アプリケーションです。
JMSS_JOBTYPE_JNT	5	ジョブネットワークです。
JMSS_JOBTYPE_COM	6	COM ファイルです。
JMSS_JOBTYPE_CMD	7	CMD ファイルです。
JMSS_JOBTYPE_PIF	8	PIF ファイルです(未サポート)。
JMSS_JOBTYPE_OS2	9	OS2 アプリケーションです。
JMSS_JOBTYPE_POSIX	10	POSIX アプリケーションです。
JMSS_JOBTYPE_UNKNOWN	255	不明です。
JMSS_JOBTYPE_STDOUT_APEND	0x00000400	標準出力監視ファイルは追加モードです。
JMSS_JOBTYPE_STDOUT_USERFILE	0x00000800	標準出力監視ファイルはユーザ指定ファイルです。
JMSS_JOBTYPE_STDOUT	0x00001000	標準出力監視をしています。
JMSS_JOBTYPE_CONTRINUE	0x00002000	継続実行しているジョブネットワークです。
JMSS_JOBTYPE_REPEAT	0x00004000	スケジュール繰り返し実行指定されています。
JMSS_JOBTYPE_SCHEDULE	0x00008000	スケジュール実行されています。

○JmssGetJobStatusEx(_JmssGetJobStatusEx)API で取得したジョブ情報のジョブ実行状態に設定される値です。

JMSS_JOBSTATUS_RUN	0	このジョブは現在実行中です。
JMSS_JOBSTATUS_FINISH	1	このジョブは終了しています。
JMSS_JOBSTATUS_TERM	2	このジョブは強制終了されています。
JMSS_JOBSTATUS_ERROR	3	このジョブは起動エラーとなっています。
JMSS_JOBSTATUS_EVENT_REC	4	このジョブはイベント待ち状態です。
JMSS_JOBSTATUS_PAUSE	5	このジョブは一時停止されています。
JMSS_JOBSTATUS_EVENT_SEND	6	このジョブはイベント送信を完了しています。
JMSS_JOBSTATUS_WAIT	7	このジョブは実行待ちとなっています。
JMSS_JOBSTATUS_PENDING	8	このジョブは保留状態となっています。
JMSS_JOBSTATUS_EXECUTE	9	このジョブは現在起動中です。
JMSS_JOBSTATUS_EXCLUSIVE	10	このジョブは排他制御待ちです。
JMSS_JOBSTATUS_RETRY	11	このジョブは起動リトライ中です。
JMSS_JOBSTATUS_CHILDJOBRETRY	12	このジョブは派生ジョブが起動リトライ中です。
JMSS_JOBSTATUS_STOP	13	このジョブは停止しています。
JMSS_JOBSTATUS_STOPPING	14	このジョブは停止中です。
JMSS_JOBSTATUS_JOBBOXRETRY	15	このジョブはジョブボックスリトライ中です。
JMSS_JOBSTATUS_UNKNOWN	127	このジョブの状態は不明です。 (ジョブ実行中に JLook サービスが予期せぬ終了をしました)。

○JmssThrowJobEx(_JmssThrowJobEx)API で使用するジョブ投入情報のジョブ優先順位に設定する値です。または、JmssGetJobStatusEx(_JmssGetJobStatusEx)API で取得したジョブ情報のジョブ優先順位に設定される値です。

JMSS_PRIORITY_REAL	0	最高の優先順位でジョブを実行します。
JMSS_PRIORITY_HIGH	1	他のジョブより優先して速やかに実行します。
JMSS_PRIORITY_NORMAL	2	システム標準の優先順位でジョブを実行します。
JMSS_PRIORITY_IDLE	3	システムがアイドル状態の時だけジョブを実行します。

○JmssThrowJobEx(_JmssThrowJobEx)API で使用するジョブ投入情報の標準出力監視フラグに設定する値です。

JMSS_STDOUT_NOWATCH	0	標準出力監視をしません。
JMSS_STDOUT_SYSTEM_OVERWRITE	1	システム上書きモードで監視します。
JMSS_STDOUT_SYSTEM_APEND	2	システム追加モードで監視します。
JMSS_STDOUT_USER_OVERWRITE	3	ユーザ指定ファイル上書きモードで監視します。
JMSS_STDOUT_USER_APEND	4	ユーザ指定ファイル追加モードで監視します。

○JmssThrowJobEx(_JmssThrowJobEx)API で使用するジョブ終了通知に設定する値です。

JMSS_SEND_NO	0	通知しません。
JMSS_SEND_MACHINE	2	マシン単位で通知します。

○JmssGetJobStatusEx(_JmssGetJobStatusEx)API で取得したジョブ情報の派生ジョブ有無 ID に設定される値です。

JMSS_NOEXIST_DERIVE_JOB	0	派生ジョブはありません。
JMSS_EXIST_DERIVE_JOB	1	派生ジョブがあります。

○JmssGetJobQueue(_JmssGetJobQueue)APIで取得したジョブキュー情報のジョブキューの状態に設定される値です。

JMSS_JOBQUECOND_OPEN	0	ジョブキューは開いています。
JMSS_JOBQUECOND_CLOSE	1	ジョブキューは閉じています。

○JmssGetJobQueue(_JmssGetJobQueue)APIで取得したジョブキュー情報のジョブキューへの登録状態に設定される値です。

JMSS_JOBQUEENTSTS_NOMAL	0	登録可能ジョブ数の 90% 未満です。
JMSS_JOBQUEENTSTS_WARNING	1	登録可能ジョブ数の 90% 以上です。
JMSS_JOBQUEENTSTS_ERROR	2	登録可能ジョブ数に達しています。

○JmssReportEvent(_JmssReportEvent)API で使用されます

JMSS_JALT_MODE_MANAGER	0x10000	ESMPRO マネージャに通報します。
JMSS_JALT_MODE_PAGER	0x20000	ESMPRO ページャに通報します。

○JmssReportEvent(_JmssReportEvent)API で使用されます

JMSS_JALT_TYPE_INFORMATION	0	情報レベルで通報します。
JMSS_JALT_TYPE_WARNING	1	警告レベルで通報します。
JMSS_JALT_TYPE_ERROR	2	エラーレベルで通報します。

○JmssThrowJobEx(_JmssThrowJobEx)API で使用するジョブ起動方式に設定する値です。または、JmssGetJobStatusEx(_JmssGetJobStatusEx)API で取得したジョブ起動方式に設定される値です。

JMSS_EXECTYPE_NONE	0x0000	指定しません(JMSS/JEnv の「ジョブ起動方式」の設定にてジョブが起動されます)。または、ジョブが起動していません。
JMSS_EXECTYPE_SERVICE	0x0001	JLook サービスのアカウントでジョブが起動されます。
JMSS_EXECTYPE_LOGON	0x0002	JMSS/JD(JDAdmin)を起動したユーザでジョブが起動されます。

第 8 章 互換性留意事項

8.1 旧バージョンの開発キット JAPI との互換

JMSS Ver 2.0 ～ 4.0 開発キット JAPI を使用して作成したユーザアプリケーションは、ジョブキュー参照 API を除き、そのまま JMSS Ver7.1 上で使用することができます。

ただし、開発キット JAPI Ver7.1 の JAPI.DLL を使用してください。

ジョブキュー参照 API を使用するには、Ver7.1 の開発環境で再ビルドを行う必要があります。

JMSS Ver 5.0, 6.0, 7.0 開発キット JAPI を使用して作成したユーザアプリケーションは、そのまま JMSS Ver7.1 上で使用することができます。

ただし、開発キット JAPI Ver7.1 の JAPI.DLL を使用してください。

JMSS Ver 6.0,7.0 開発キット JAPI を使用して作成した、Visual Basic .NET/Visual C# .NET ユーザアプリケーションを利用するには、開発キット JAPI Ver7.1 の JapiDotNet.Interop.dll を使用してください。

JMSS Ver7.1 開発キット JAPI 以前の JAPI を使用して作成したユーザアプリケーションで「JmssThrowJob(_JmssThrowJob)」API、「JmssGetJobStatus(_JmssGetJobStatus)」API、「JmssSendEvent(_JmssSendEven)」API を使用している場合、開発キット JAPI Ver 7.1 の開発環境での再ビルドはそのまま行えます。(API を変更する必要はありません。)

なお、JMSS Ver 7.1 開発キット JAPI を使用して作成したユーザアプリケーションは旧バージョンの JMSS では使用することができません。

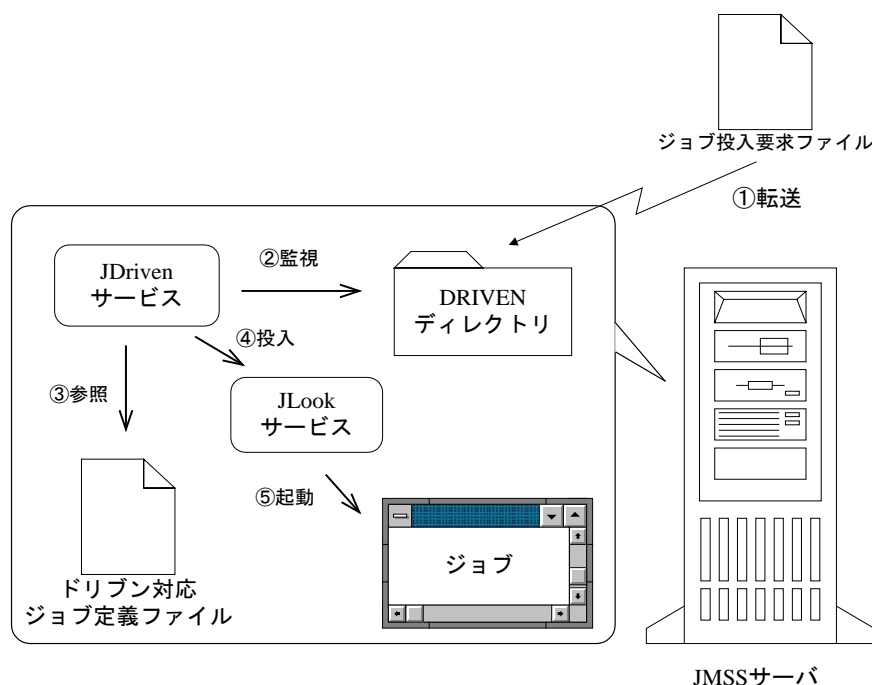
第9章 ホスト連携機能

9.1 ホスト連携機能とは

ホスト連携機能は、JMSS サーバにジョブ投入要求ファイルを転送することにより、あらかじめ定義しておいたジョブを投入することができる機能です。

9.2 ホストからのジョブ投入要求処理の概要

JAPI をインストールすると、ホスト連携サービス(JMSS JDriven Service)がインストールされます。このサービスは、ファイル転送があったかどうかを監視し、転送されたファイルがあった場合には、それに対応したジョブを投入します。



- ①ファイル転送:ホストから **DRIVEN** ディレクトリにファイルを転送します。
- ②監視:**DRIVEN** ディレクトリを監視し、ファイルが転送されたらファイル名と内容を参照します。
- ③参照:転送されたファイル名に対応したジョブ情報を **DRVJOB.INI** ファイルから参照します
- ④投入:参照したジョブ情報にしたがってジョブ投入要求を行います。
- ⑤起動:投入要求を受け取った **JLook** サービスは対応するジョブを起動します。

9.3 投入要求の準備

ジョブ投入要求を行うには、ジョブ投入要求ファイルとドリブン対応ジョブ定義ファイル(いずれもテキスト形式)を設定する必要があります。

また、ジョブ投入要求は、ドリブン ID という ID で管理します。投入するジョブそれぞれに、英数字4文字以内(英字は大文字のみ)の ID を付与してください。

① ドリブン対応ジョブ定義ファイル(drvjob.ini)

ドリブン対応ジョブ定義ファイル(drvjob.ini)に、投入するジョブの設定をドリブン ID 毎に設定します。drvjob.ini は、JMSS インストールディレクトリの下にあります。

drvjob.ini は、全体の情報を指定する[GLOBAL]セクション(全体で1つ)と、各ドリブンに対応したジョブを定義する[ドリブン ID]セクション(投入するジョブごとに定義)で構成されています。

[GLOBAL]

USERNAME=*username*

投入元ユーザ名を指定します。省略すると、JDriven サービス起動時のユーザ名(通常は SYSTEM)となります。各ドリブン対応ジョブ定義セクションで投入元ユーザ名が指定されている場合は、そちらが優先されます。

WSNAME=*wsname*

投入元マシン名を指定します。省略すると、JMSS サーバのマシン名となります。各ドリブン対応ジョブ定義セクションで投入元マシン名が指定されている場合は、そちらが優先されます。

[ドリブン ID]

JOBFILE=*jobfile*

ジョブファイル名を指定します。(必須)

TITLE=*title*

業務名(半角 32 文字まで)を指定します。省略すると、ジョブファイル名からパスと拡張子を除いた名前となります。

DIRECTORY=*directory*

実行時ディレクトリを指定します。省略すると、JMSS インストールディレクトリとなります。

OUTPUT=*output*

標準出力監視オプションを数値で指定します。省略すると、0 となります。

- 0: 監視しない
- 1: 監視する(システムファイル上書きモード)
- 2: 監視する(システムファイル追加モード)
- 3: 監視する(ファイル指定上書きモード)
- 4: 監視する(ファイル指定追加モード)

OUTPUTFILE=*outputfile*

OUTPUT に 3 または 4 を指定した場合、標準出力保存先ファイル名を指定します。

LIMIT=*limit*

実行経過時間タイムアウトを分単位で指定します。

REPORT=*report*

ジョブ終了通知を指定します。

- 0: 通知する
- 1: 通知しない

PRIORITY=*priority*

優先順位を指定します。省略すると、2 となります。

- 0=REAL
- 1=HIGH
- 2=NORMAL
- 3=IDLE

QUEUE=*queue*

投入先キュー名を指定します。省略すると、JMSS サーバのデフォルトキューとなります。

USERNAME=*username*

投入元ユーザ名を指定します。省略すると、GLOBAL セクションに設定されているユーザ名となります。

WSNAME=*wsname*

投入元マシン名を指定します。省略すると、GLOBAL セクションに設定されているマシン名となります。

EXECTYPE=*exectype*

ジョブ起動方式を指定します。省略すると、0 となります。

0=指定しない(JMSS/JEnv の「ジョブ起動方式」の設定にて起動)

1=JLook サービスのアカウントで起動

2= JMSS/JD (JDAdmin) を起動したユーザで起動

[ドリブンID]

: (次のドリブンについて定義)

:

※同じドリブンIDが複数設定されていた場合は、ファイルの先頭に近い方の設定が参照されます
※先頭に”;”(セミコロン)がついた行はコメント行となります。

②ジョブ投入要求ファイル

ドリブンIDをファイル名とするファイル(拡張子なし)を作成し、投入するジョブのパラメータを記述します。

パラメータ← ファイルの1行目にパラメータを指定してください。

//EOF ← ファイル終了文字列(この行は必ずファイルの最後に指定してください。前後にスペースを入れないでください。)

※パラメータは省略可能です。省略する場合は、1行目に「//EOF」を記述してください。

9.4 ホストからのジョブ投入要求方法

ジョブ投入要求ファイルを、JMSS インストールディレクトリ下の DRIVEN サブディレクトリに転送すると、ファイル名と同じドリブンIDに対応したジョブが起動されます。

ジョブが投入されると、ジョブ投入要求ファイルは DRIVEN サブディレクトリから削除されます。ファイル転送が途中で失敗した等、「//EOF」の行がないファイルが DRIVEN ディレクトリに作成された場合は、エクスプローラ等で削除してください。

**ESMPRO®/JMSS® Ver7.1
開発キット JAPI
ユーザーズマニュアル**

2009年 1月 初版
2013年 3月 2版
2017年 5月 3版

日本電気株式会社

東京都港区芝五丁目7番1号
TEL(03)3454-1111(大代表)

開発 NECソリューションイノベータ株式会社

東京都江東区新木場1-18-7
TEL(03)5534-2222(大代表)

(C)NEC Corporation 1995-2017

日本電気株式会社の許可なく複製・改編などを行うことはできません。
本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。